



スノボ旅行で 友人のSEXを 覗いた話

漫画: 鹿こぶちゃ
原作: ひつじ子

|| Hなエッセイ ||
シリーズ



大学生の冬――

私は大学の同級生の
レナに誘われて、

泊まりで
スノーボードに
来ていた



レナは、
彼氏との情事を

恥ずかしげもなく
話すような
奔放な性格で、

デートする相手が
何人もいる

色気のある子
だった

も→

スノボには、もう1人の
同級生・アヤミと、

レナの友人で
他大学のマサキ

その友達の
ケイタと

カイトが
来ていた

男の子たちとは
初対面

つまり

スノボの
名を借りた合コンの
ようなものだった



みんなは、何度も
スノボに来ているらしく
上手だったが、

ちよっと
滑ってくる

すぐ戻るね

ひや

私は1人
苦戦していた…

…っ…

マイちゃん下手だなー

ざっ



そんな私に、

ケイタは
からかいながらも

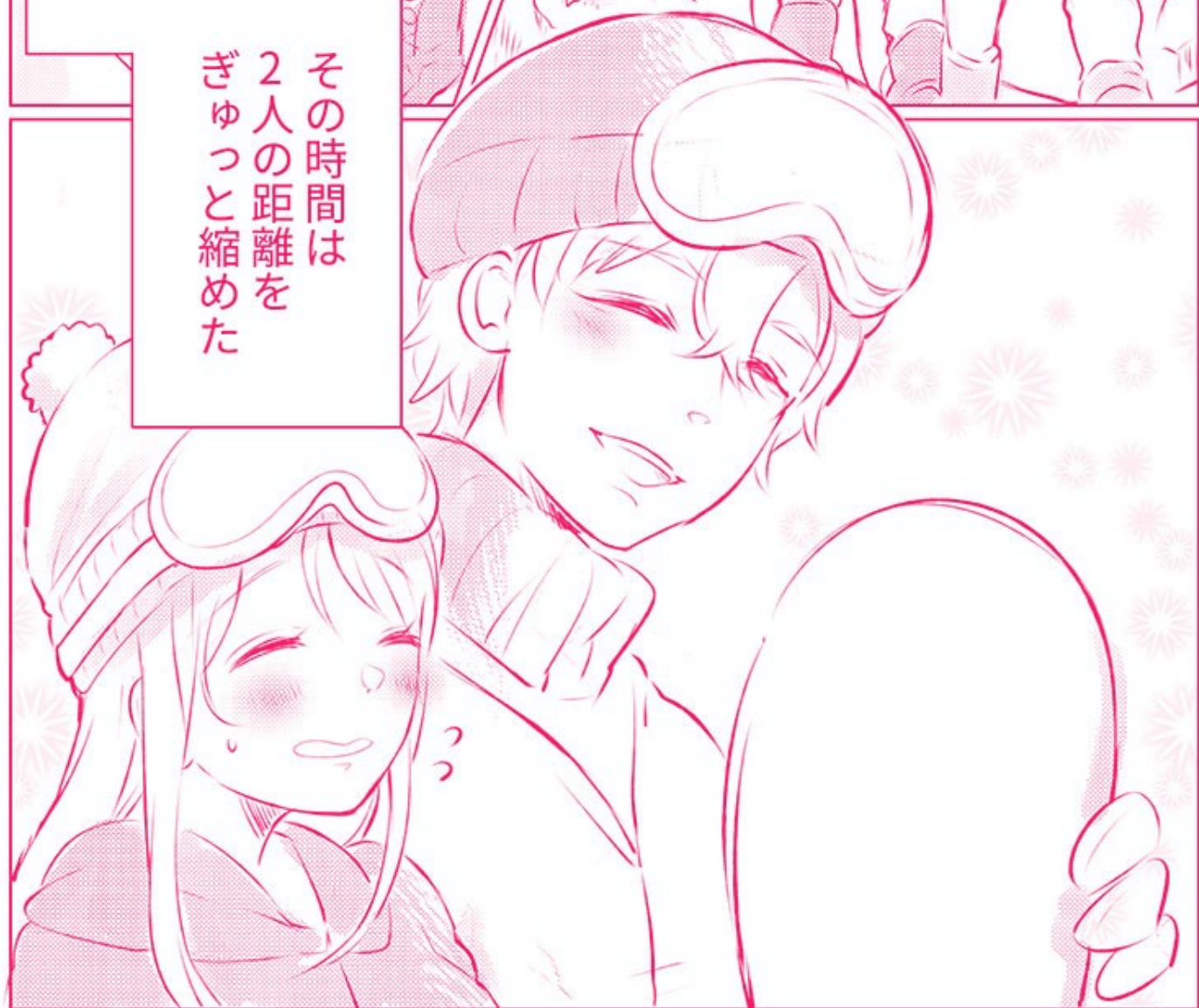
手を差し伸べてくれた

リフトが苦手な私のために、

ケイタは
隣に座ってくれて

降りるときは、
必ず支えて
くれた

その時間は
2人の距離を
ぎゅっと縮めた



古い言葉だけど
ゲレンデマジック
とはよく言った
もので…

颯爽と雪山を滑る
男の子たちは、

とてもかっこよく見える

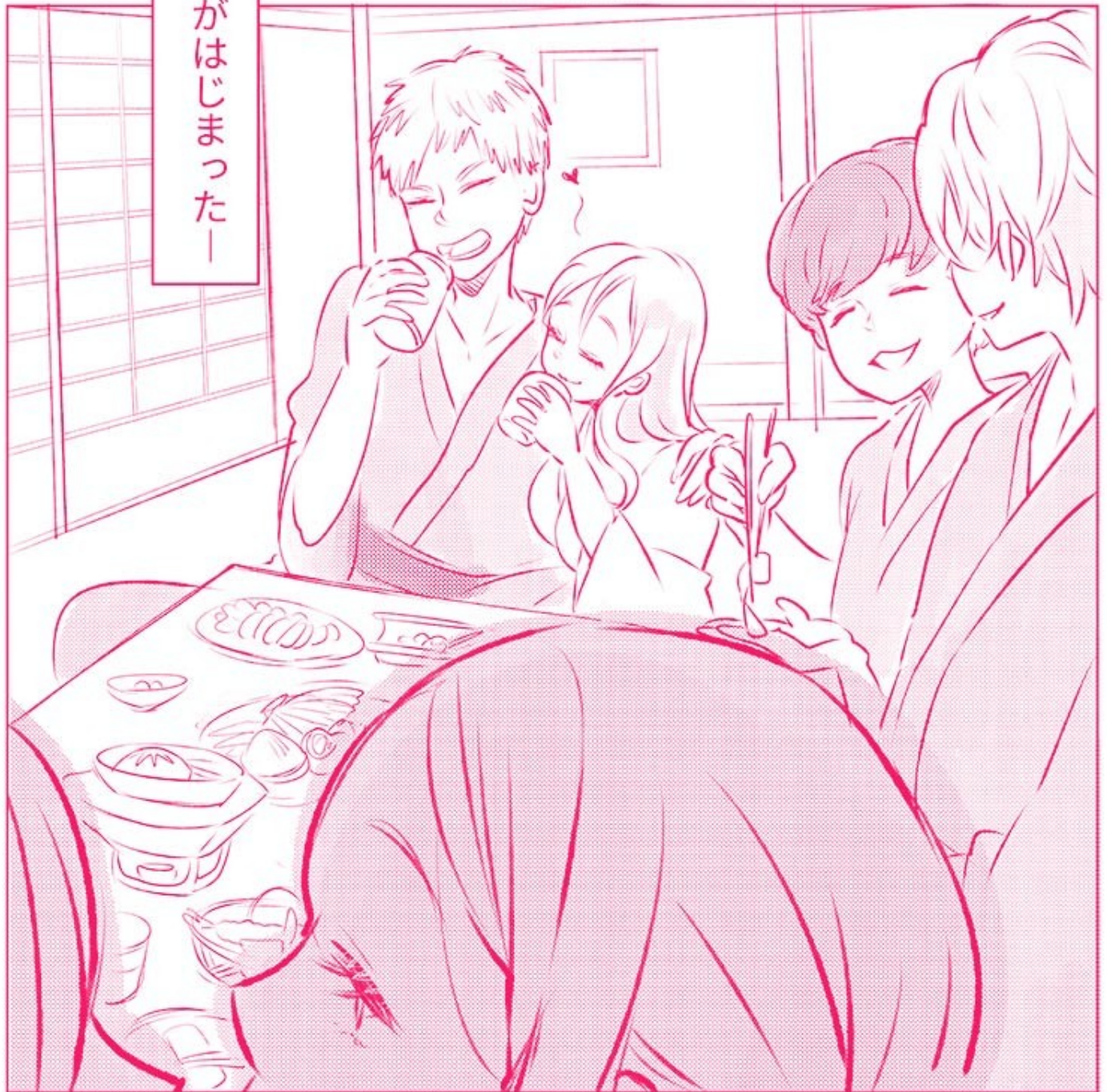
いつのまにか私は、
ケイタの姿を
目で追っていた

ザザザザ

夜

みんなで旅館の
一部屋に集まり、

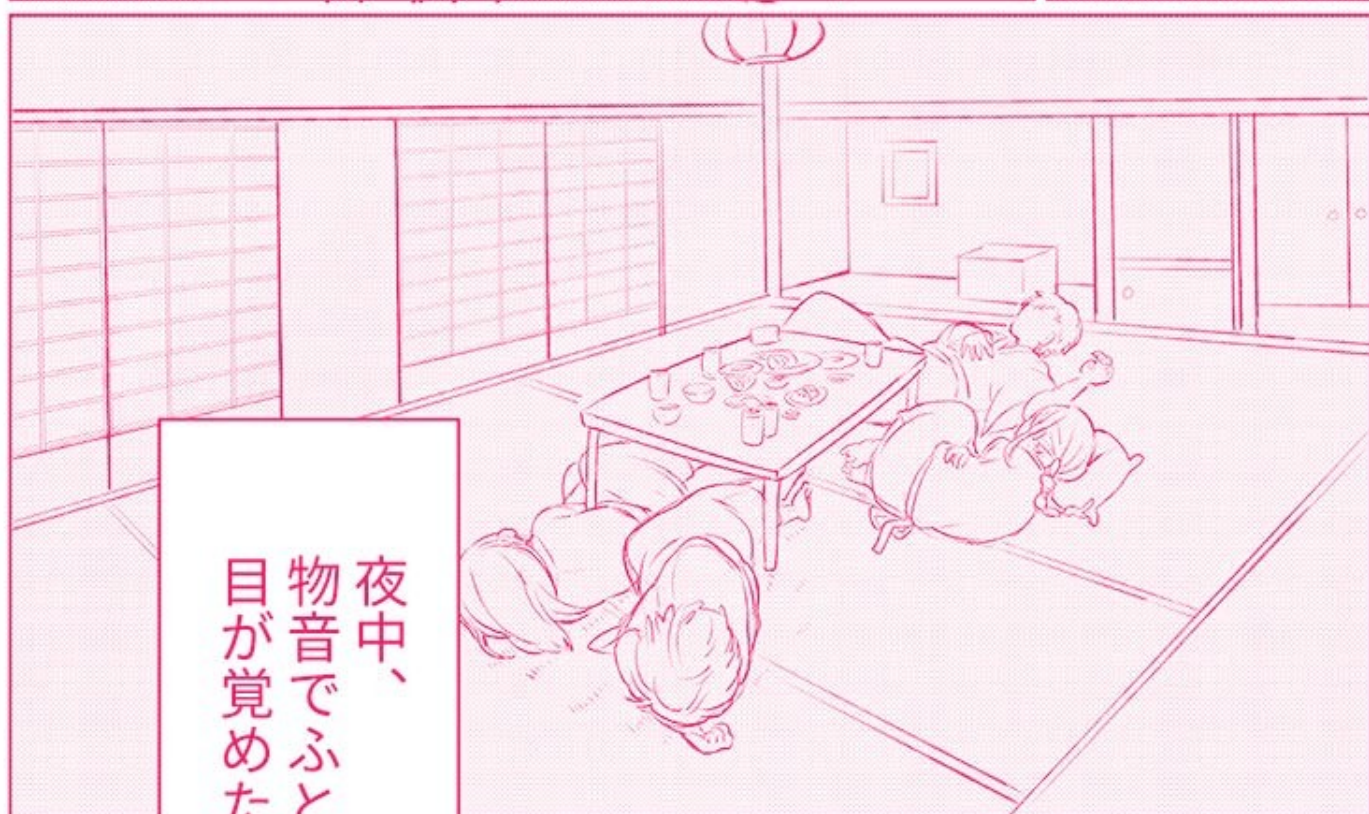
宴会が始まったー





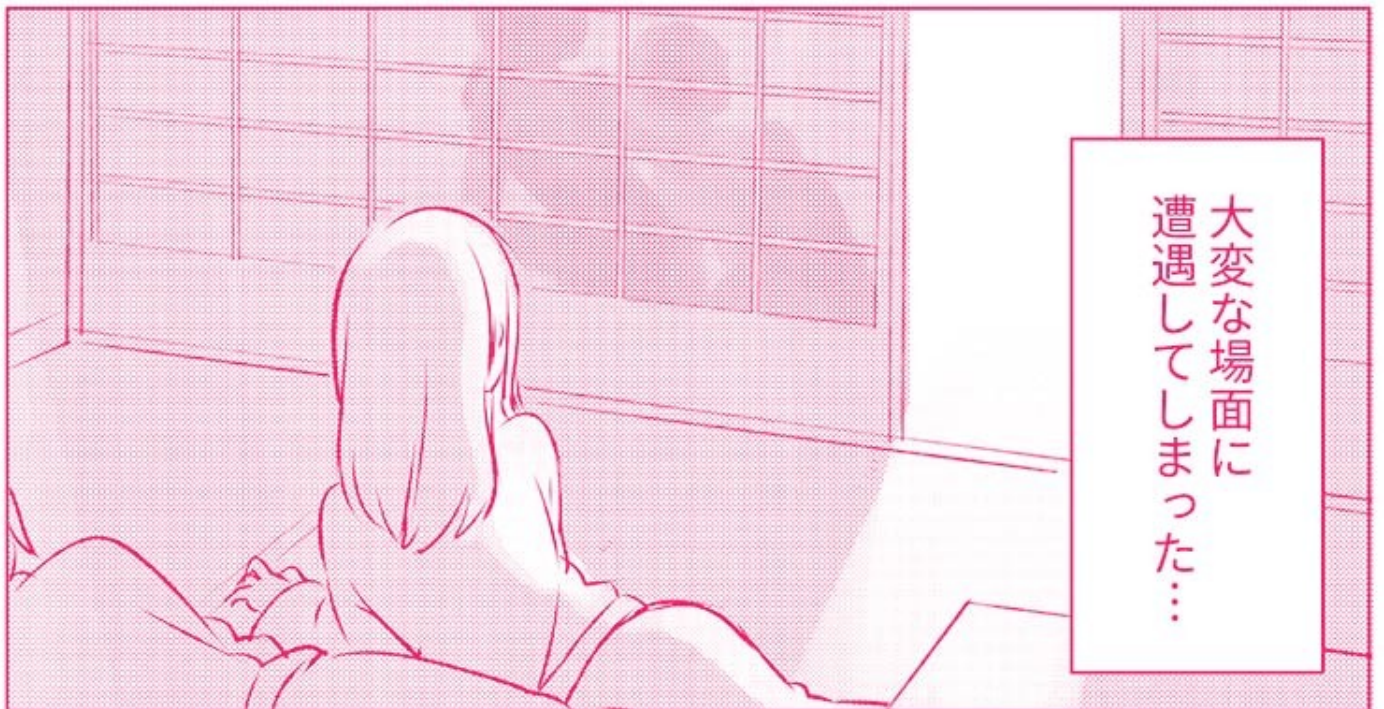
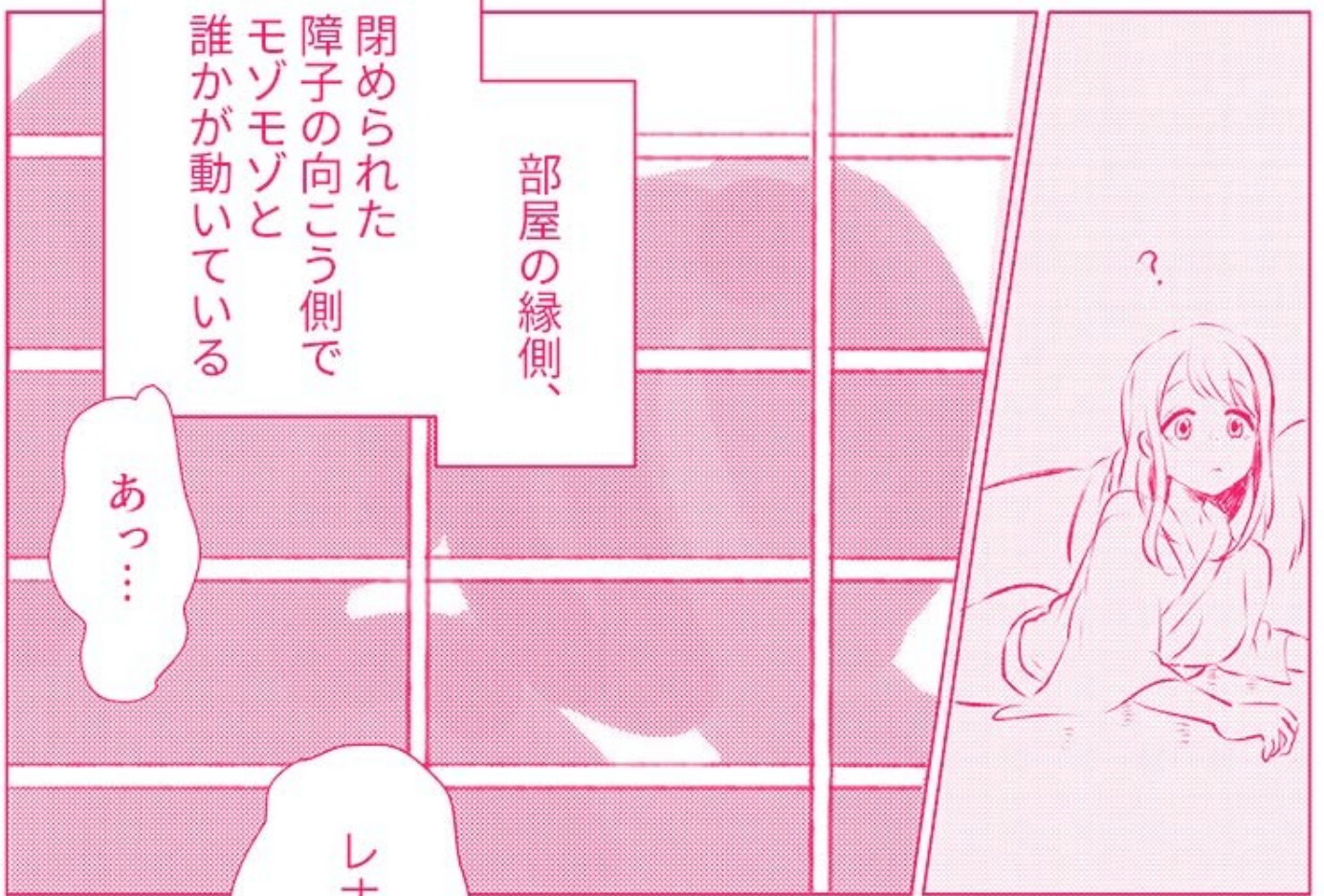
しかし、
スノボの疲れで、

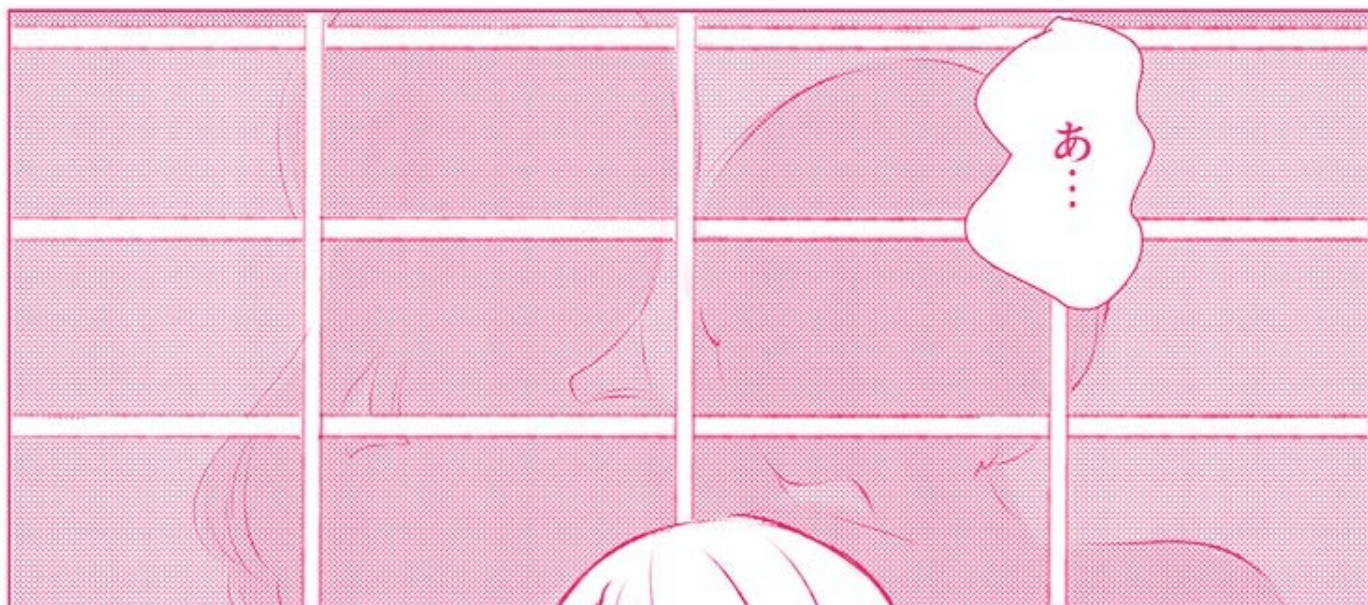
みんなあっという間に
雑魚寝してしまった

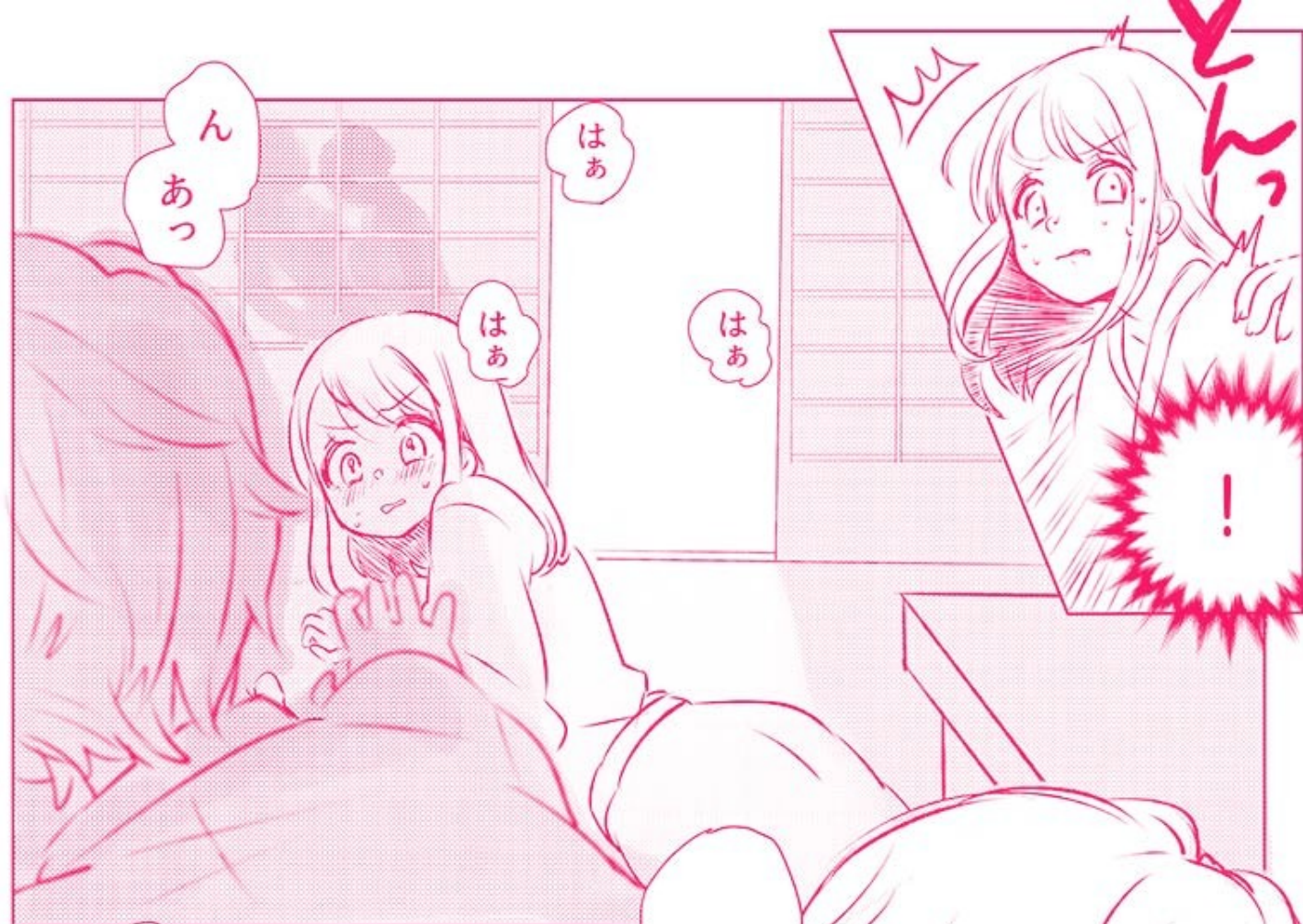


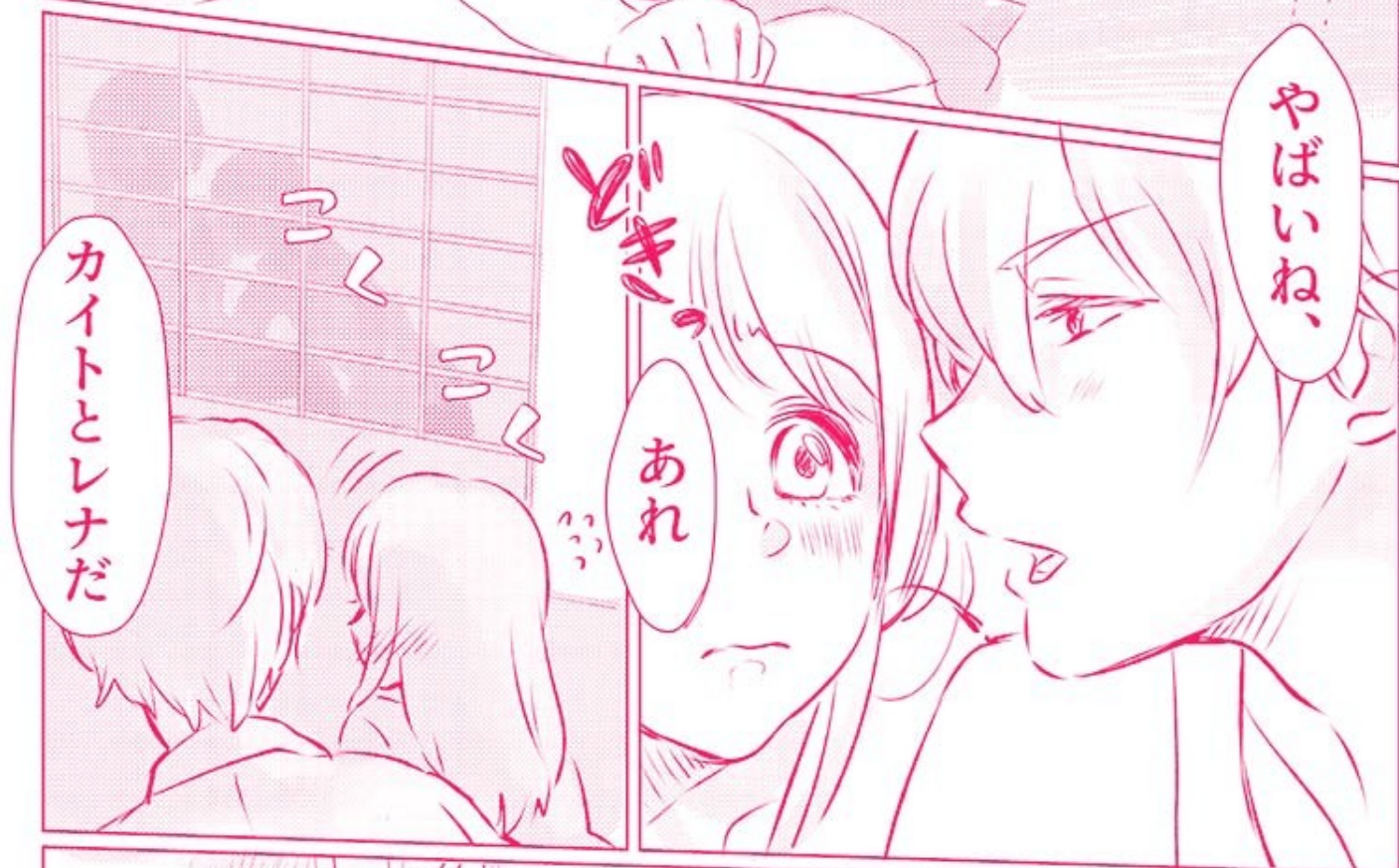
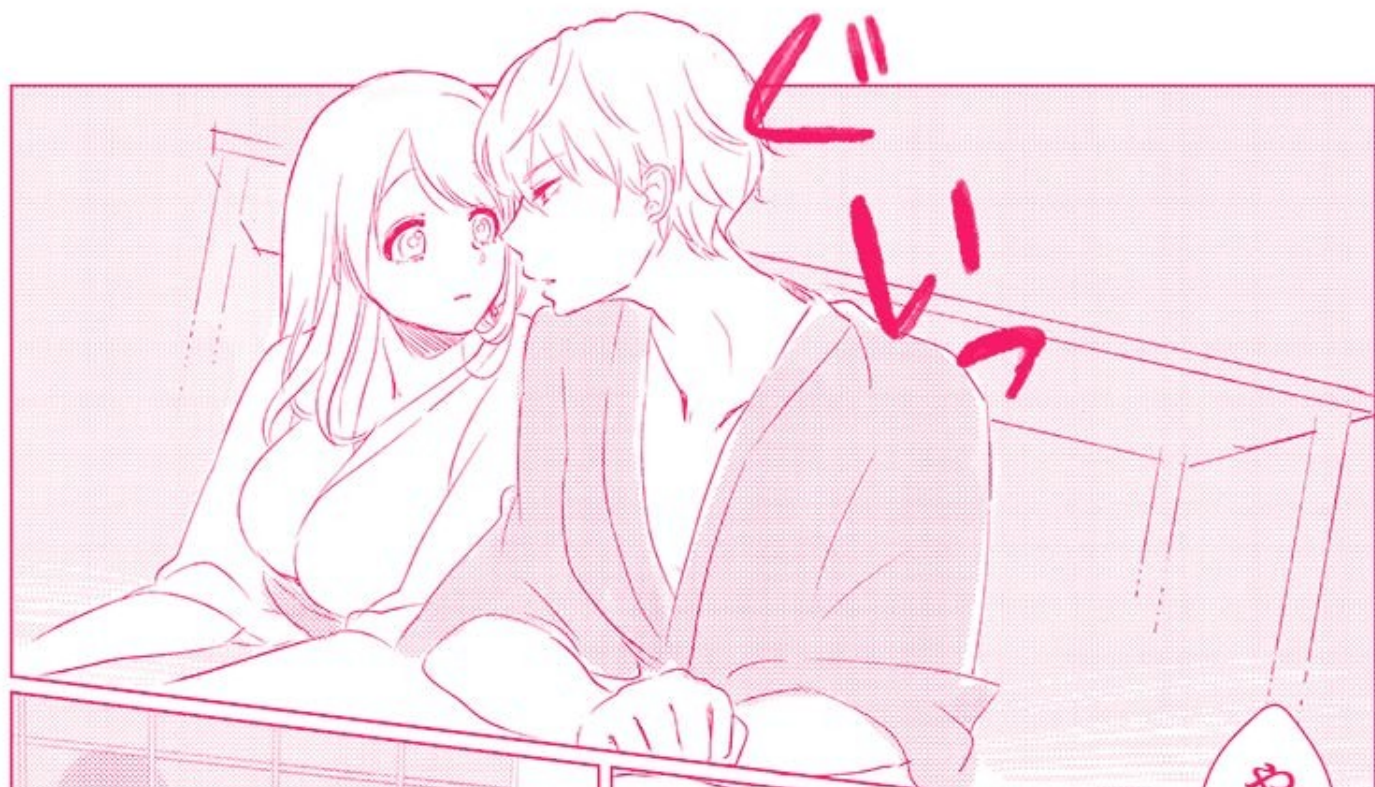
夜中、
物音でふと
目が覚めた…



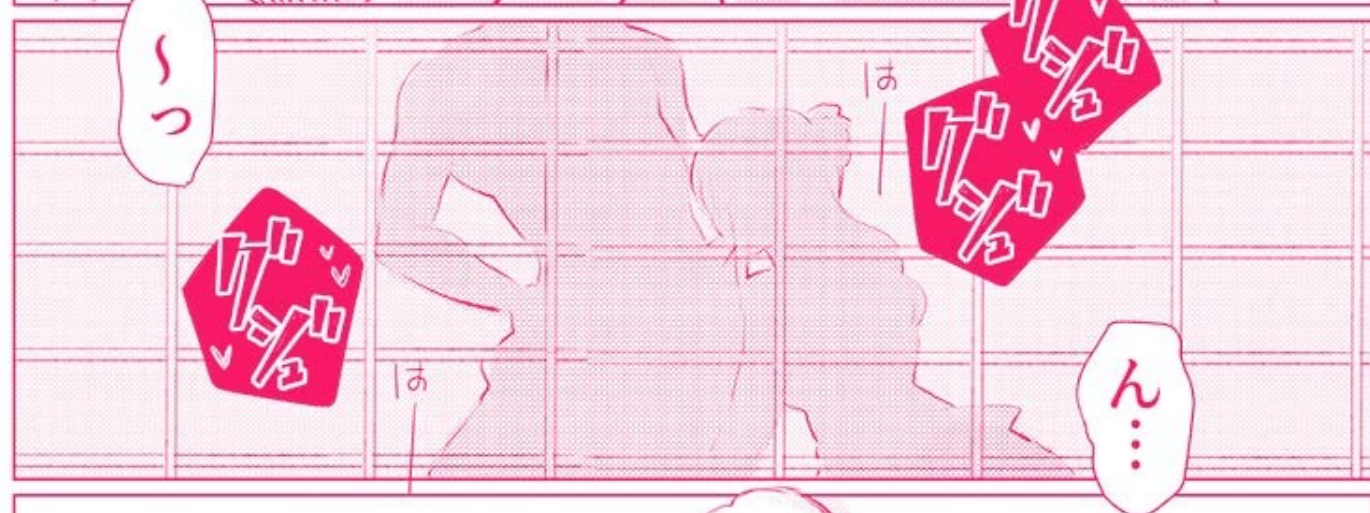
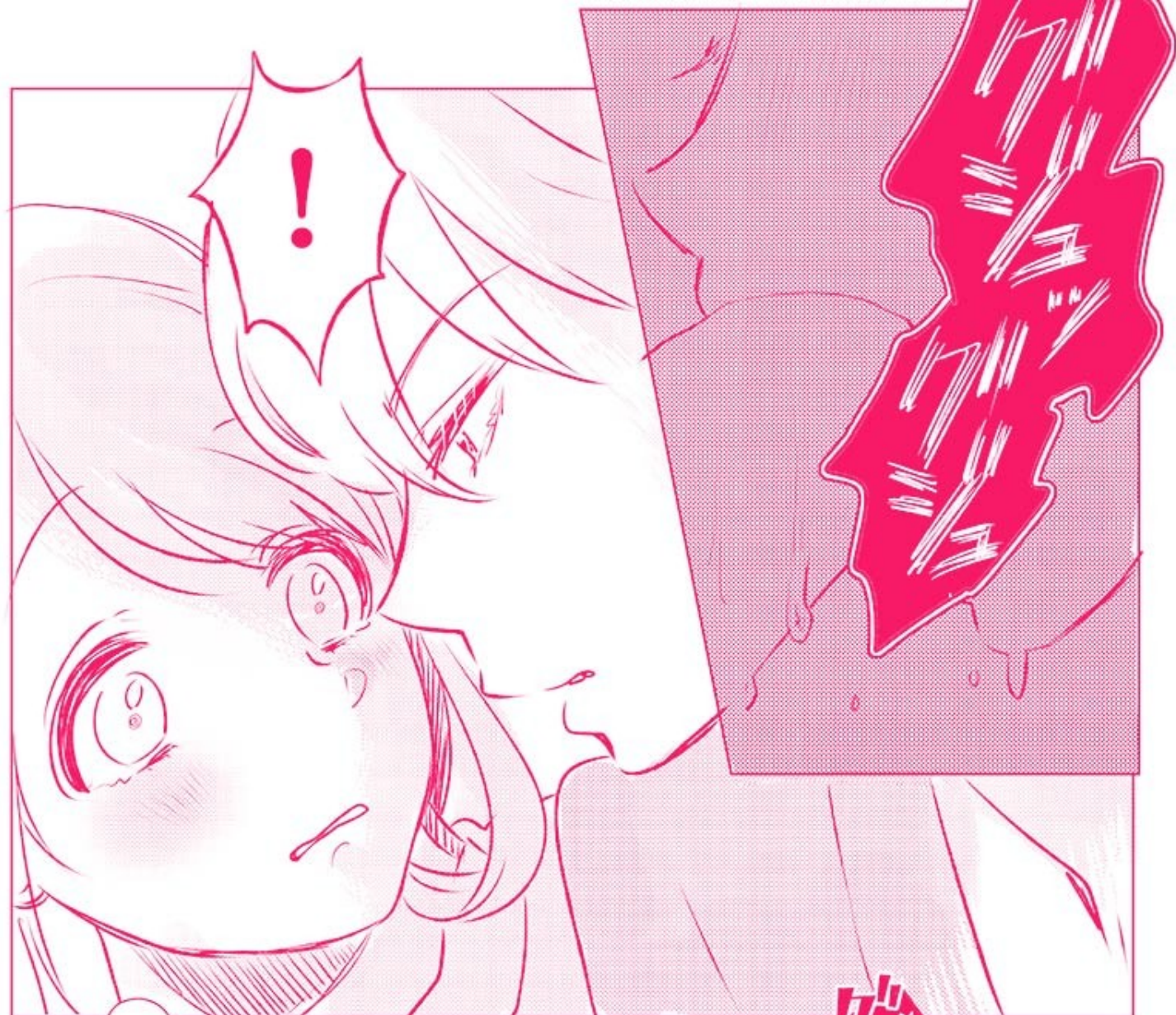


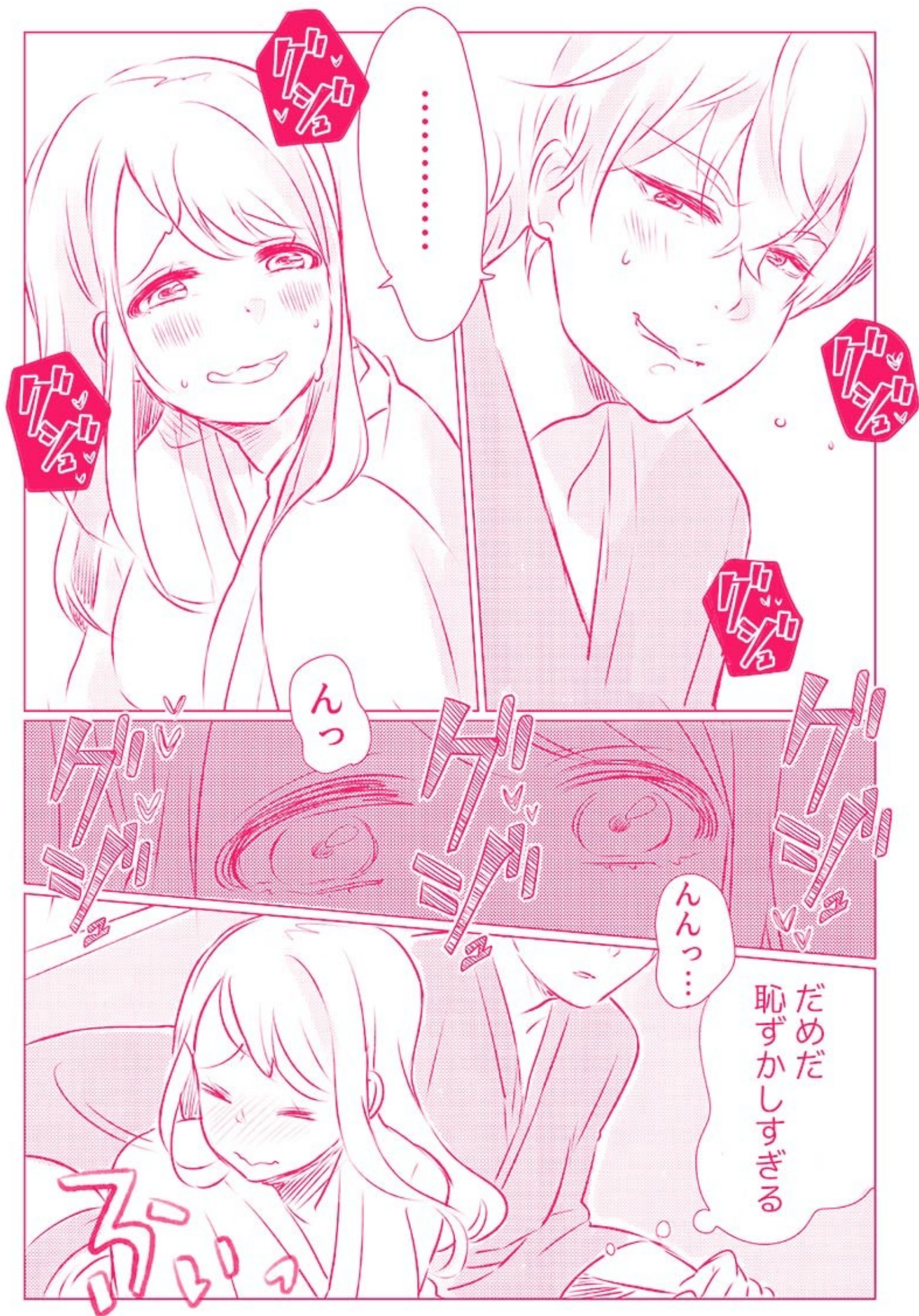


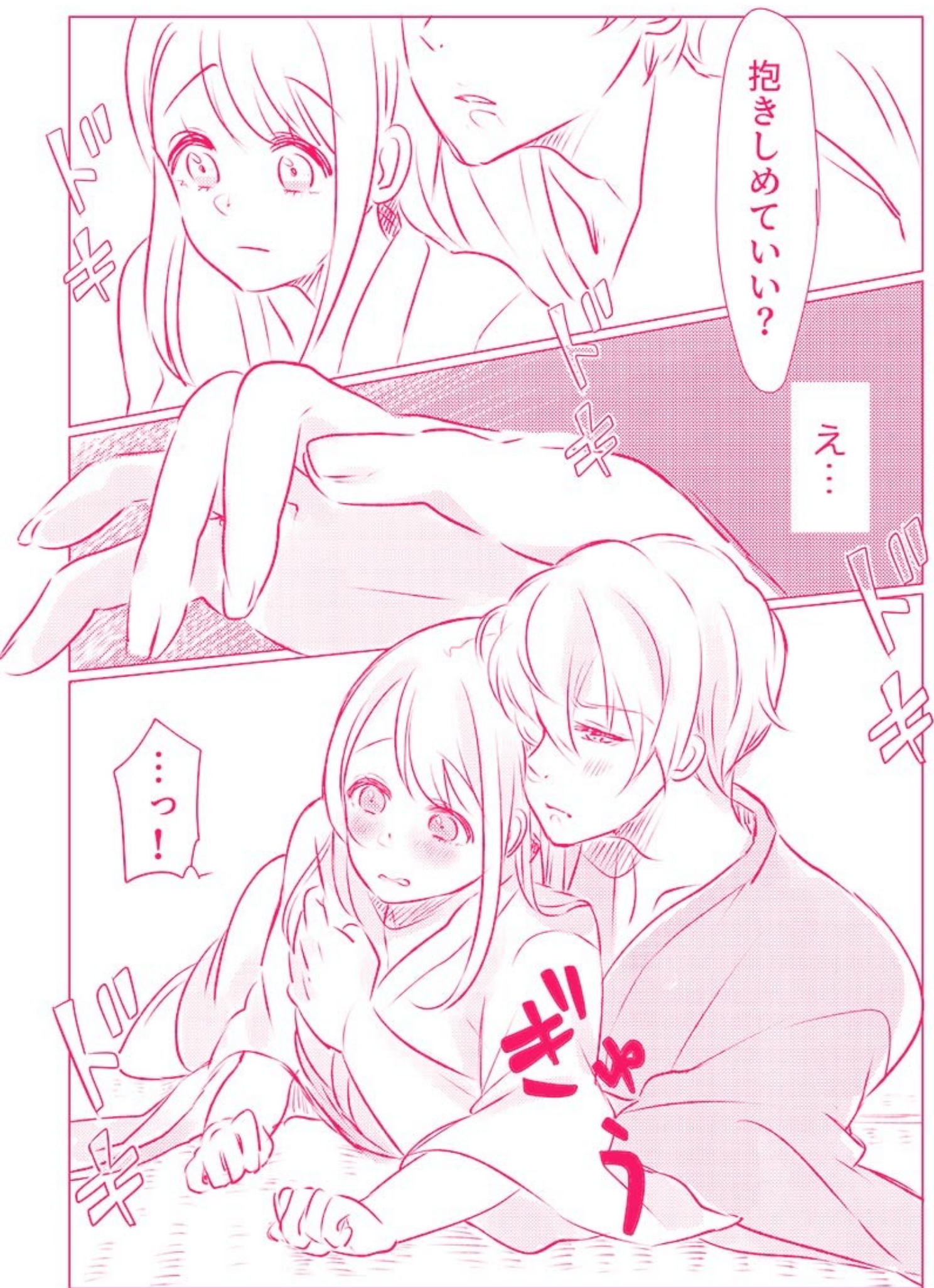












抱きしめていい？

え…

…っ！

ギュー

あれが
マイちゃんだったら

嫉妬してた

じつは私も、

あの障子の先にいる
のがケイタだったら…

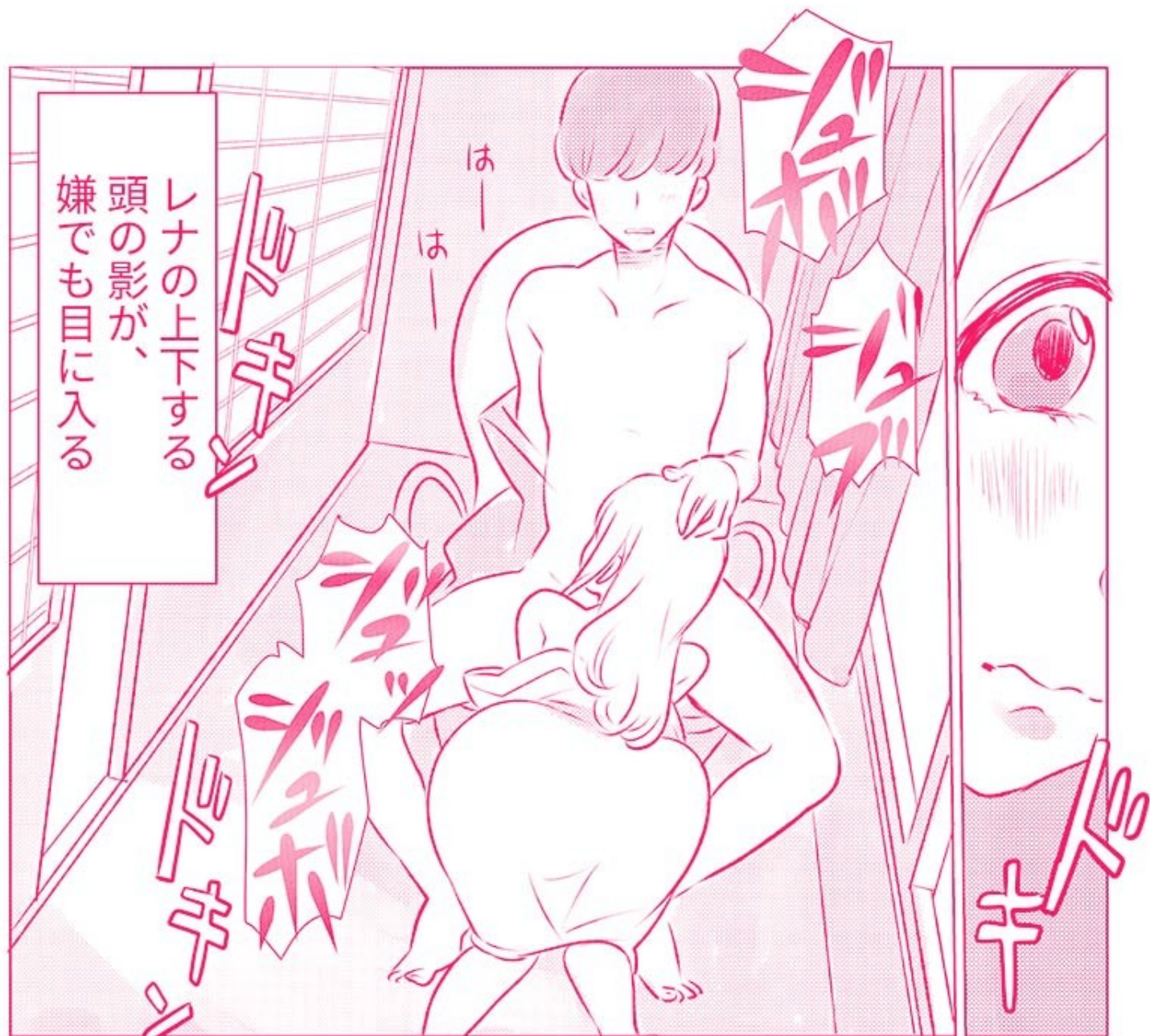
シヨック
だった

きゅん

ビ
ク

ぎゅ







なんか
寂しくなっちゃって…

脱がせないって
約束するから、
少しだけ…いい？

ゴクリ

切なげな言い方に、
ケイタの腕から手を離した

細く長い指が
浴衣の中に入ってくる



ブラジャーの上から
優しく胸を包み込む、
その温度が心地よい

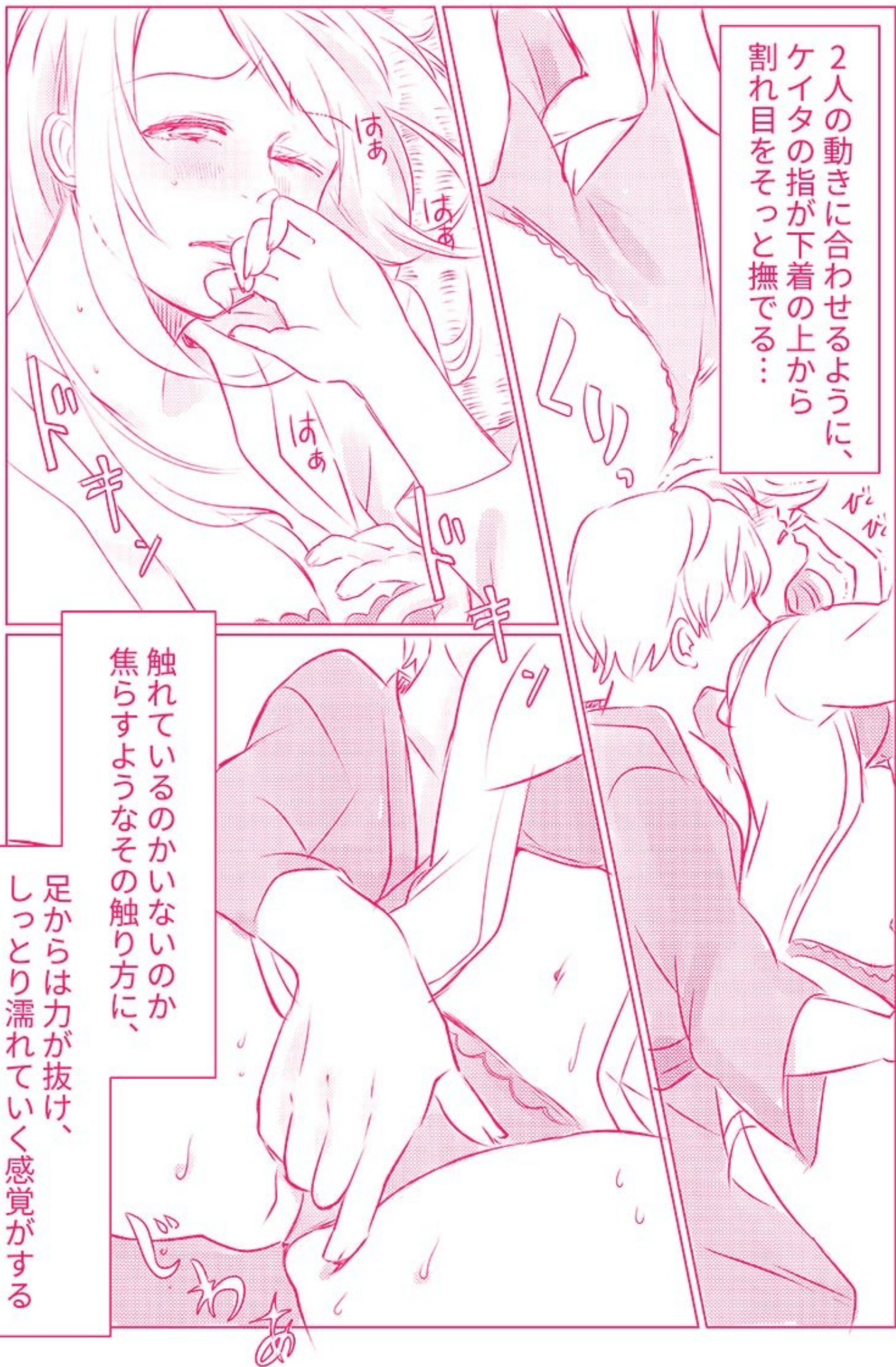
はだけた浴衣の隙間から
足の付け根に伸びてくる

思わず力が入るが、
首筋に優しいキスをされて
ほだされてしまう

んっ



2人の動きに合わせるように、
ケイタの指が下着の上から
割れ目をそっと撫でる…



触れているのかいないのか
焦らすようなその触り方に、

足からは力が抜け、
しっとり濡れていく感覚がする



私の反応を
楽しむかのように…



ケイタは
ゆっくり優しく

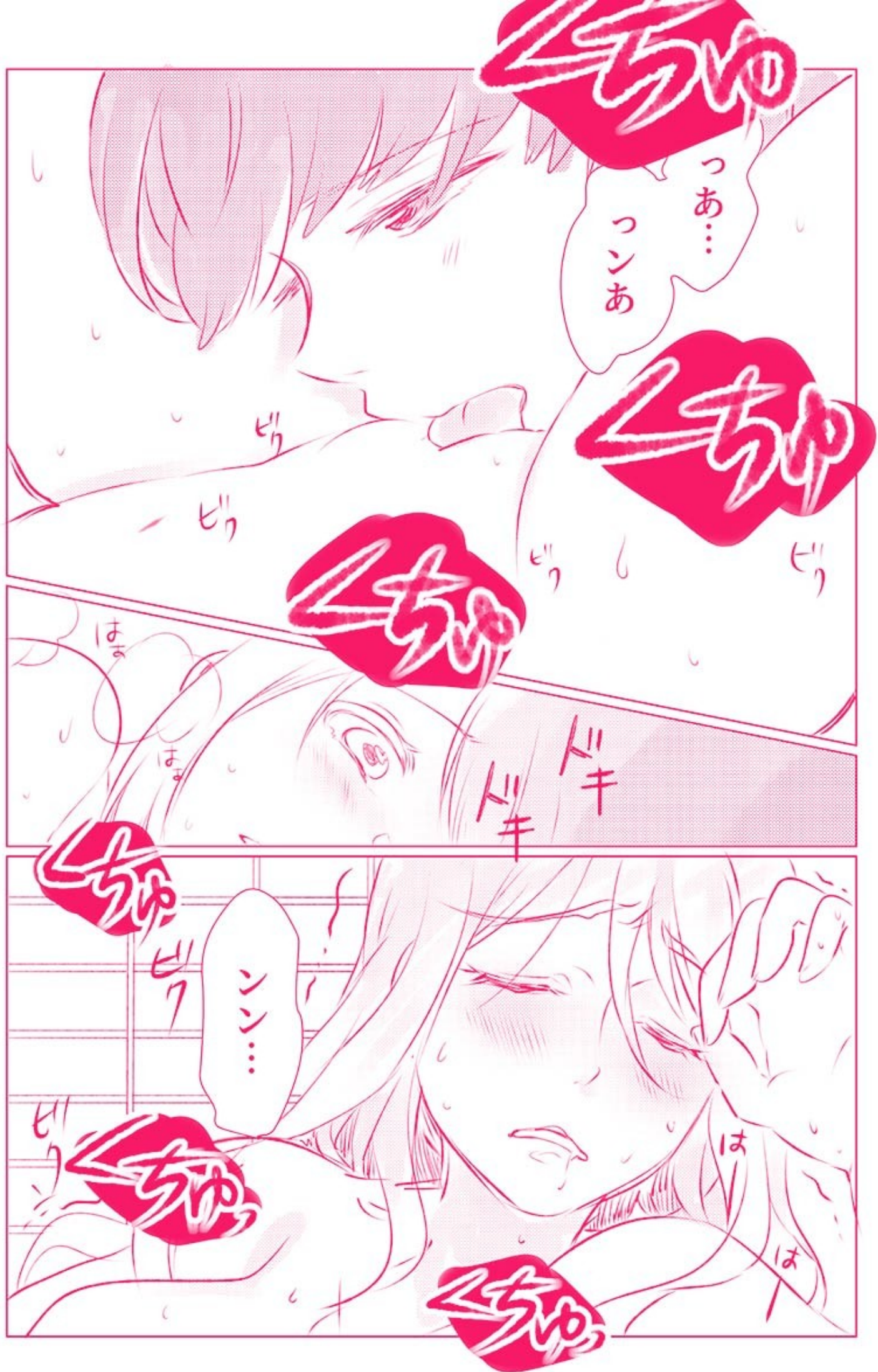


突起の場所を
さぐるように撫でる

はあ

はあ





あぁあ！

あんなに声を出したら、
アヤミたちも
起きてしまうんじゃないか？

わたしが
そんな心配をしていると、

突然

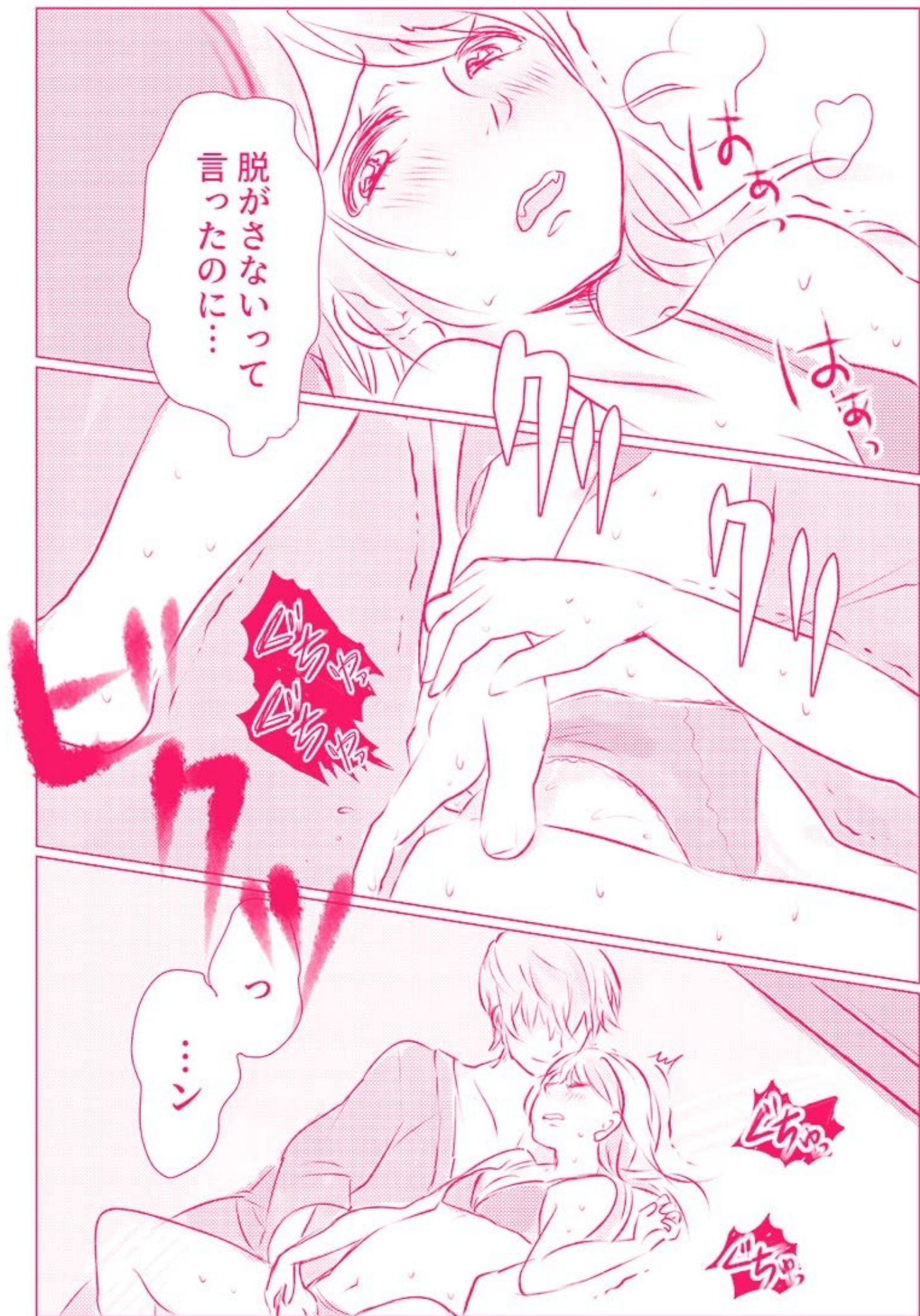
あぁ…ん

下着を横にずらして
ケイタの指が
直に滑り込んできた

ゴン

すごいよ…









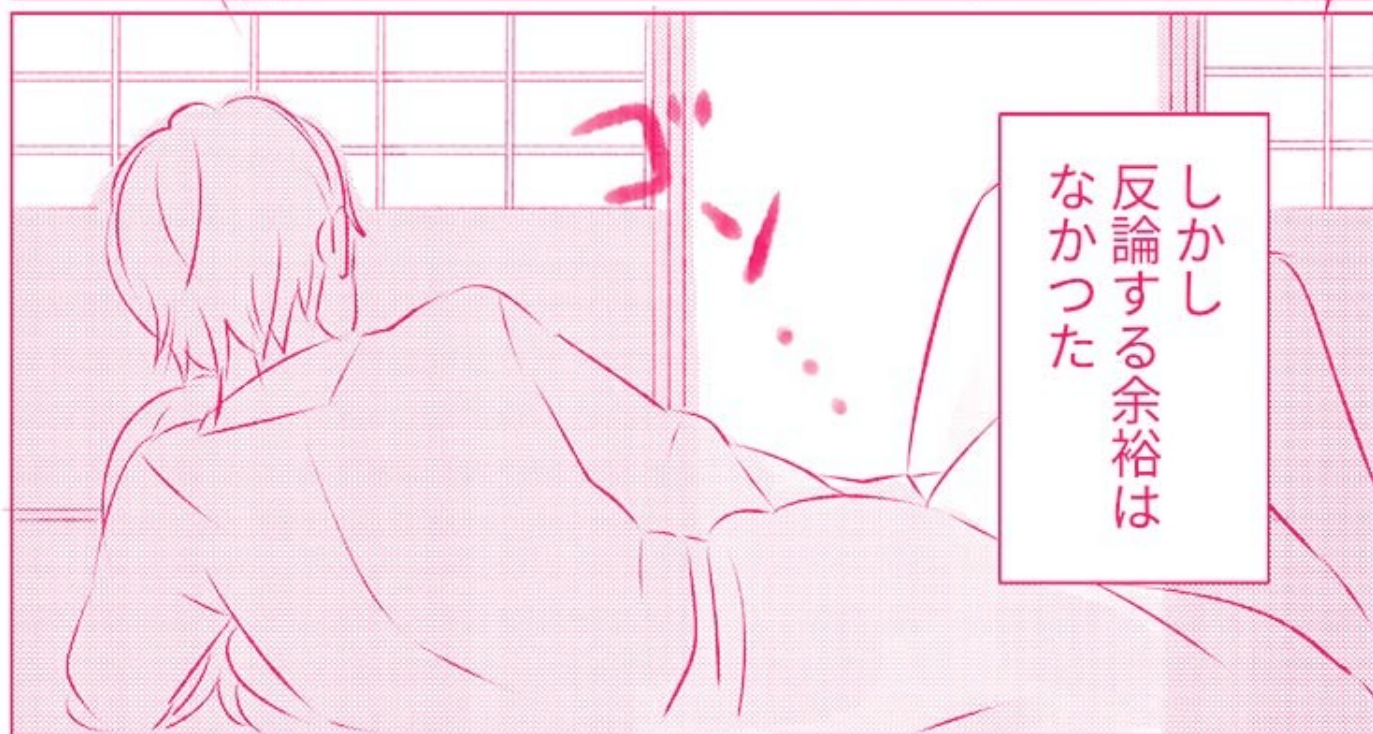
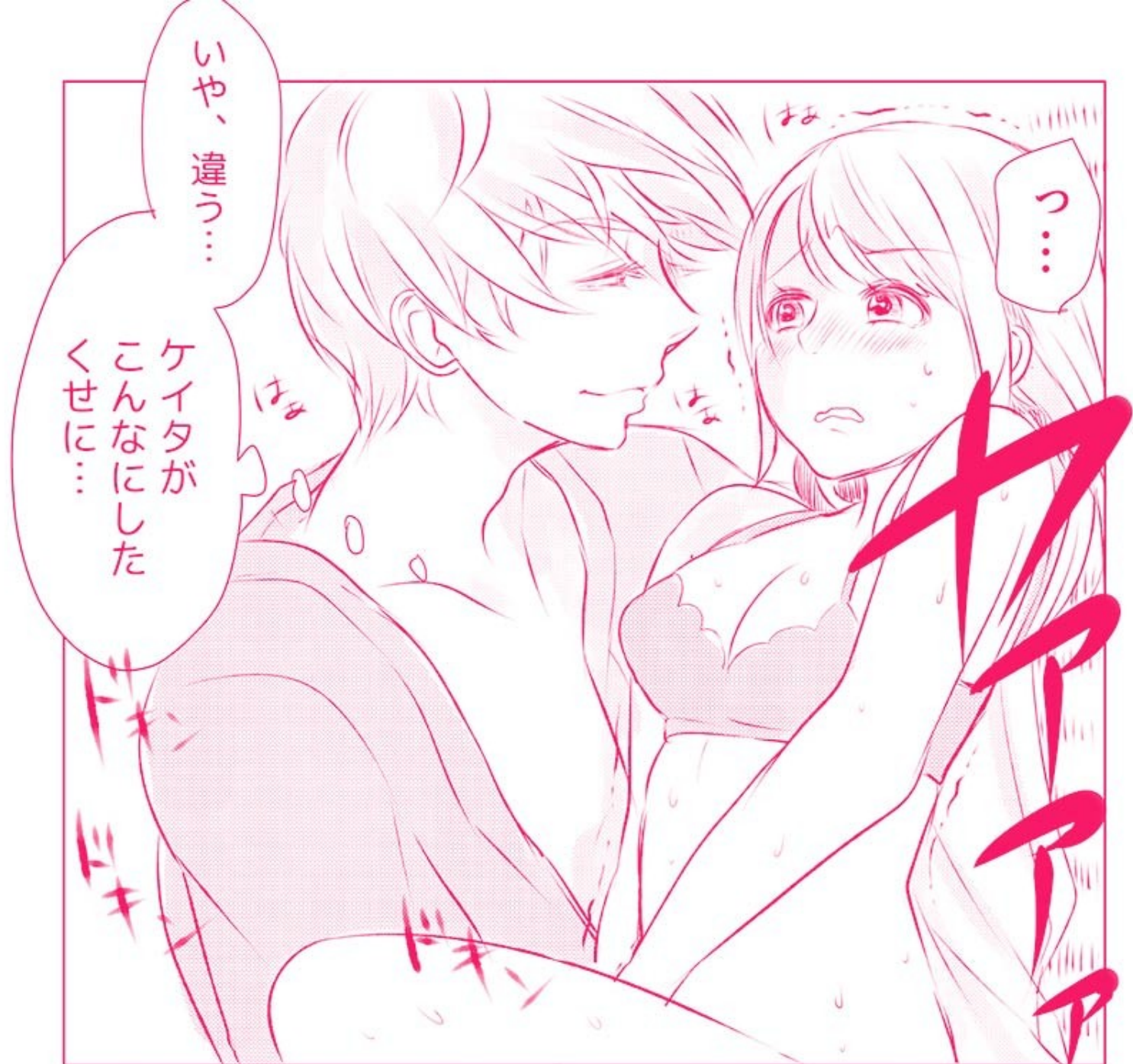
確かに
脱がしては
ないけど…

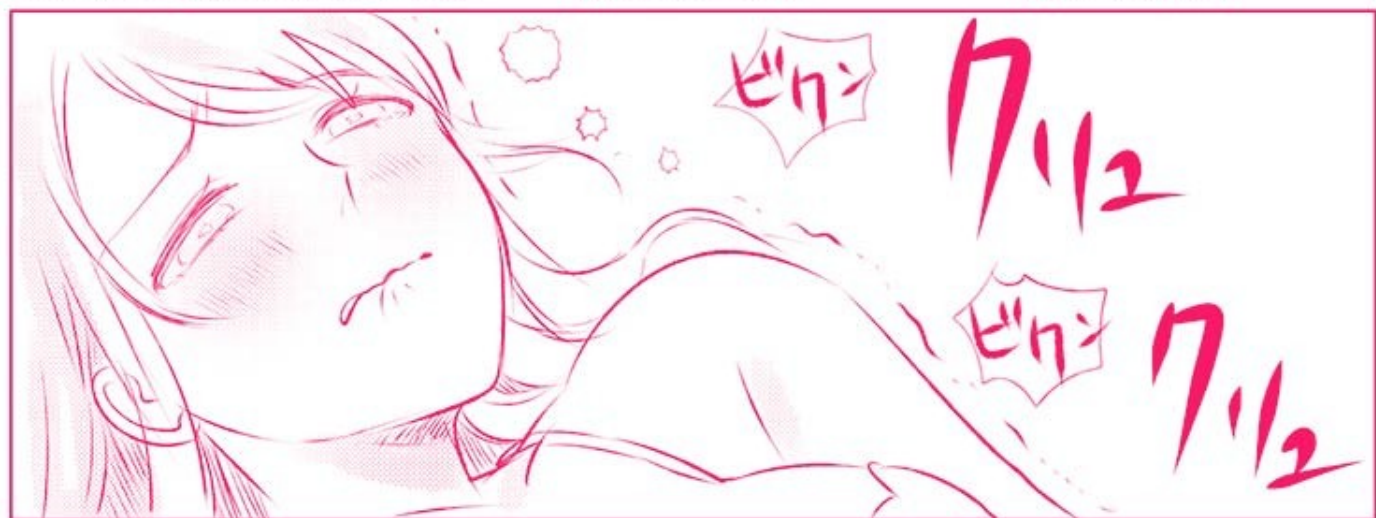


…あぁっ…
ケイタのいじわる…



人を見てこんなに
濡れちゃったの？









乳首を刺激されると、
気持ち良さで
頭が真っ白になった

あ…っ

押さえた手からは
力が抜け、

っ…



腰が自然に
動いてしまう

どうしたの？

腰、動いてるよ？

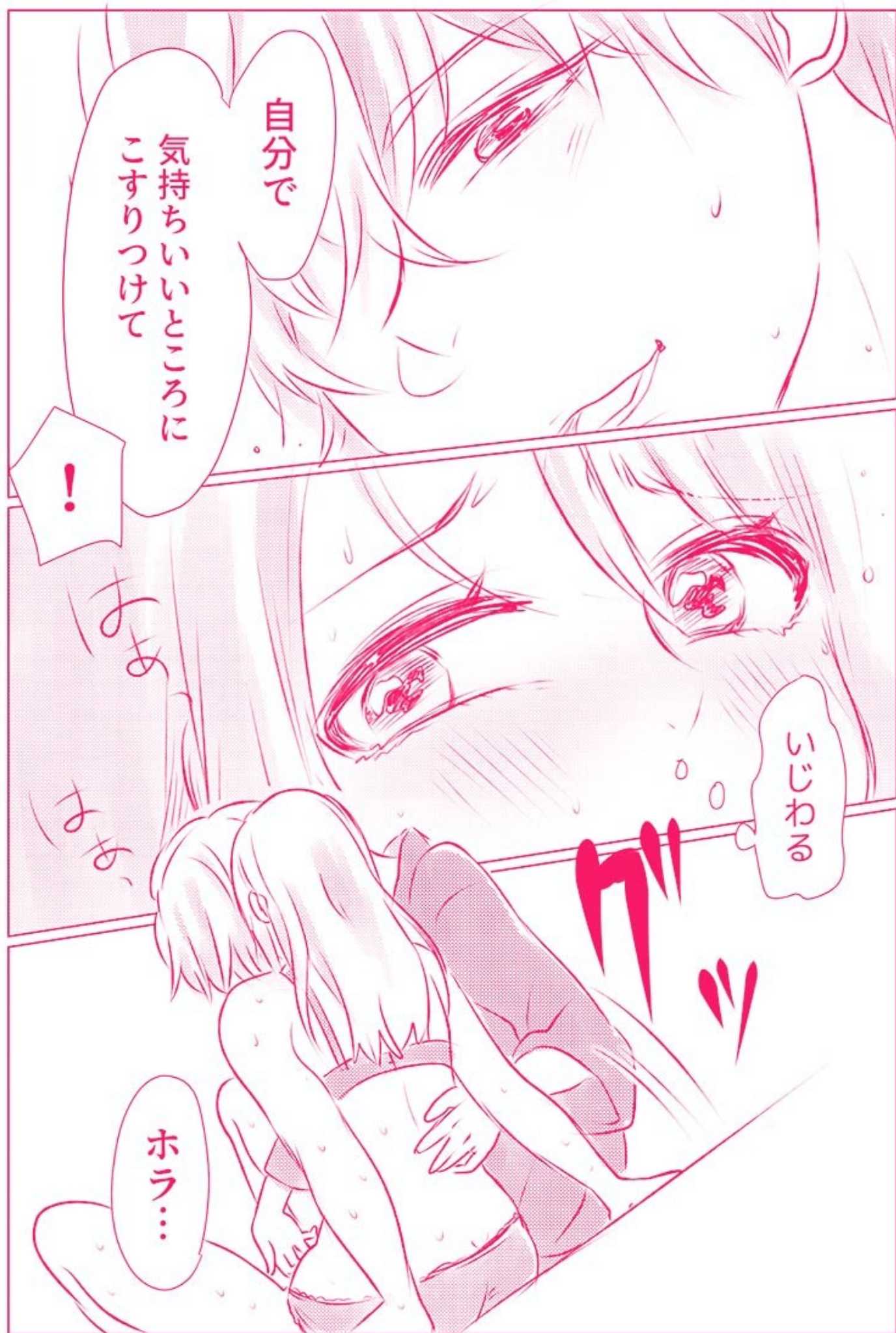
声を抑えるので
必死だった

…んっ…

でも、
いじわるなケイタは

まだ私を
許してくれない

…？



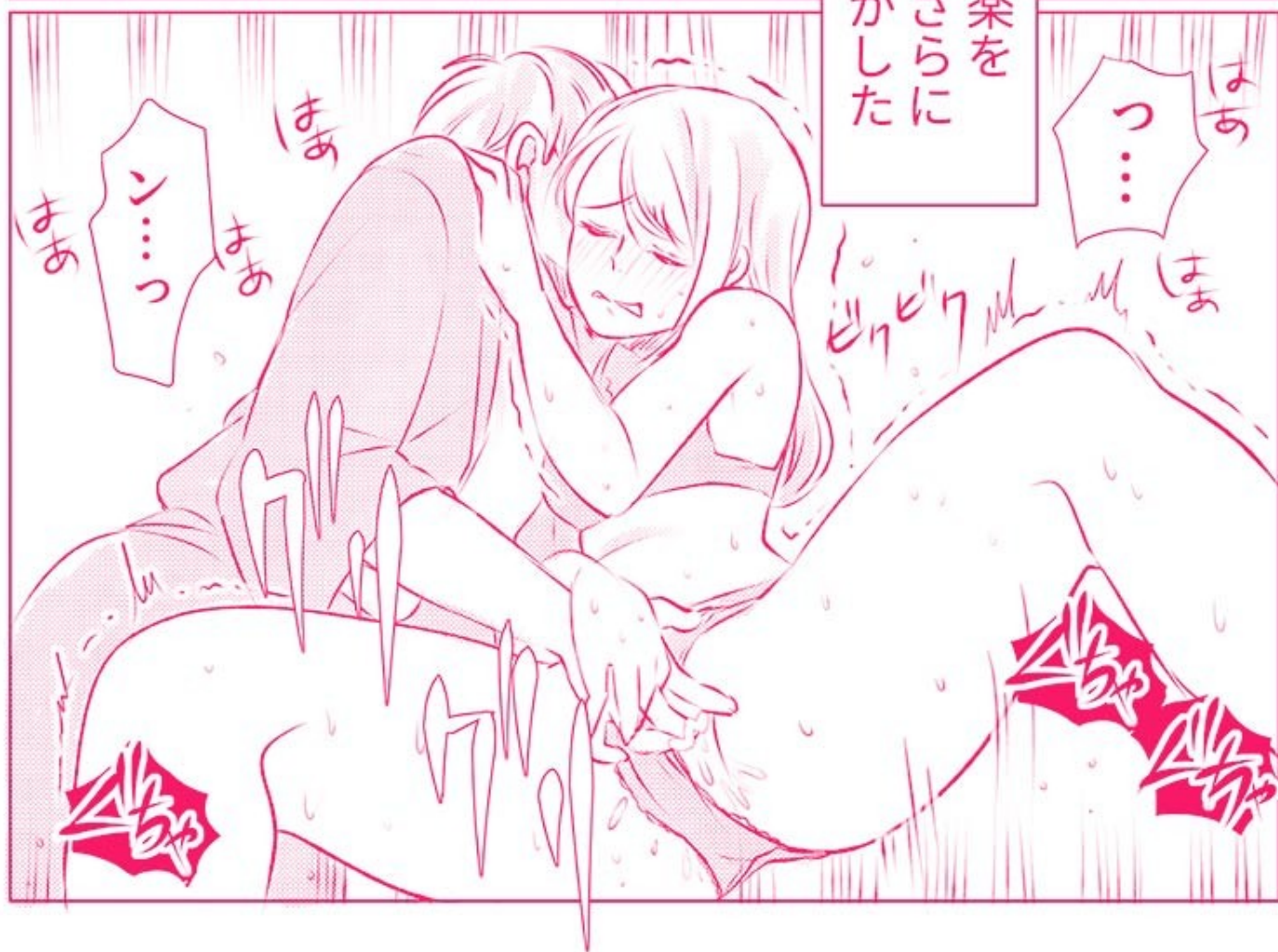
自分で

気持ちいいところに
こすりつけて

!

いじわる

ホラ…



気持ち良さで
ジンジンする

レチャ
レチャ

ハアッ

こんなの…
恥ずかしい…

ンッ

それでも、
私の腰は
動き続けた

レチャ

ンッ

レチャ



どうしちゃっ
たんだろ…
私…

あッ
変に
なっ
ちゃった…

頭では分かっていても、

ケイタの指に
触って欲しくて
たまらなかった

はぁ

とろい



ケイタの指は
動いてくれない

本当はもっと
奥まで触ってほしいのに、

ハア...



沈黙のなかで、
私だけが腰を
動かし続ける

ん...

ハア...



…?
?

ケイタは
私をうつ伏せにして、

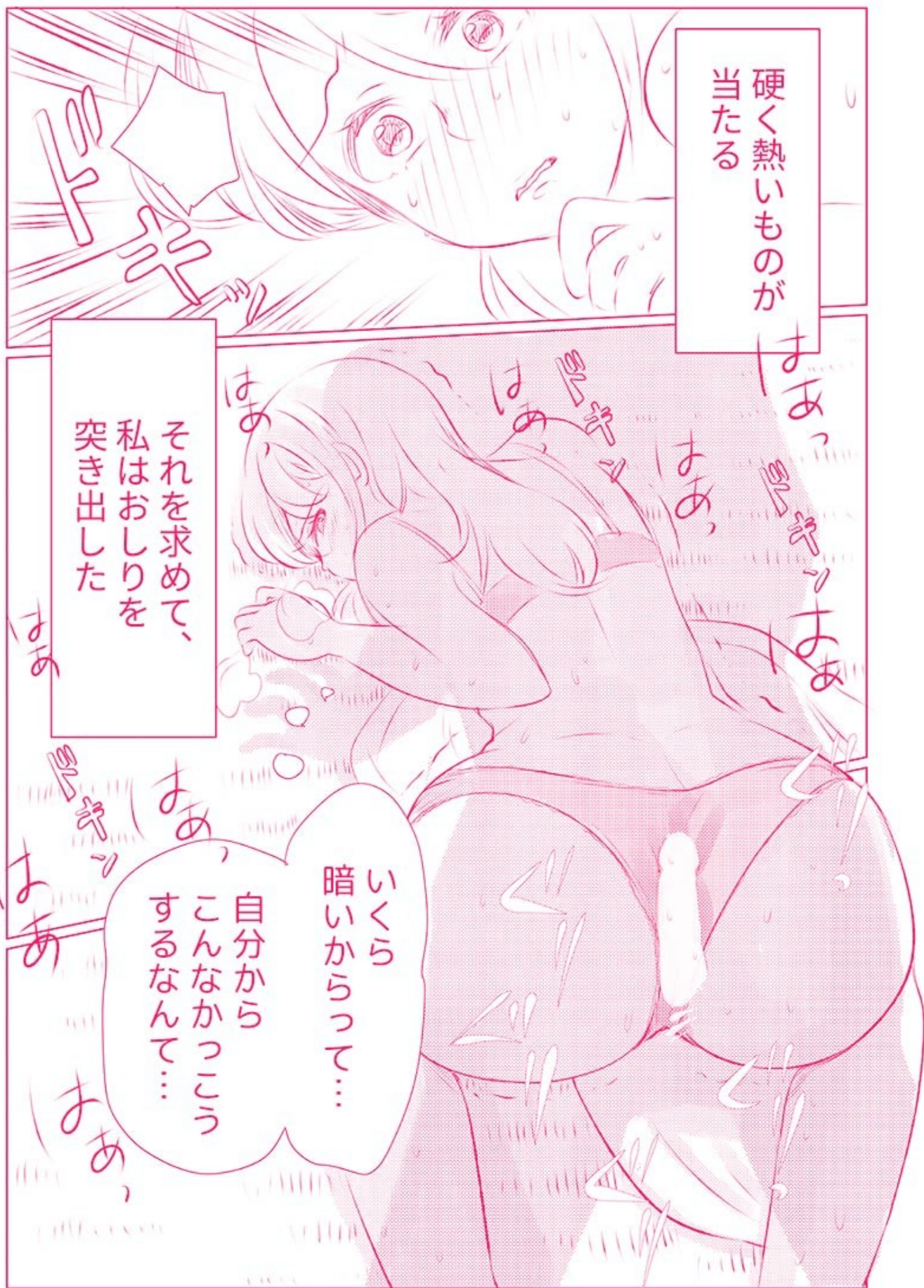
私の上に乗った

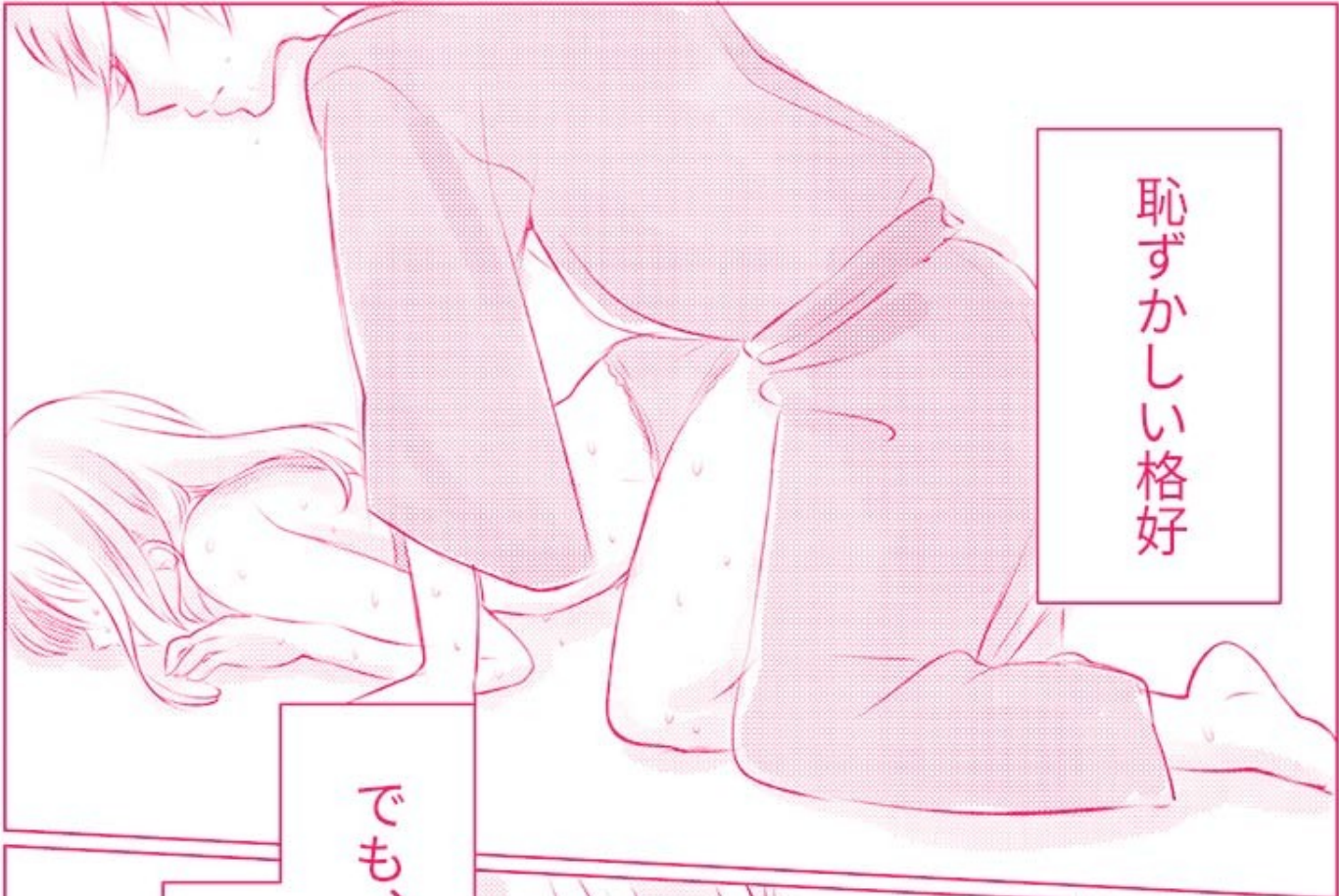
硬く熱いものが
当たる

それを求めて、
私はおしりを
突き出した

いくら
暗いからって…

自分から
こんなかつこう
するなんて…





恥ずかしい格好

でも、

早く



ほしい

下着の横から、
ケイタが中に入ってきた

大きく熱いものが
ぐっと
押し込まれる感覚に、

興奮が高まる



ああん…

だめだ…
声我慢しなきゃ…

浴衣に口を
押しつけて
声が漏れないように
しても、

ケイタが動きたび、
繋がった部分は
いやらしい
音を立てた

んんっ

アヤミたちに
気付かれてしまう
かもしれない

はあ…

はあっ…

んん…

はあっ

でも、そんなことは
どうでもいいと思うほど、

気持ちよさで
頭がいっぱいだった

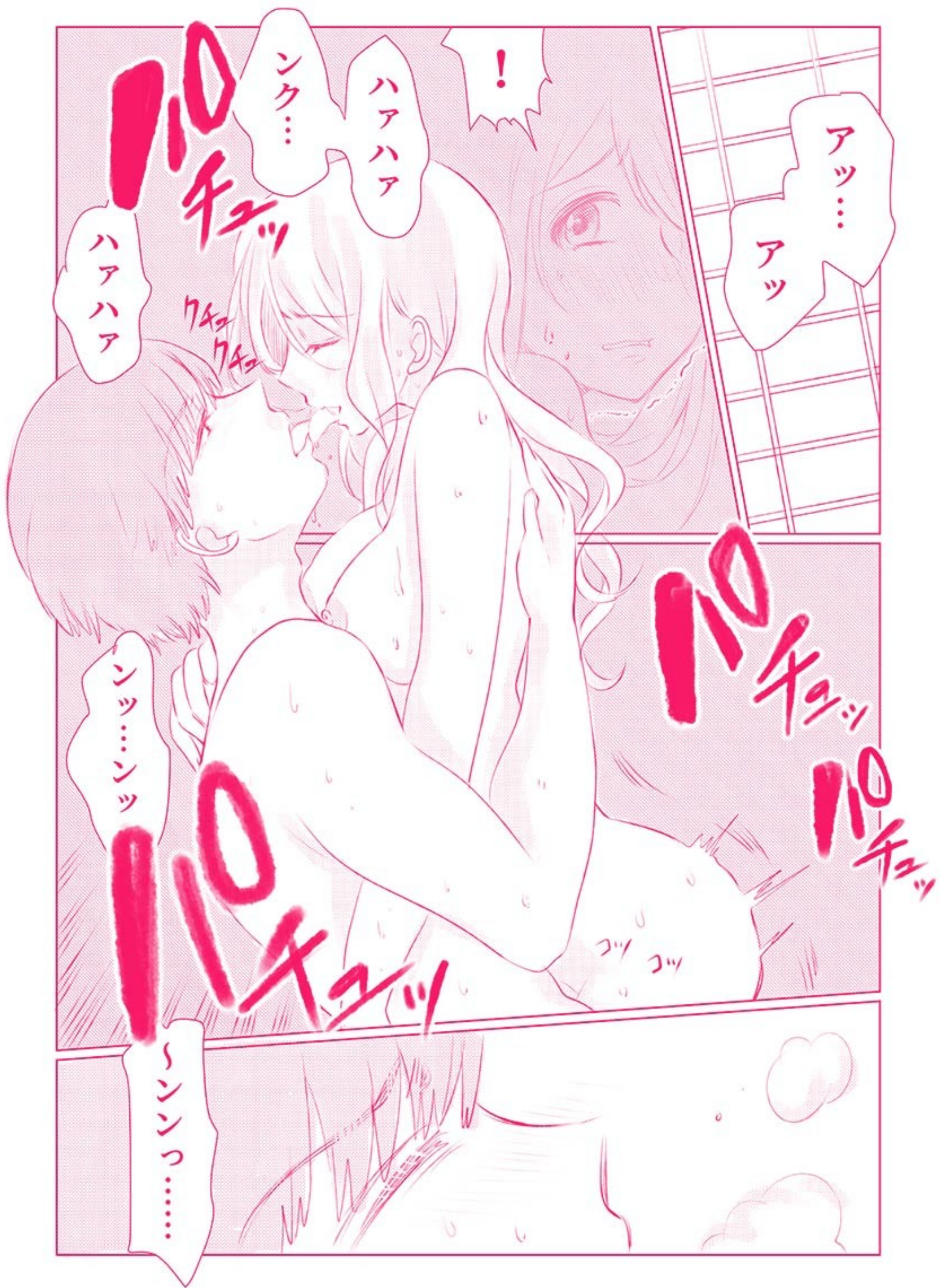
んっんっ

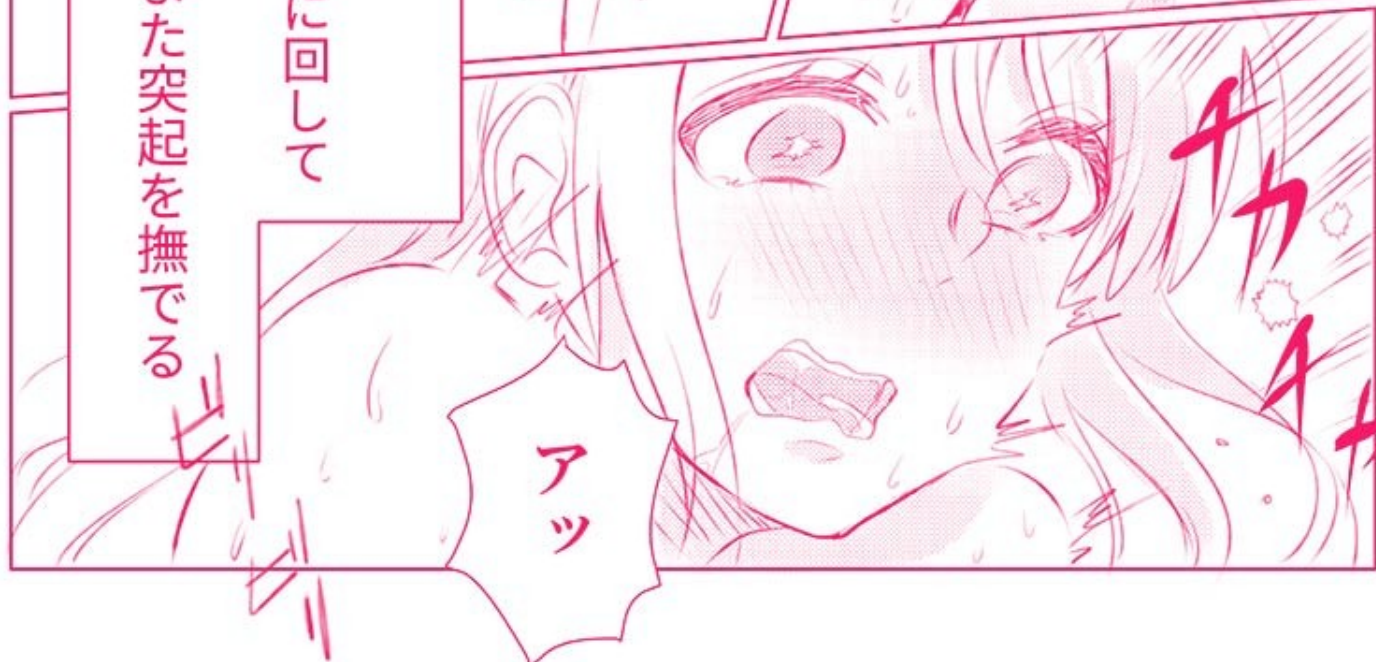
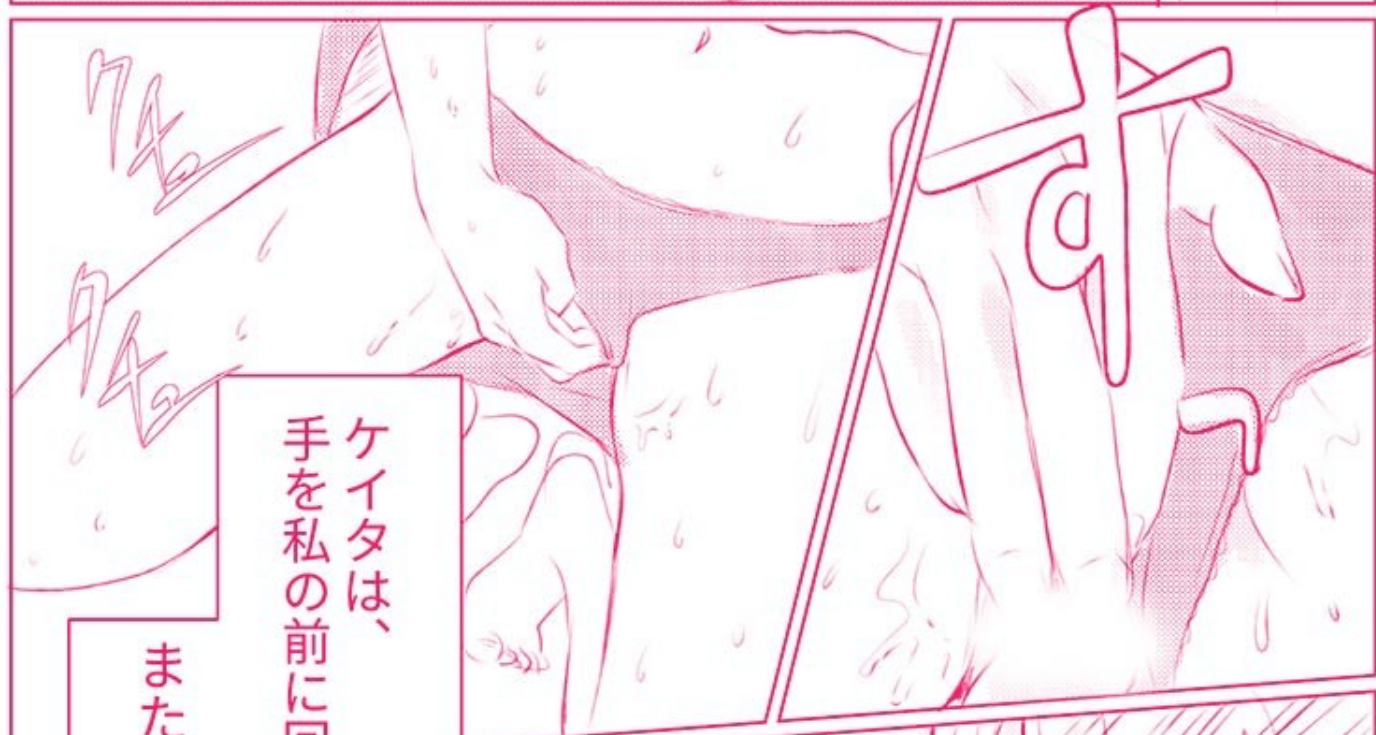
バレないように
しようとしてるのか、

ケイタは
ゆっくり
ねっとり動く

きもちい…







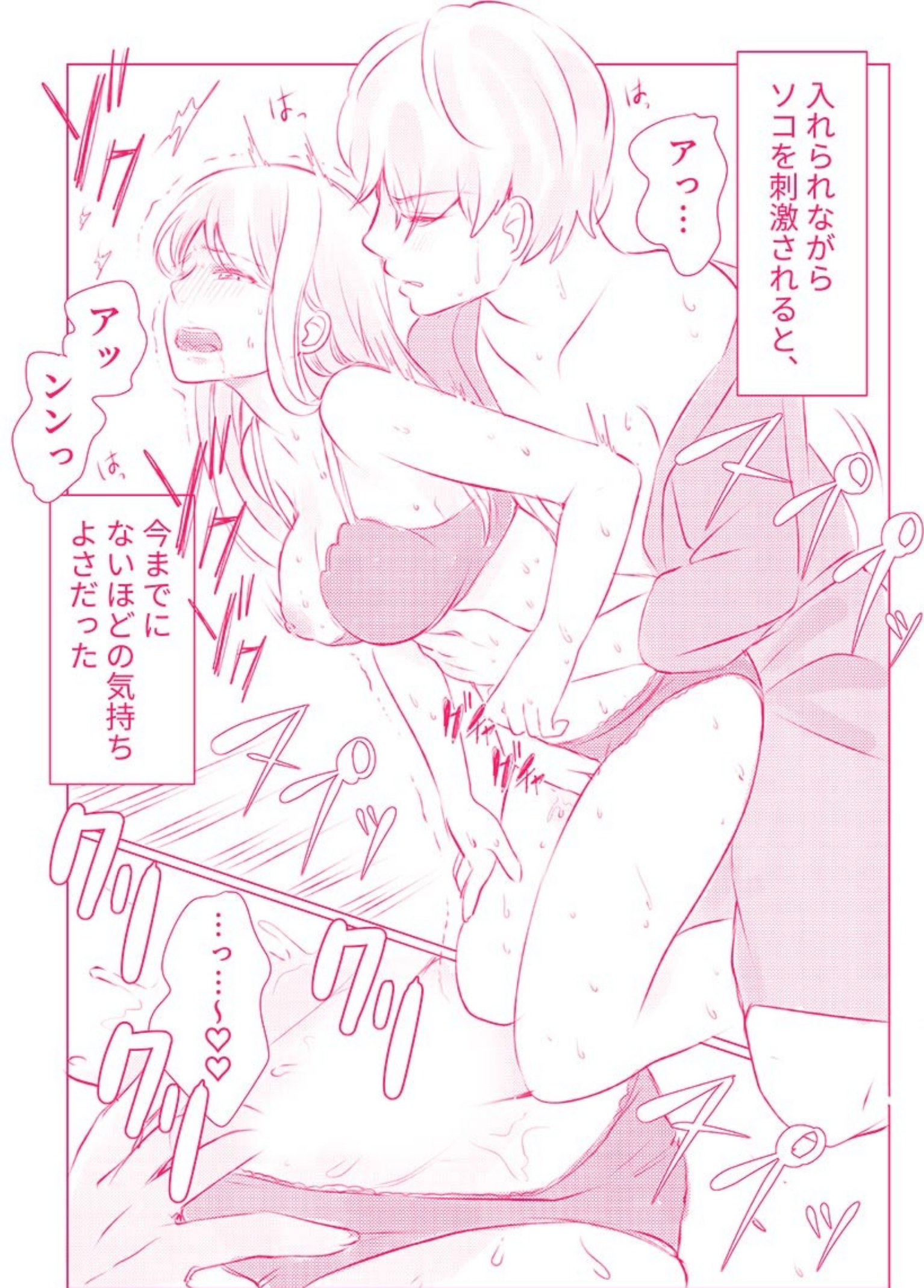
入れられながら
ソコを刺激されると、

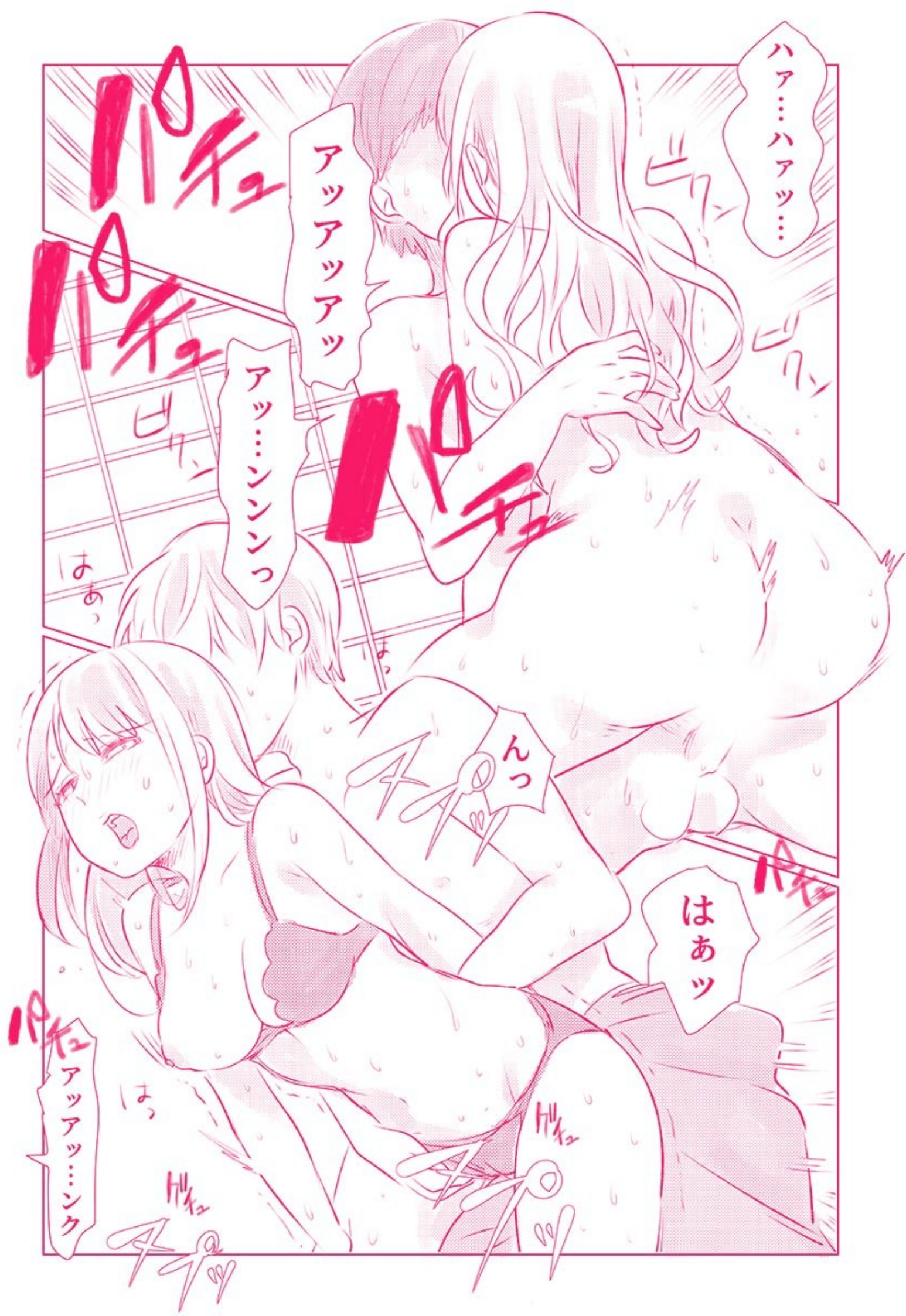
アッ…

アッ
ンンッ

今までに
ないほどの気持ち
よさだった

……っ♡♡♡





ハア…ハアツ…

アツアツアツ

アツ…ンンンン

んっ

はあツ

アツアツ…ンク

レナみたいに
感じたい…

もっと、激しく
動いて欲しいのに

ゆっくりしか
動いてくれない

ンツンツ…アン

私の奥からは
どんどん
水が溢れてきた

焦らされて

はあ

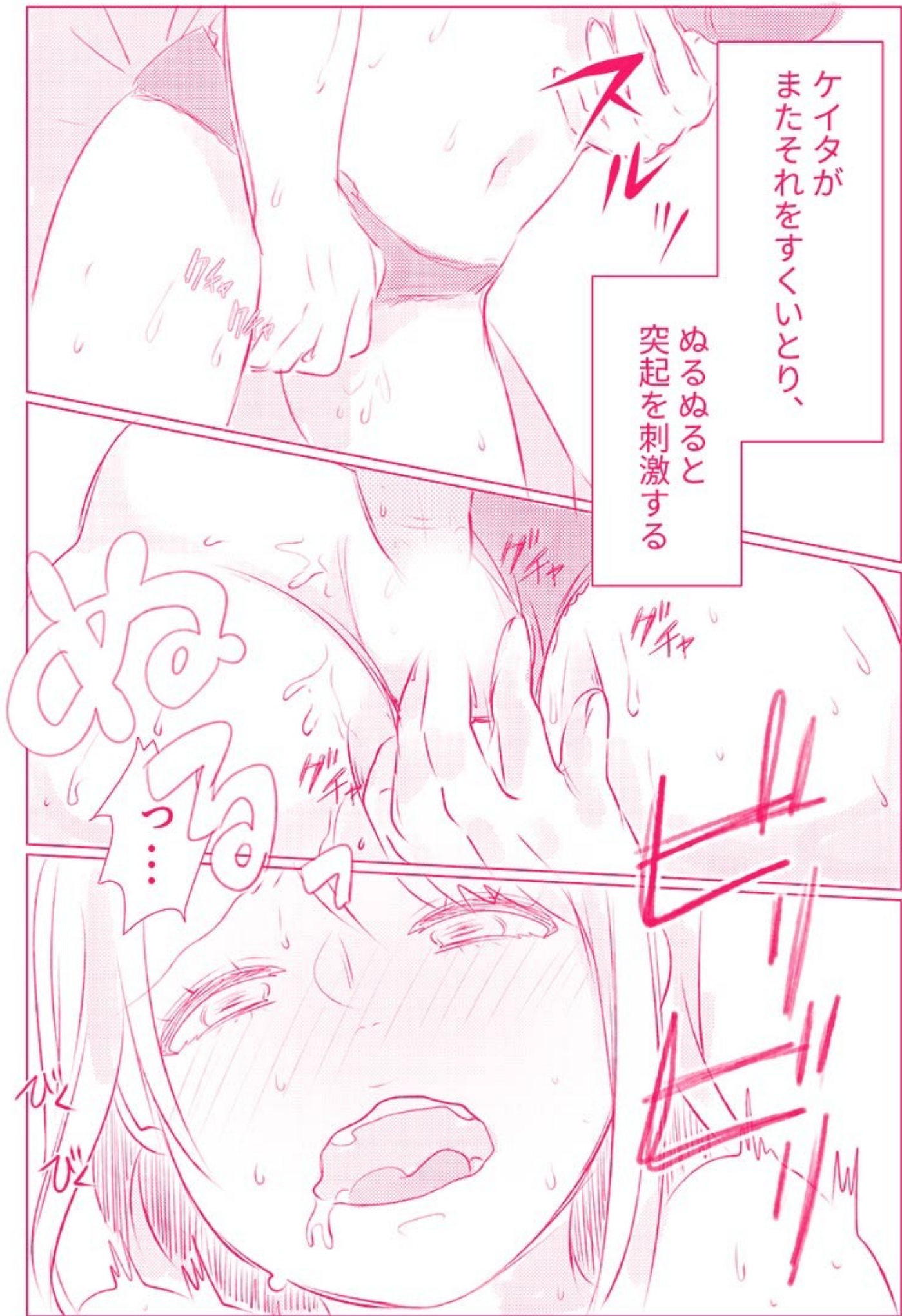
はあ

はあ

ホッホッ

ケイタが
またそれをすくいとり、

ぬるぬると
突起を刺激する





私は限界だった

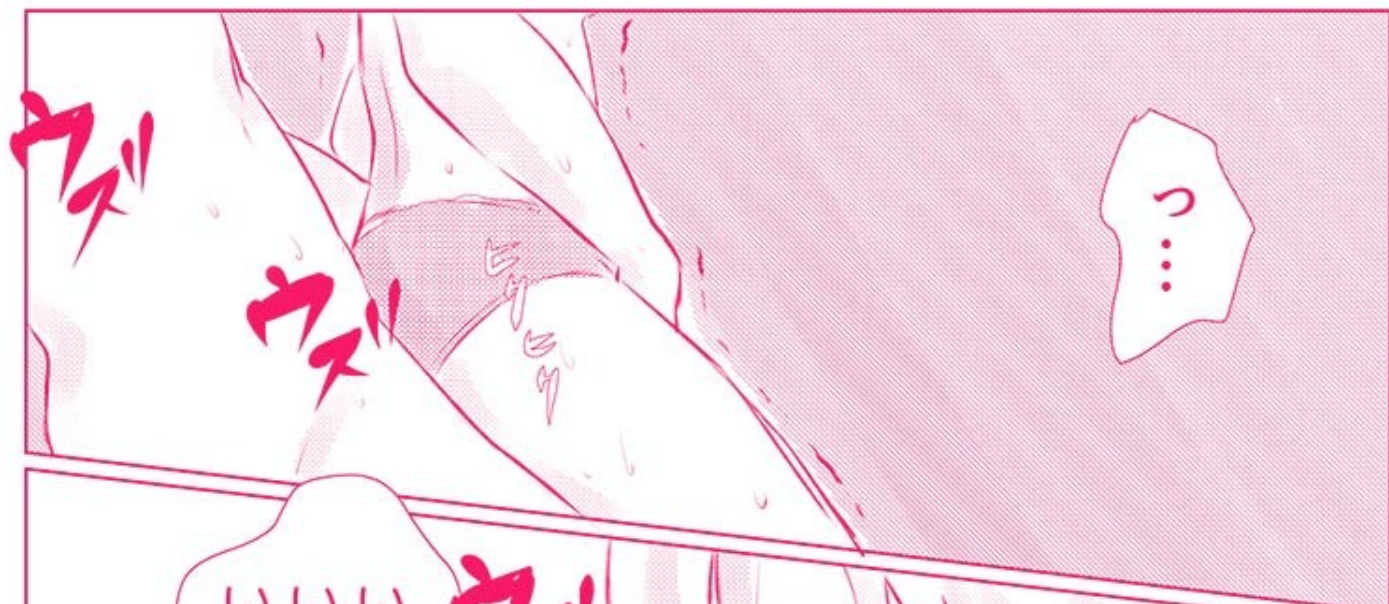
お願い…もうイかせて

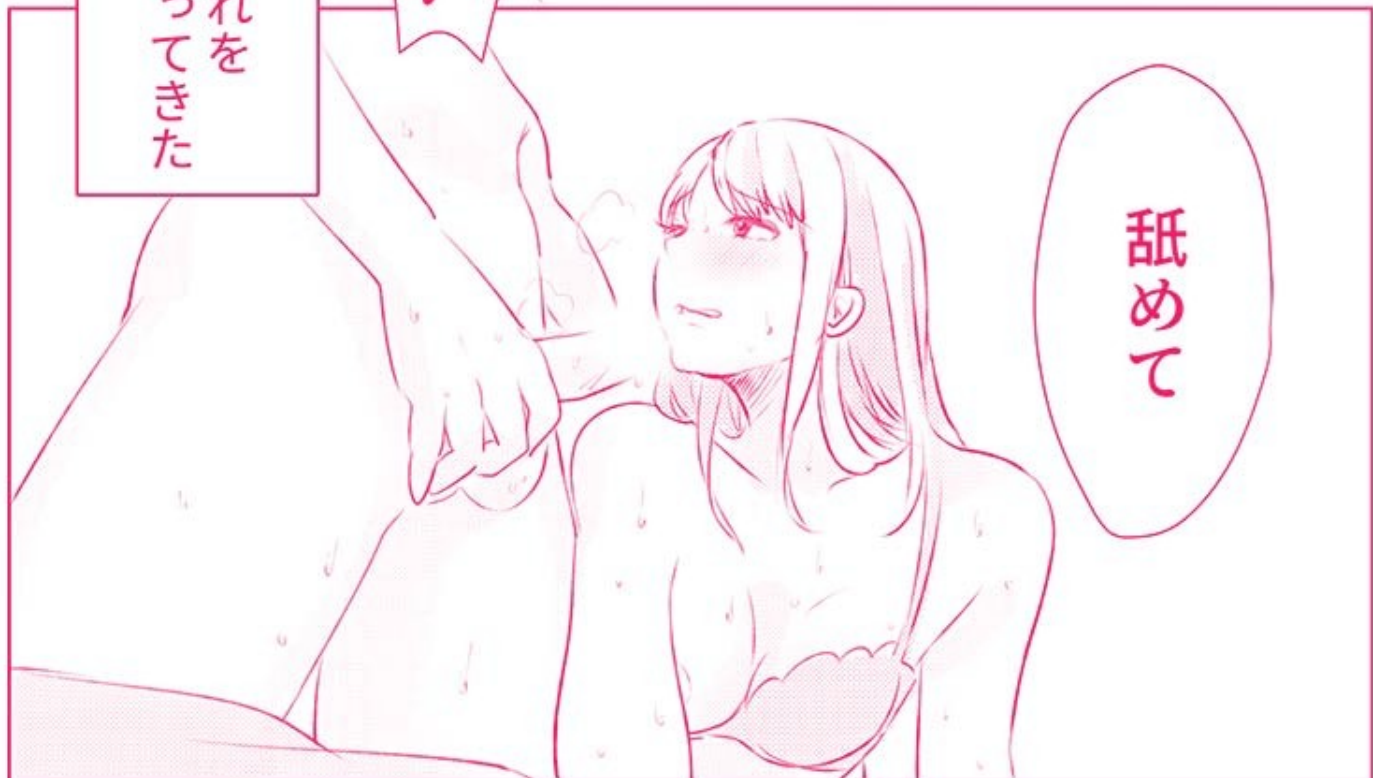
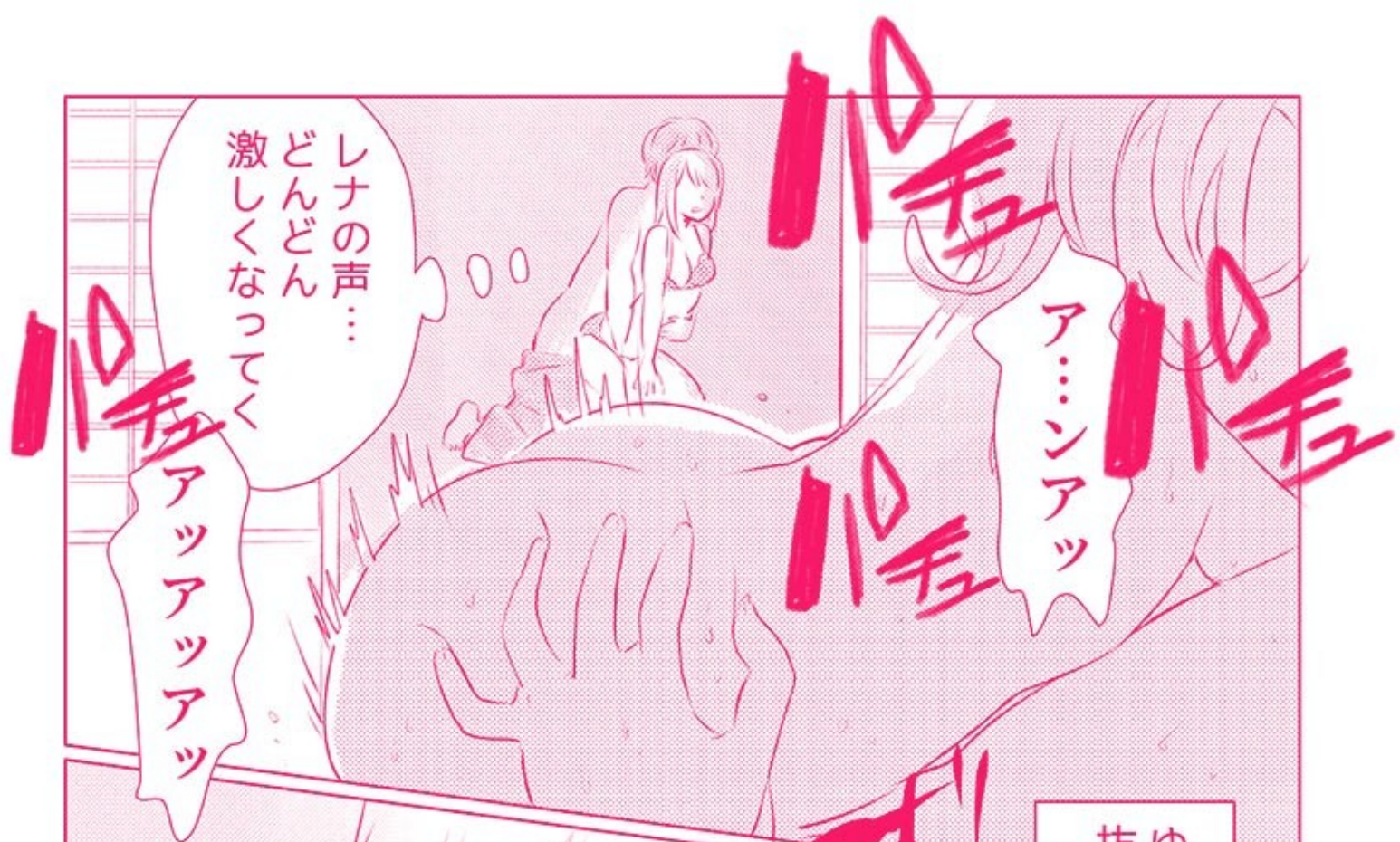


まだダメだよ…

どこまでも
意地悪なケイタは、

突然動きを止めた





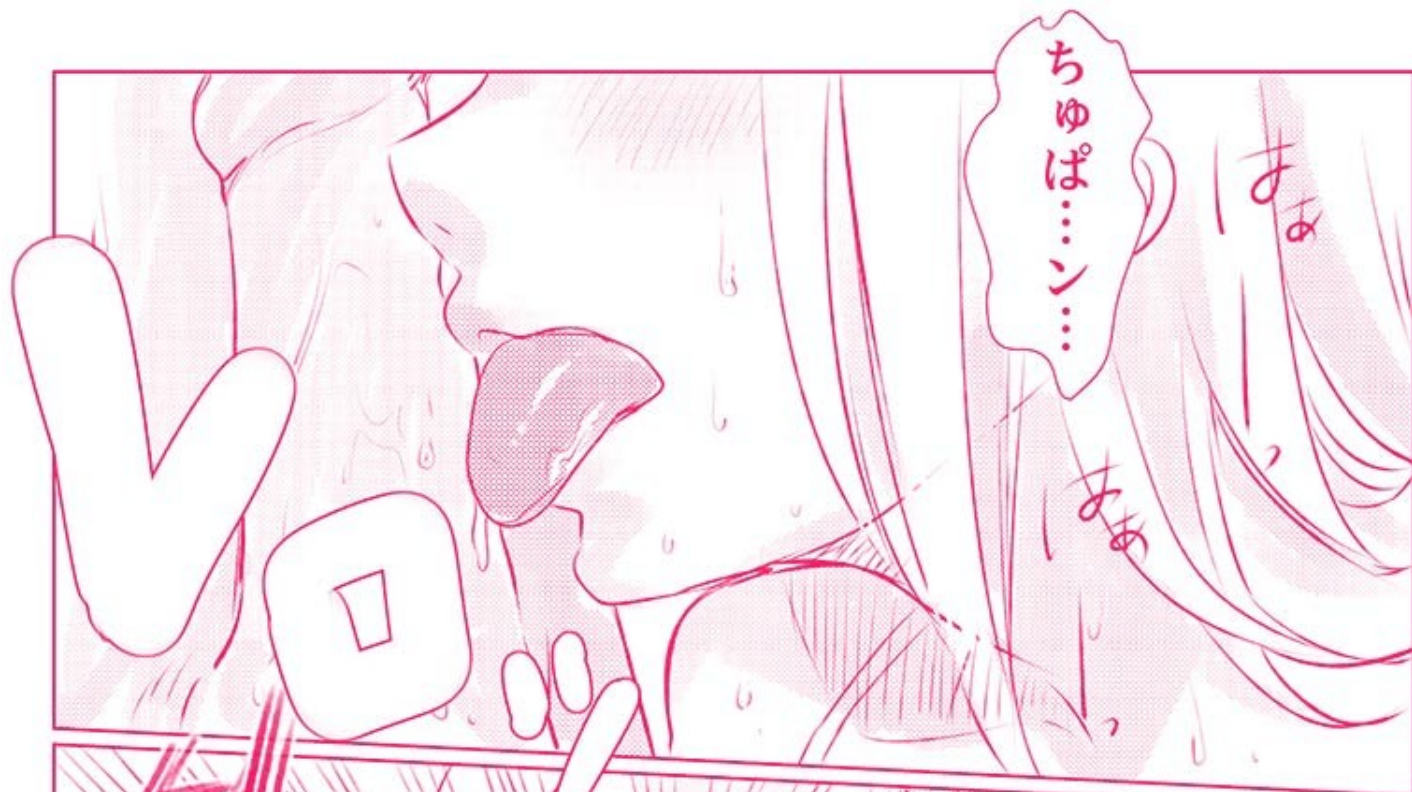
自分でも
思ってもみなかったほど、
大胆になっていた

ンっ……ハ……ン……ッ

苦しそうな
ケイタの表情が、

私を
さらに興奮させた

ン
ン

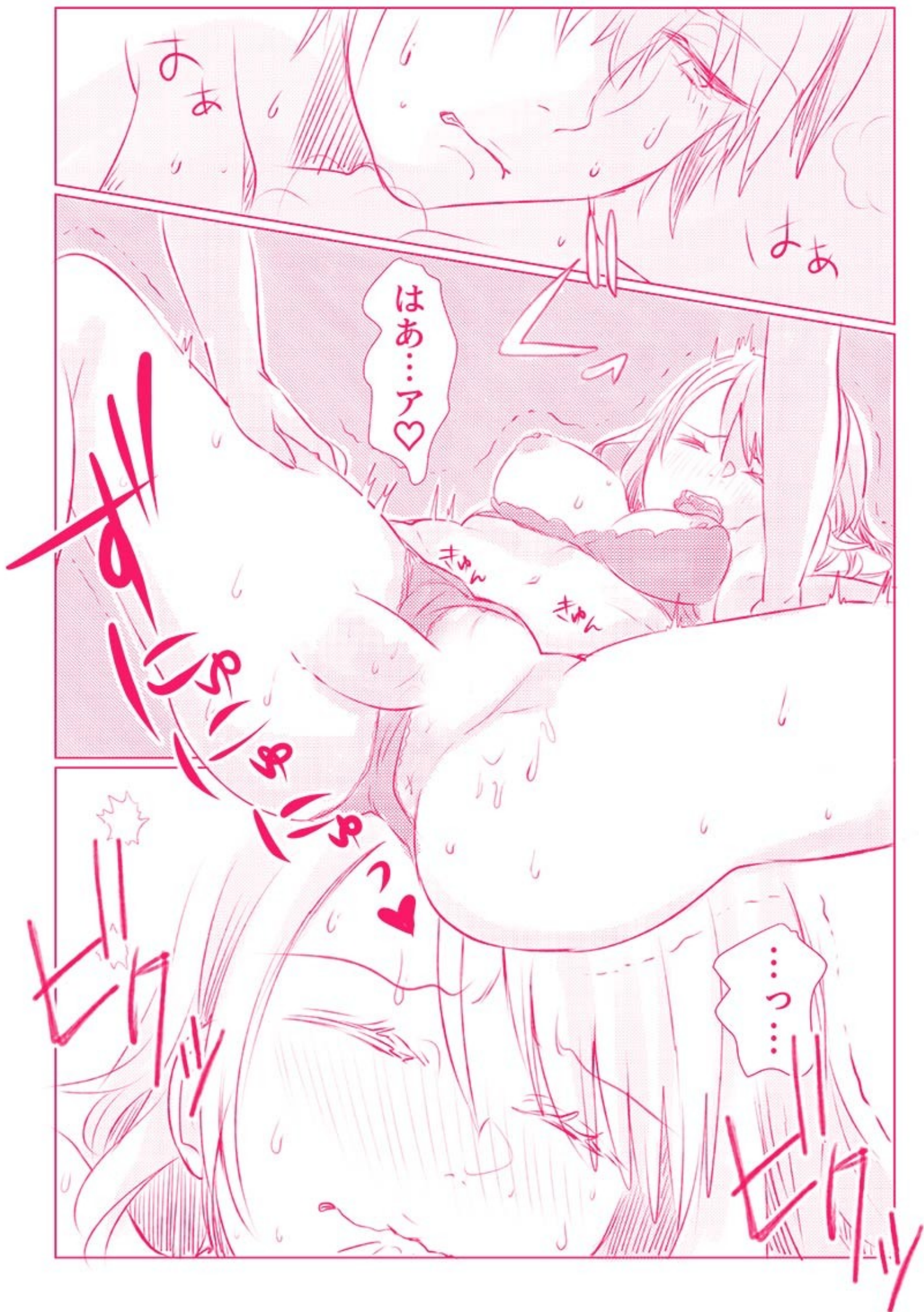




そのまま、

私の身体を抱えて
横たわらせた







入れただけなのに...
身体がビクビク
しちゃう...

声...

がまんできる??

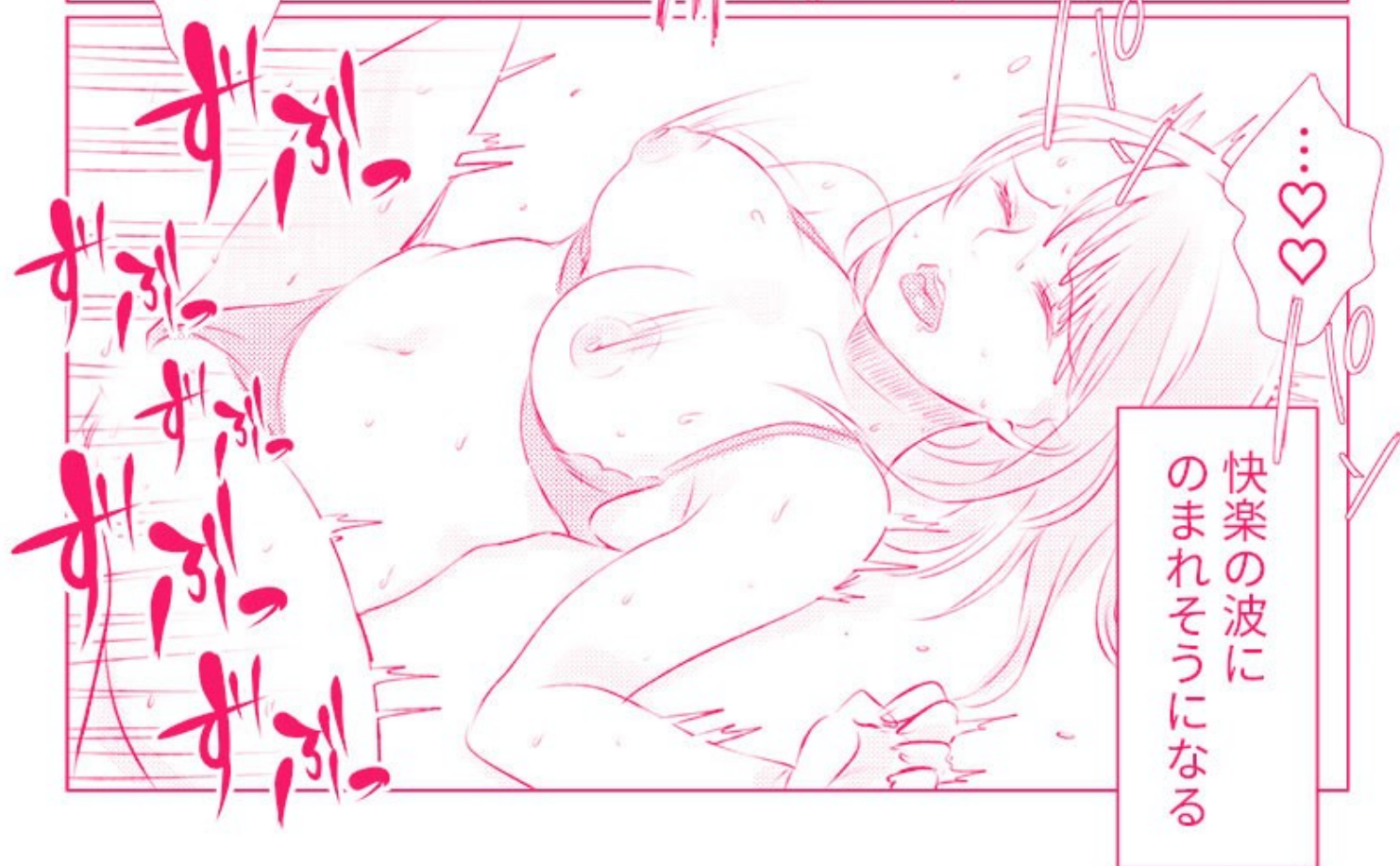
ムリ無理
自信ない...

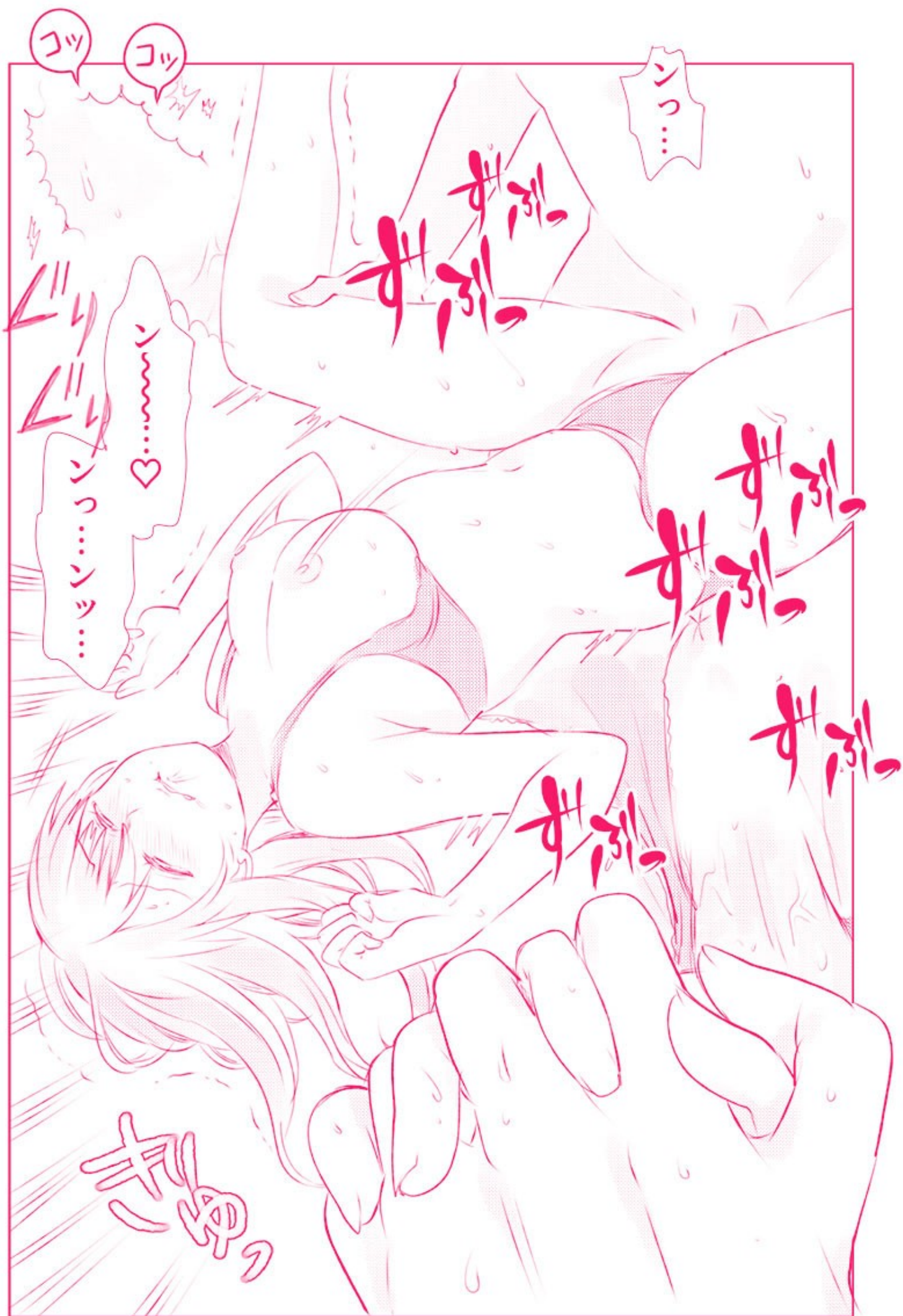


激しい快感に
突き上げられ
必死に声を我慢する



ケイタは
どんどん激しく
動く







ハア…ハア…

ハア…ハア…

これまで
感じたことのない
激しい快感の中で、

私たちはついに
果ててしまったの
だった

…ケイタ
一緒にイったんだ…

はー

はー

腰をつたう
温かい液体の
感触が伝わった

ト

007

007

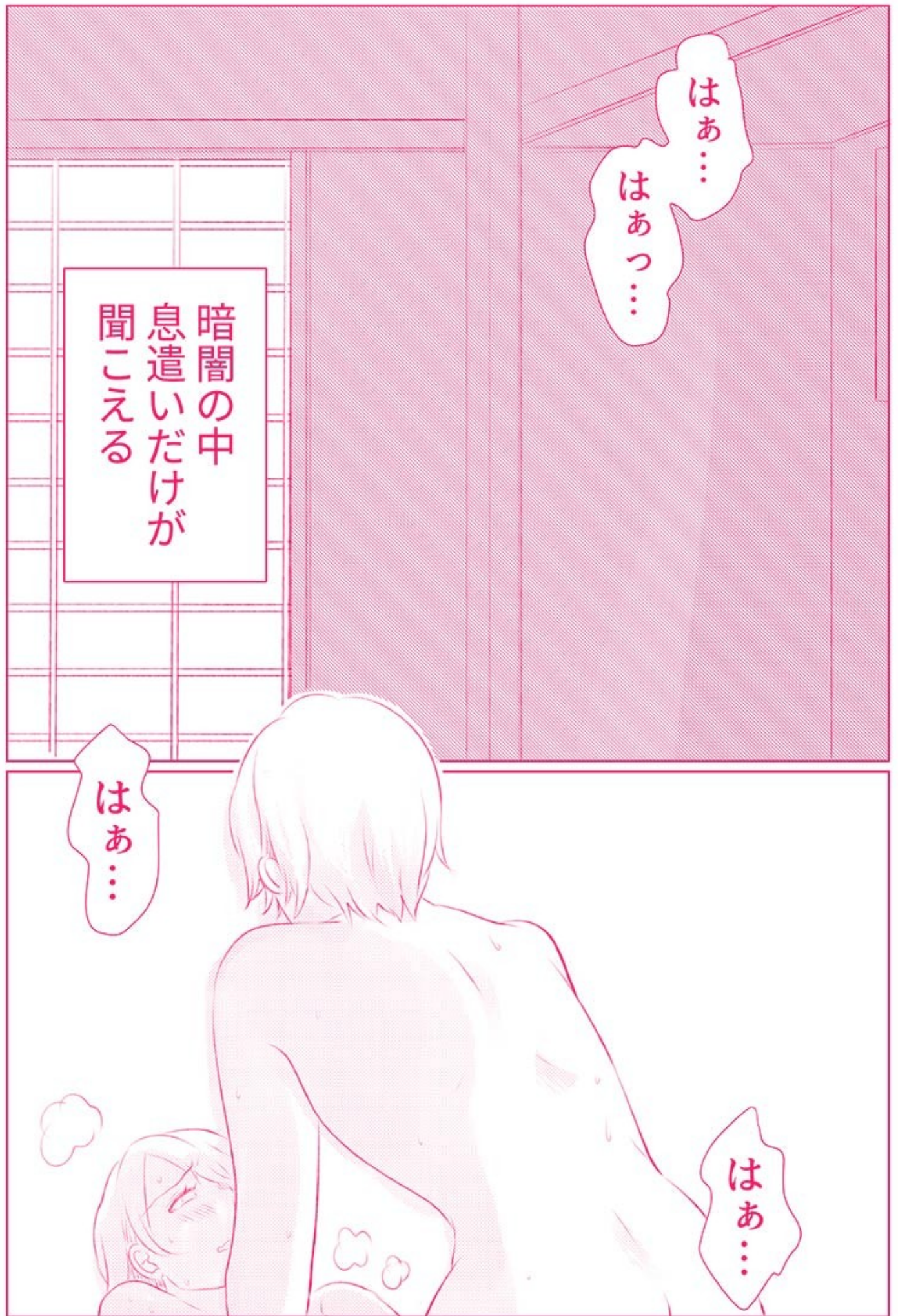
007

はあ…
はあっ…

暗闇の中
息遣いだけが
聞こえる

はあ…

はあ…





ティッシュ箱は、
アヤミのすぐ
近くにあった



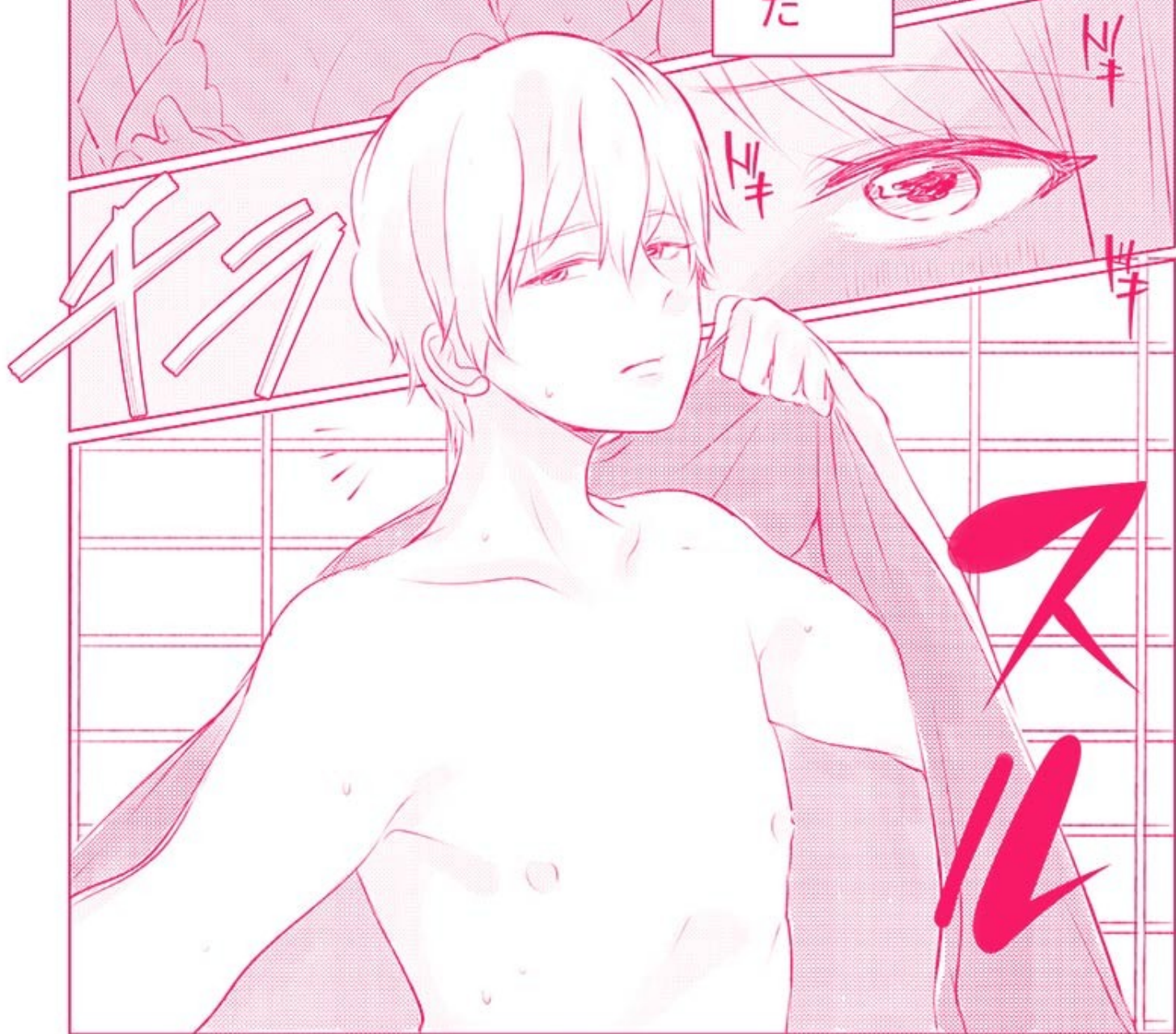
物音をたてないように
ケイタが手をのばし、
箱ごと手繰り寄せる

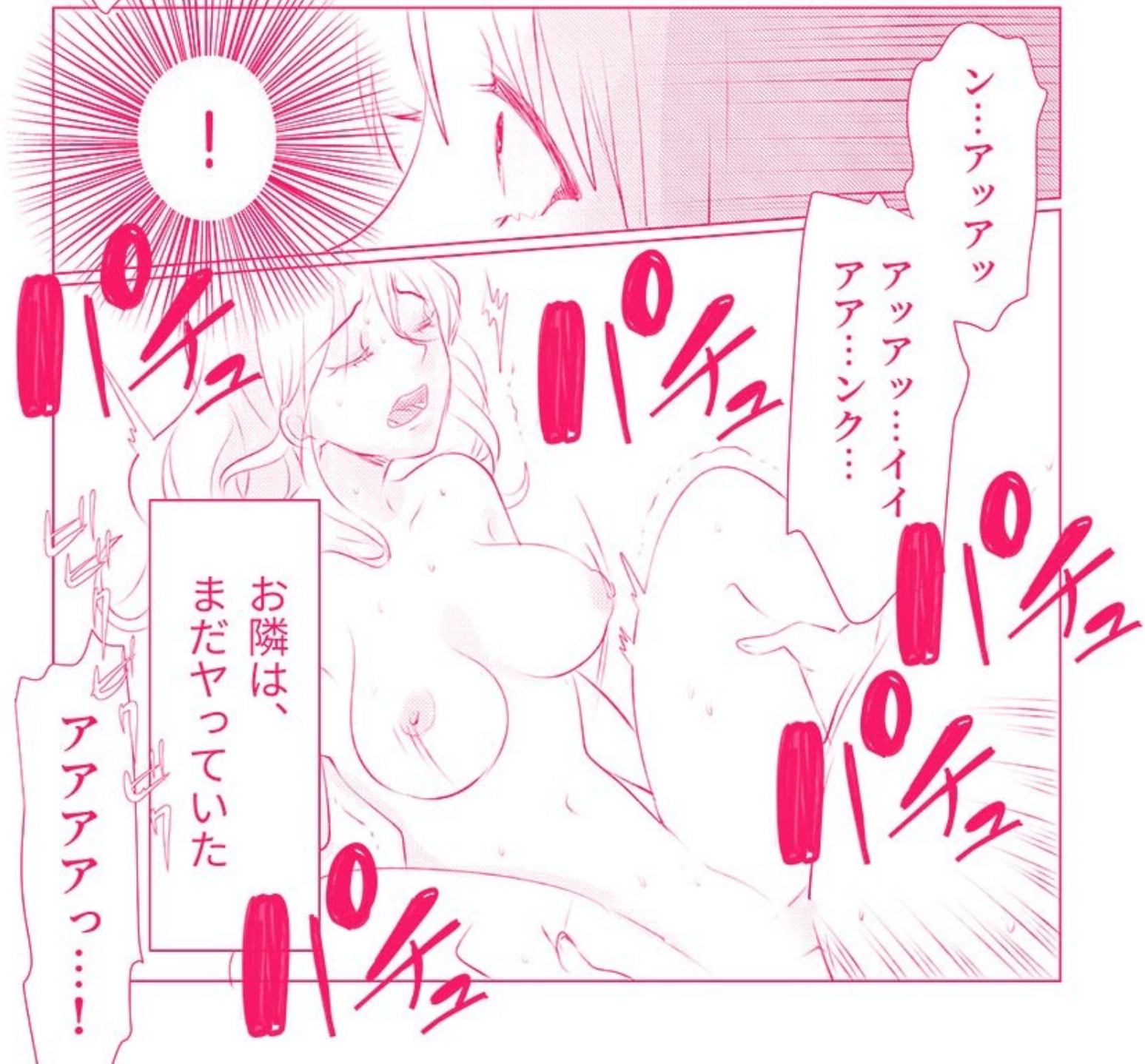
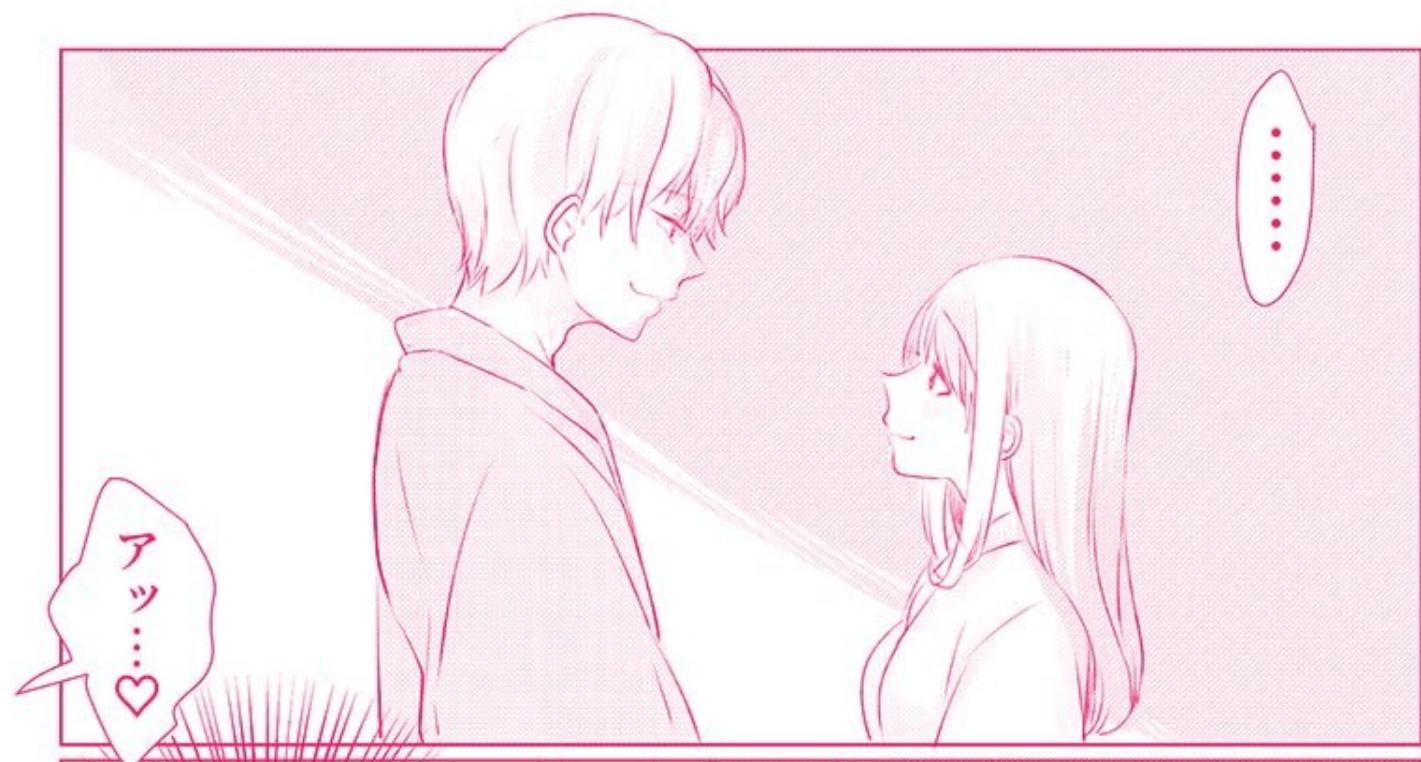


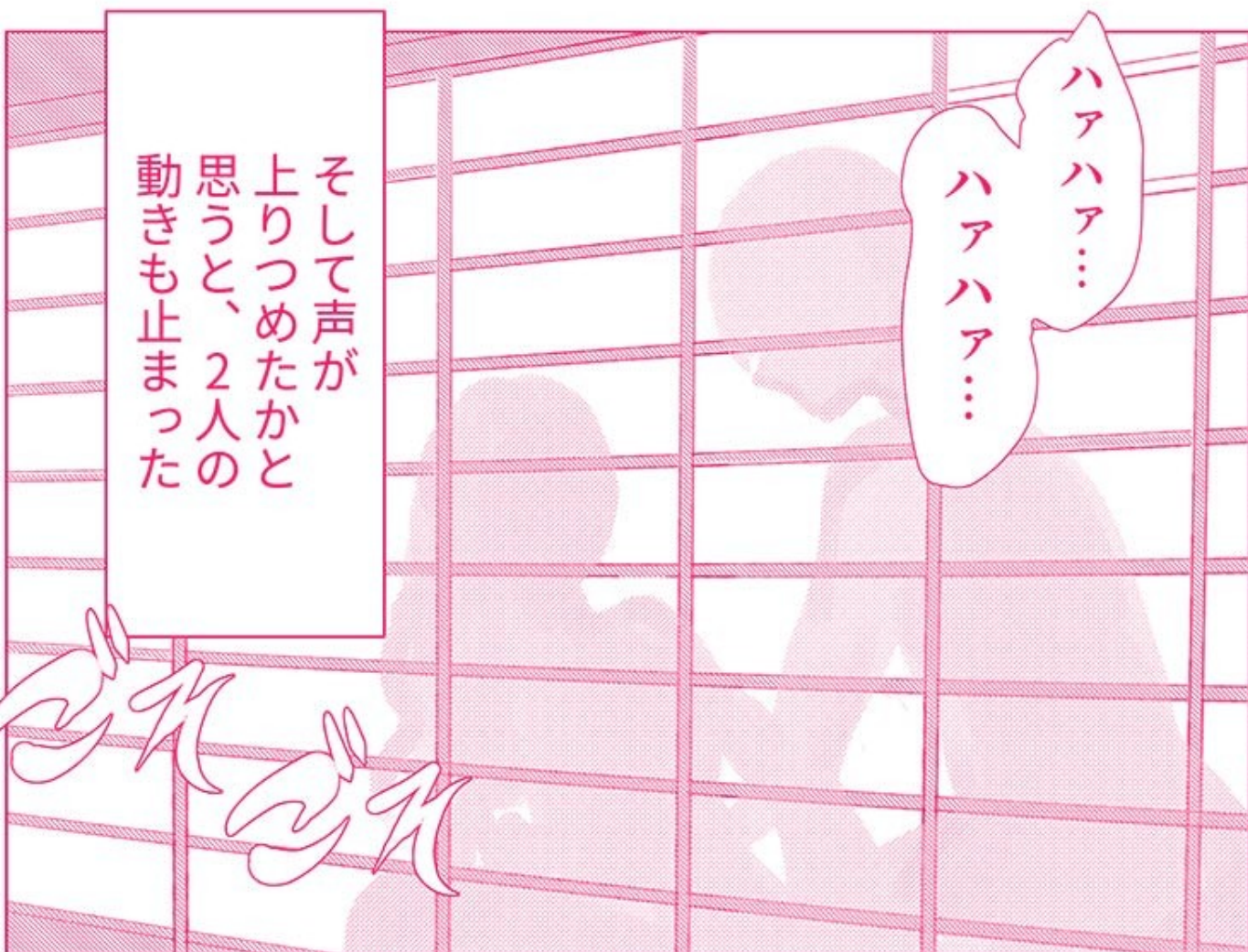
ちよっとした
ことだけど
やさしいな…

乱れた浴衣を
なおしながら、

私はまだ
ドキドキしていた







そのとき、

ふいにケイタの手が
私の頬にのび、
引き寄せられたか
と思うと

軽く
唇が重なった

ドキッ

っ…

ちゅ

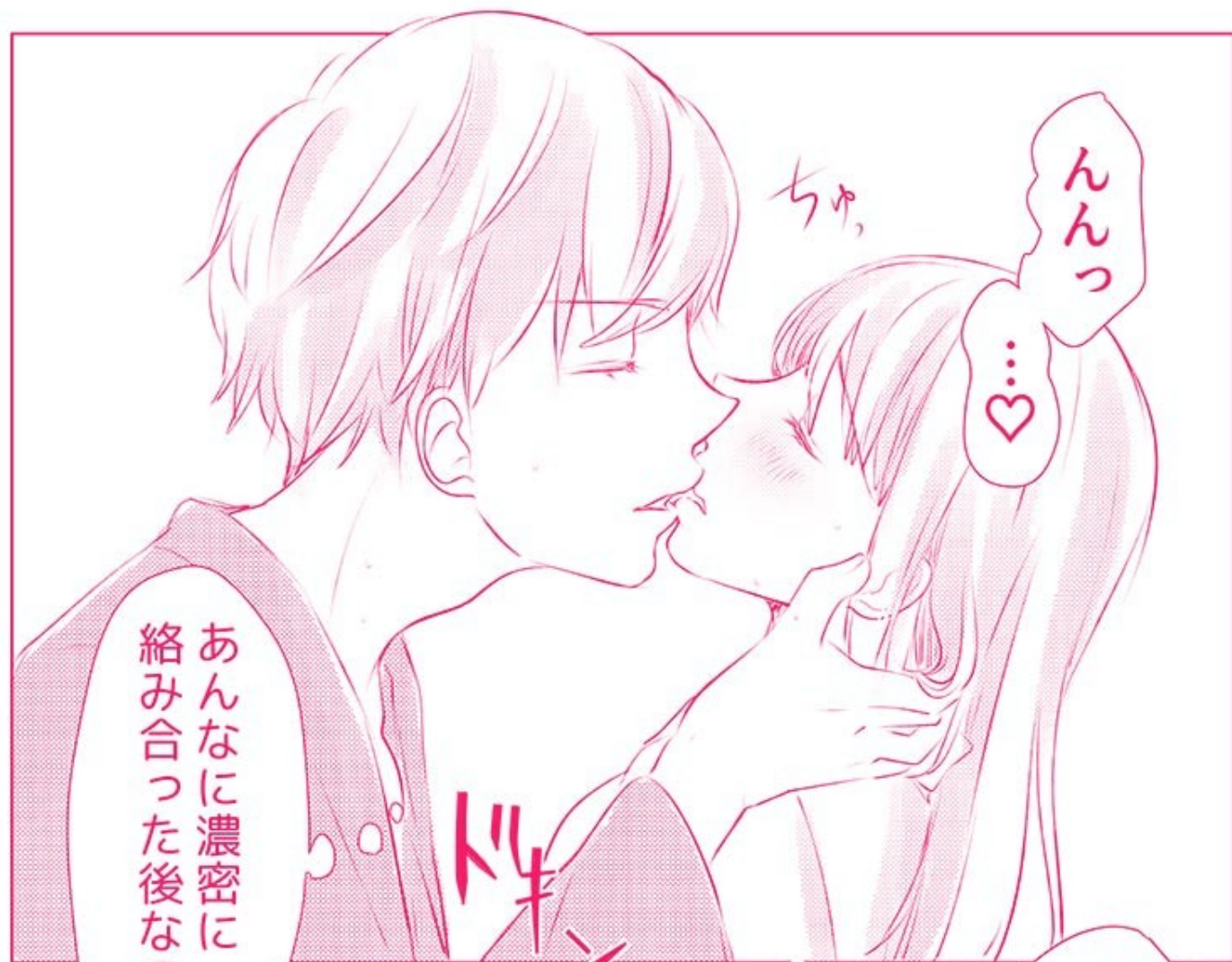
ドキッ

ドキッ

ちゅ

くちゅ

ぎゅっ



んんっ



ちゅ

あんなに濃密に
絡み合った後なのに

ドキ

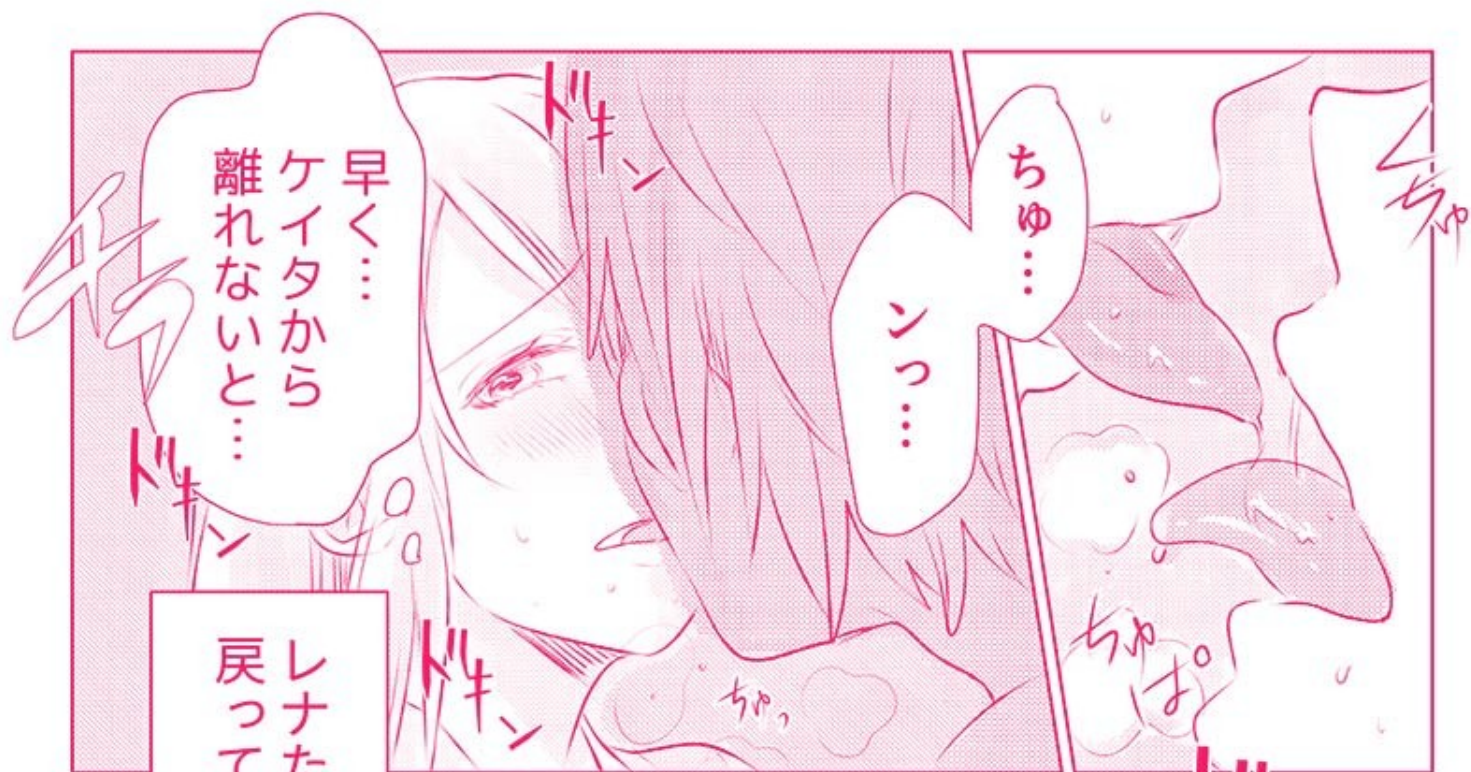
ドキ

どうしてだろう
一番感じてる…

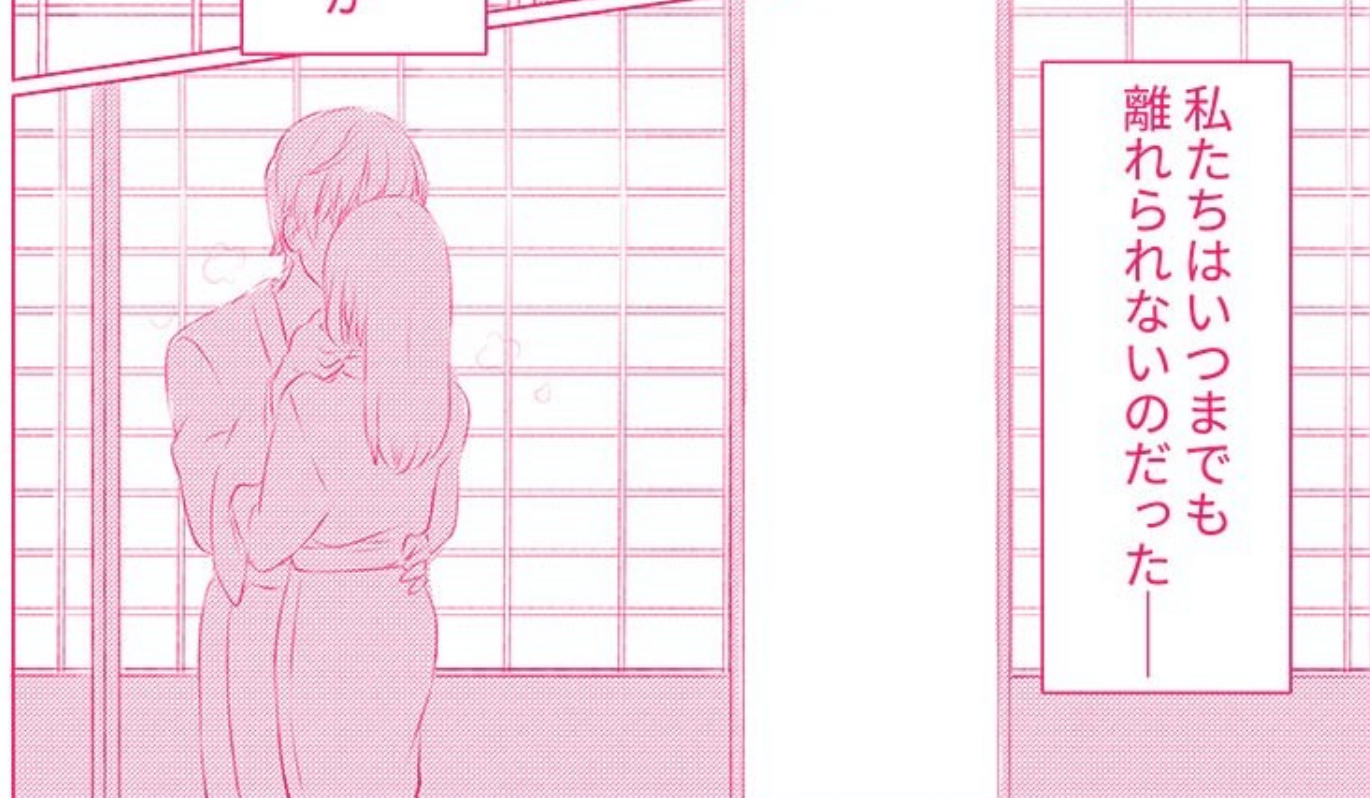
ドキ

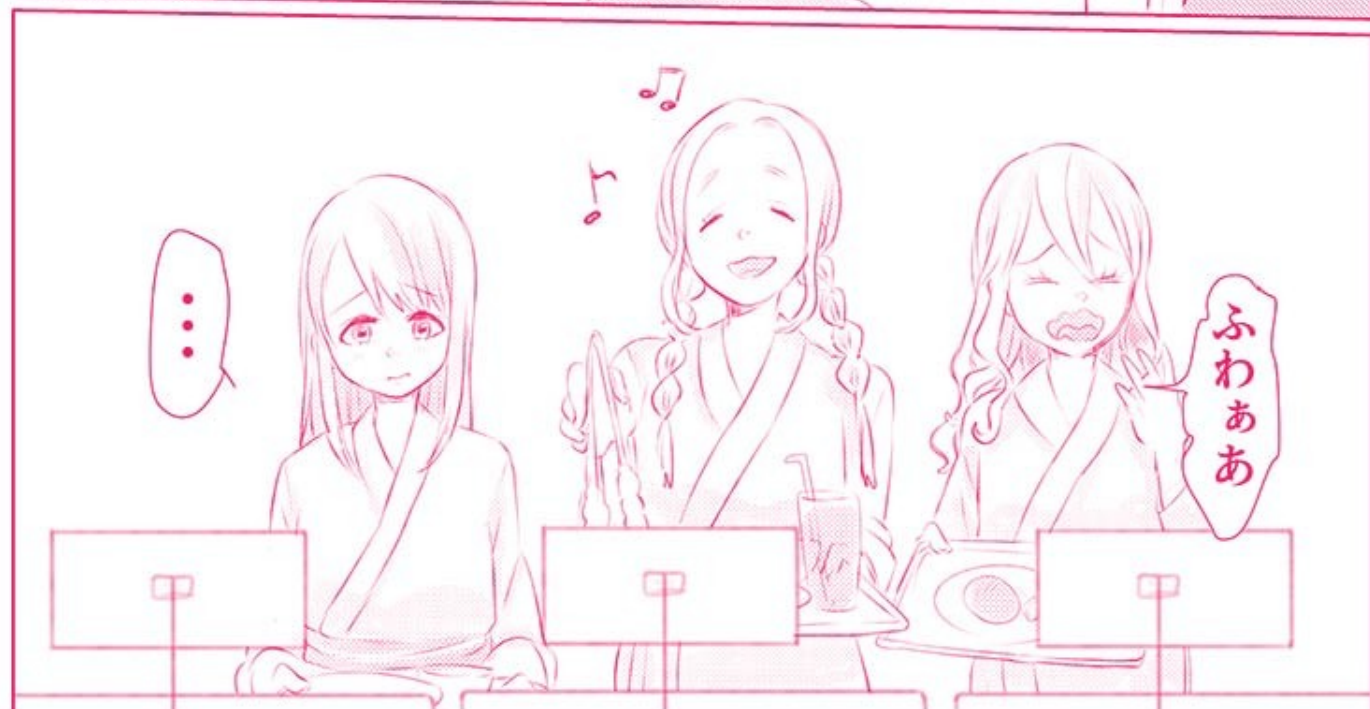
そのキスは
どの瞬間よりも
甘かった





それは
わかっていたが
レナたちがこちらに
戻ってきてしまう





みんなには
バレてなかった
みたいだな

でも…

ほわん

昨夜の自分に
私は衝撃を受けていた…

マイ?

えっ

どうかした?

ううん

なんでもない

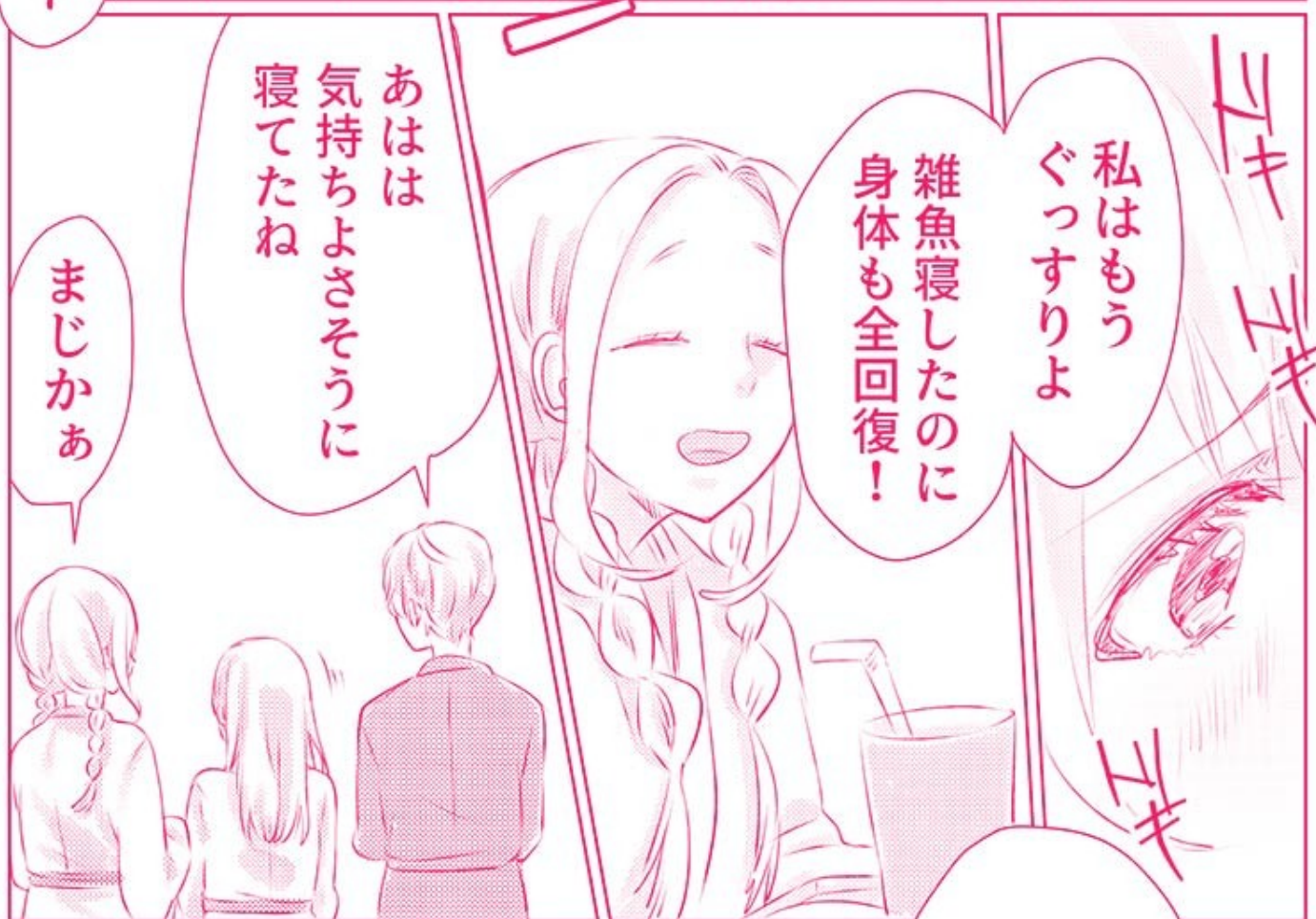
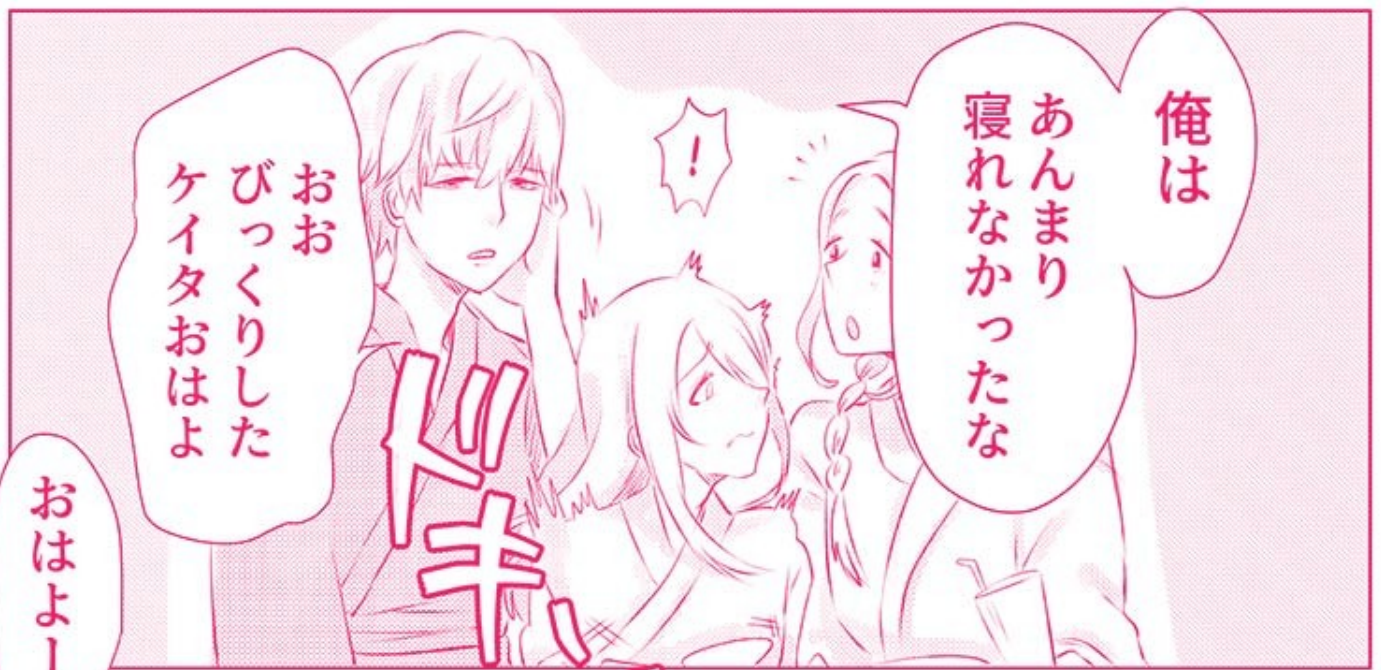
あ、この
サラダ美味しそお

あせあせ

あ、

レナ
おは…よ

お、おはよお



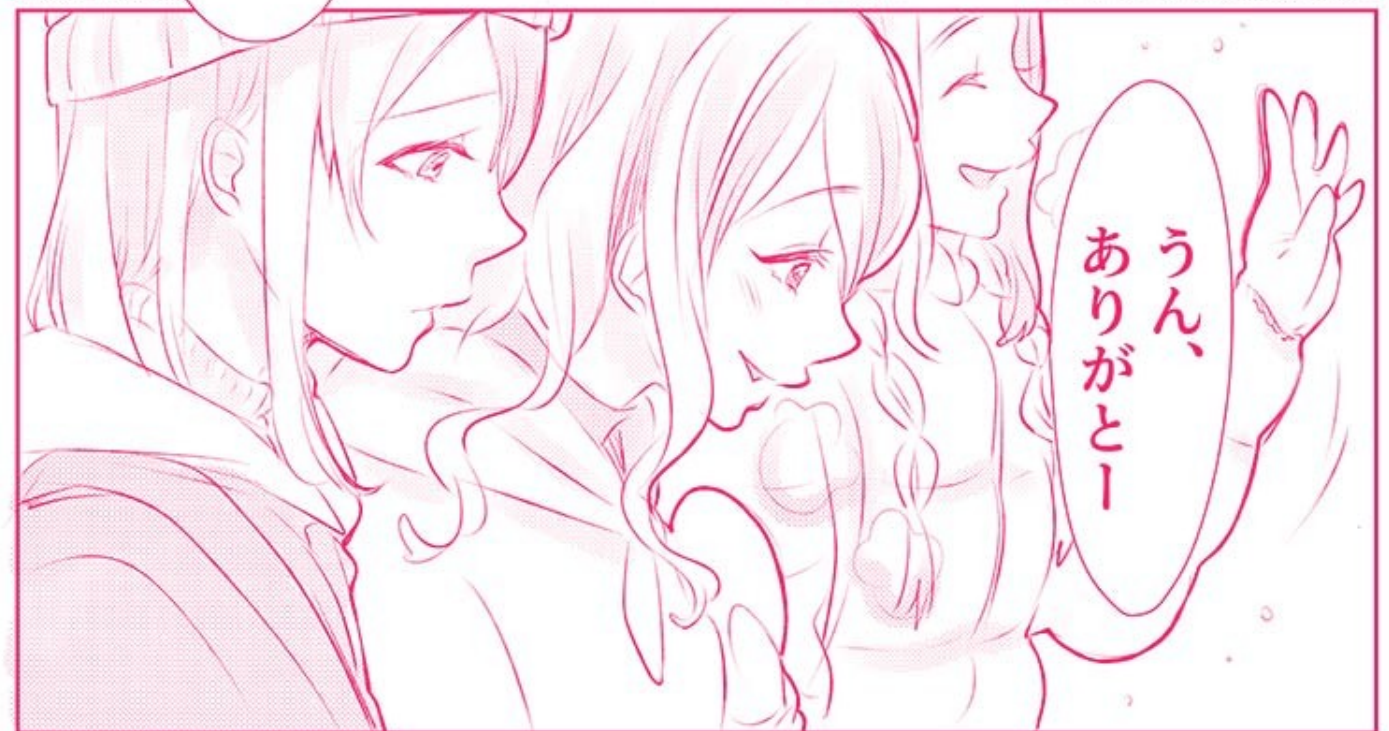
ケイタの
視線が刺さる

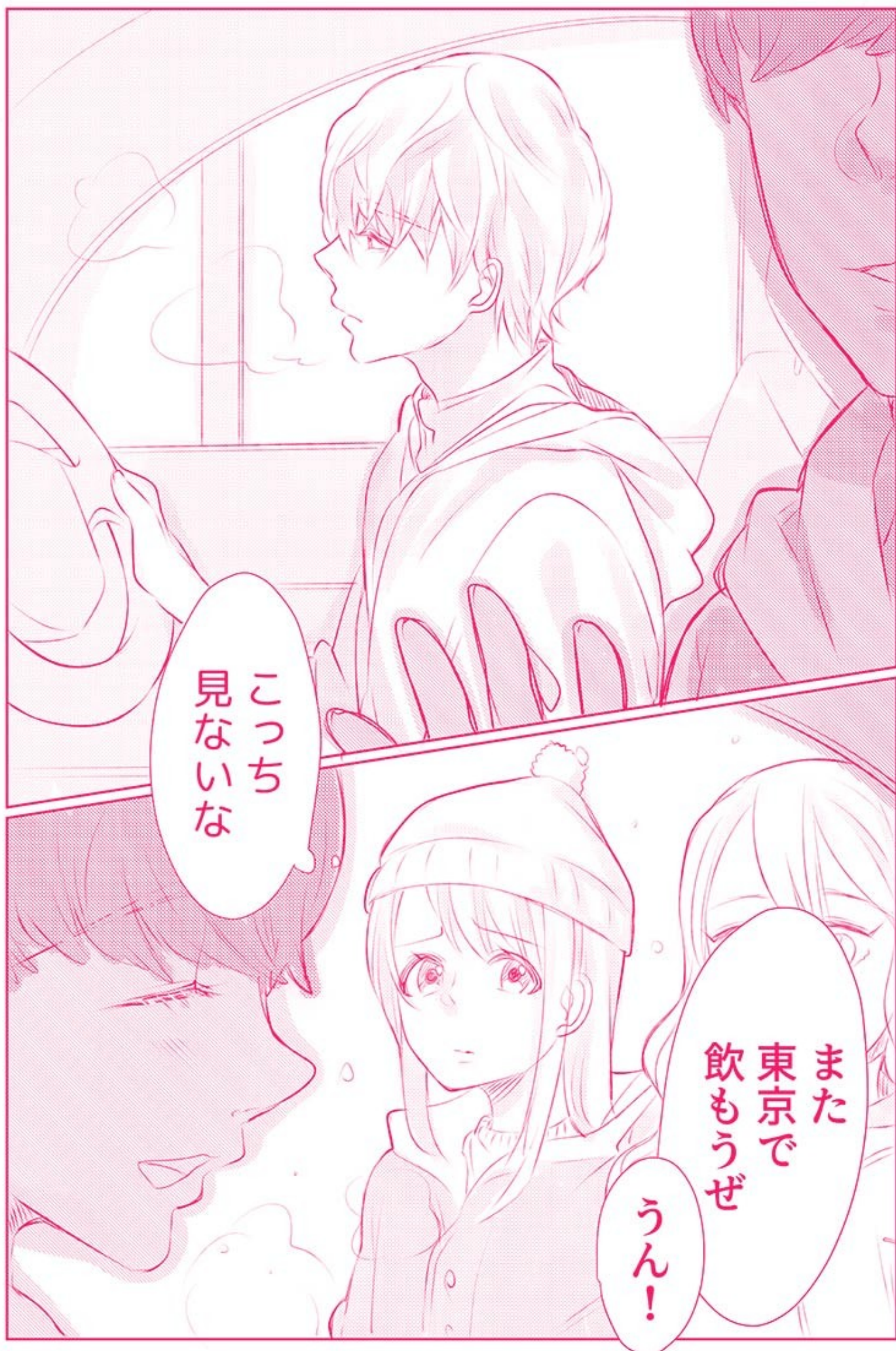
しかし私は
恥ずかしくて、

まともに
ケイタのことを
見れなかった

ぎゃっ

……





こっちは
見ないな

また
東京で
飲もうぜ

うん!

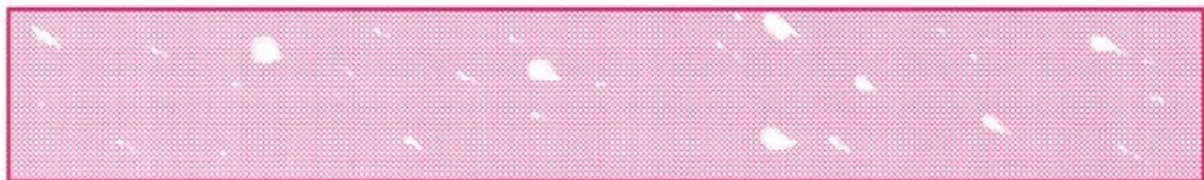
また



結局、
言葉を交わすことなく、
ケイタは帰ってしまった

俺たちも
行くか

つかれたー
帰ろ帰ろー



気遣わなくても
いいからな？

え

皆寝てるし
マイも寝てなよ

あ…うん
眠くないから平気

ありがとね
マサキ

んー

…

あれが
マイちゃんだったら

嫉妬してた

ン...ツ

ン...♡

...♡♡





もしかして
昨日のことは
夢だったりして

そう思ったけれど、
目をつむると
熱い感触が
リアルに蘇った

スノボの時の
ケイタ

旅館での
ケイタ

まだダメだよ…

ケイタ…



あの日のことを
消化できないまま、
一週間たった



ケイタからの
連絡は
ないまま……



ピコン

LIDE
ケイタ

ごはんでも行かない？

え、え、
ケイタからだ

うそ…

体がふわふわと
浮いたような
感覚だった

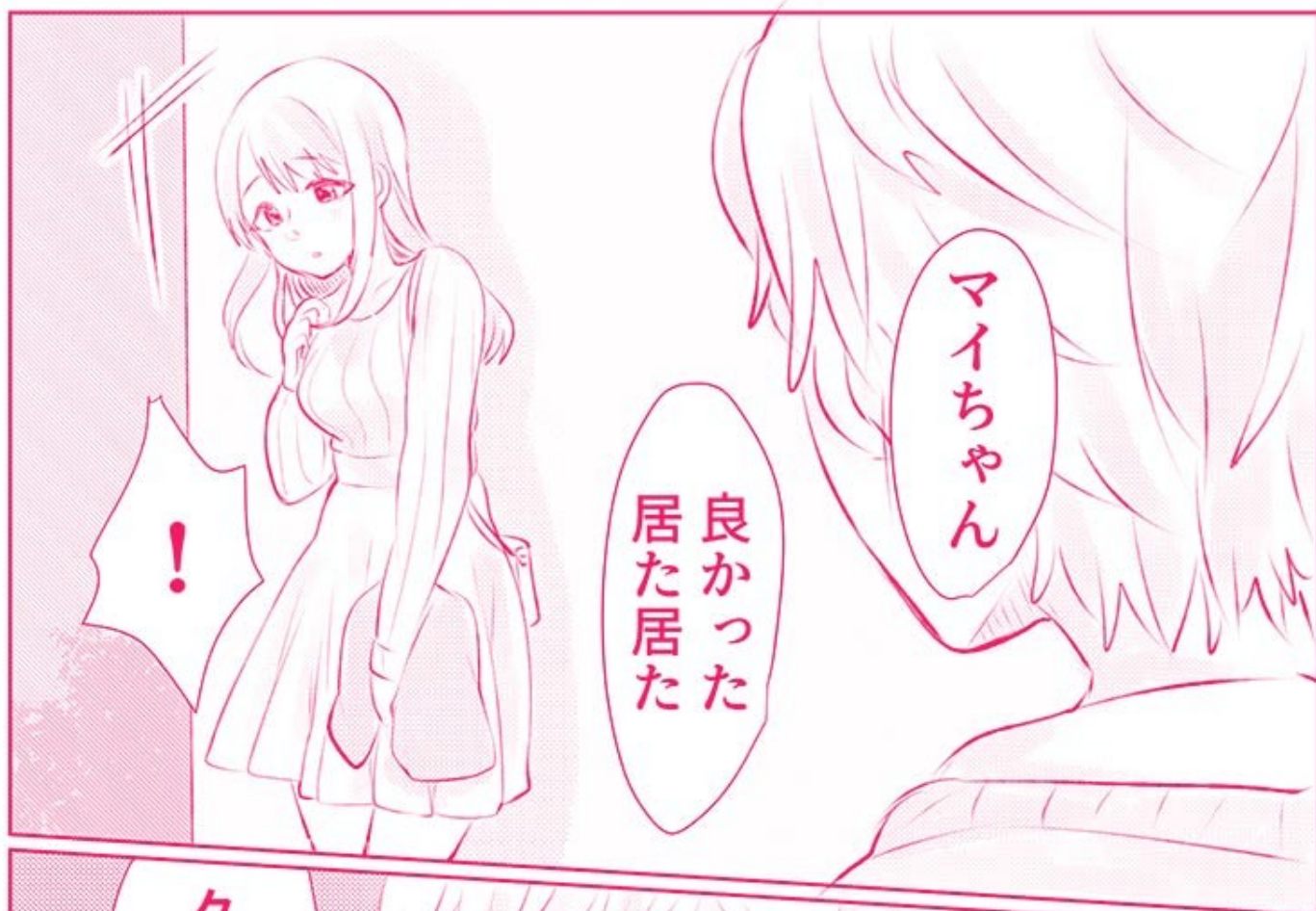
張り切り
すぎたかな…

服…

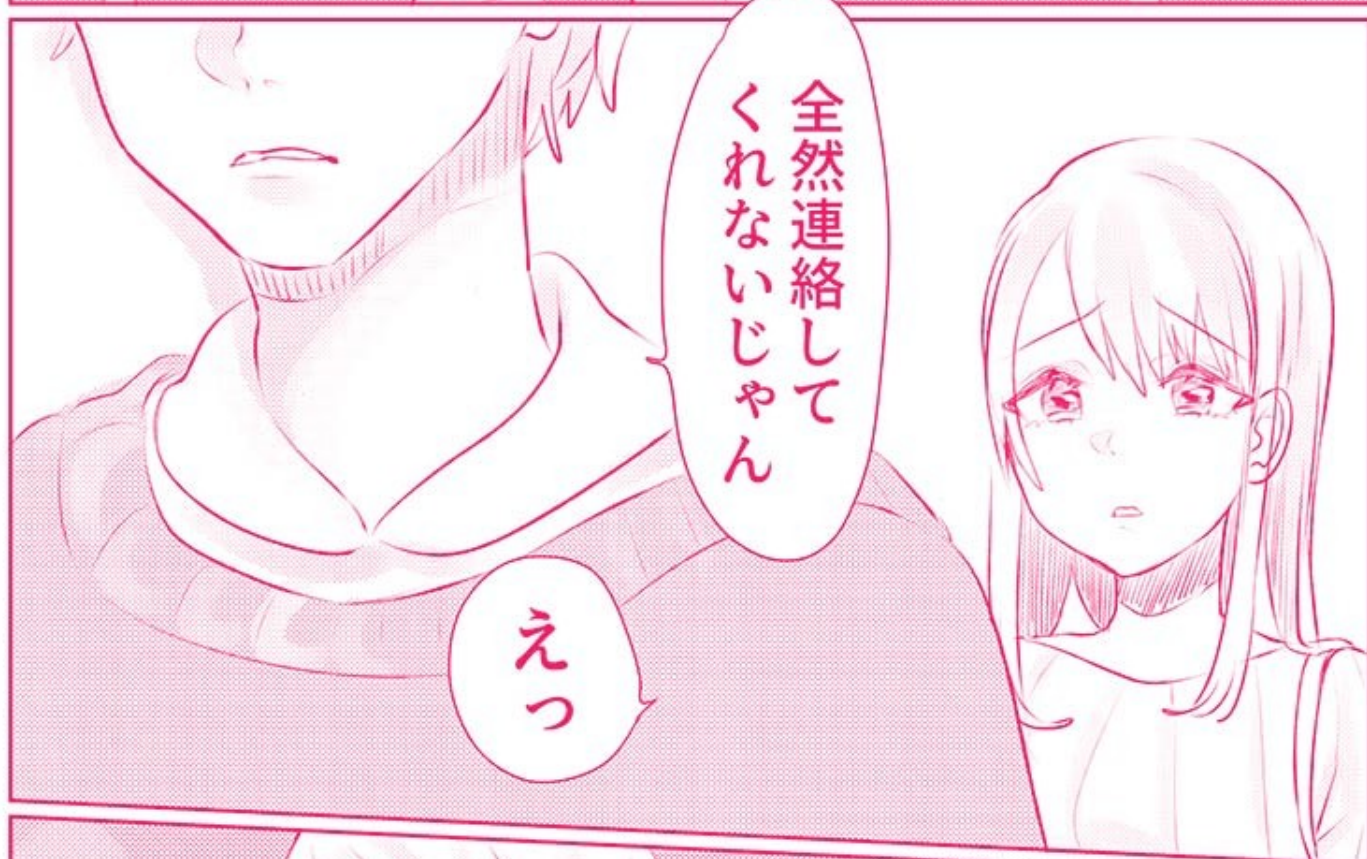
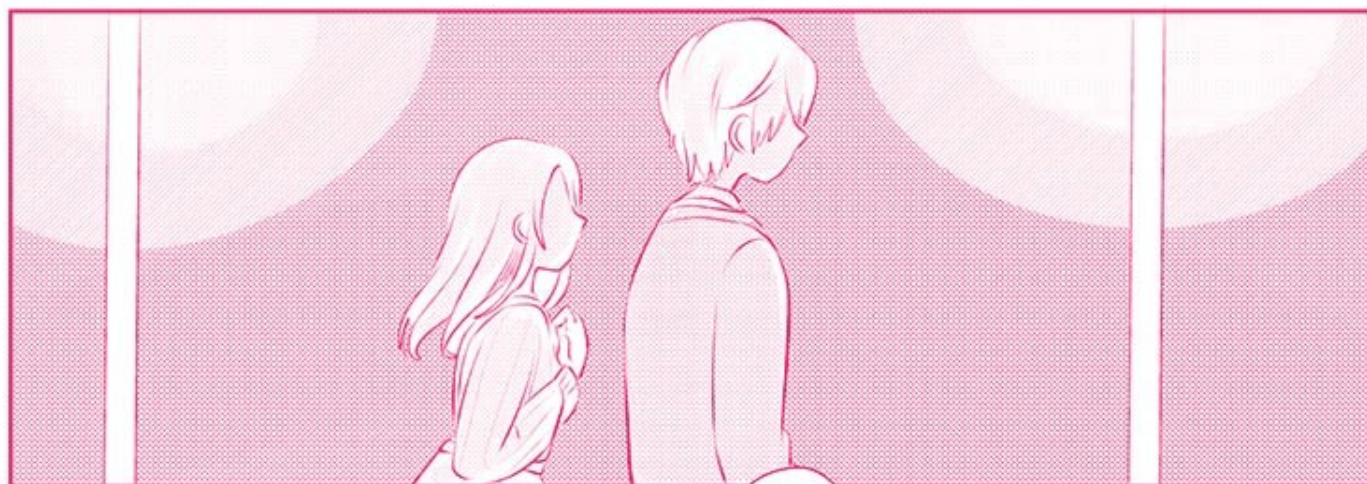
ケイタ
どんな格好で
くるんだろう

深呼吸
深呼吸

だめだ
どんだん
緊張してる







え？

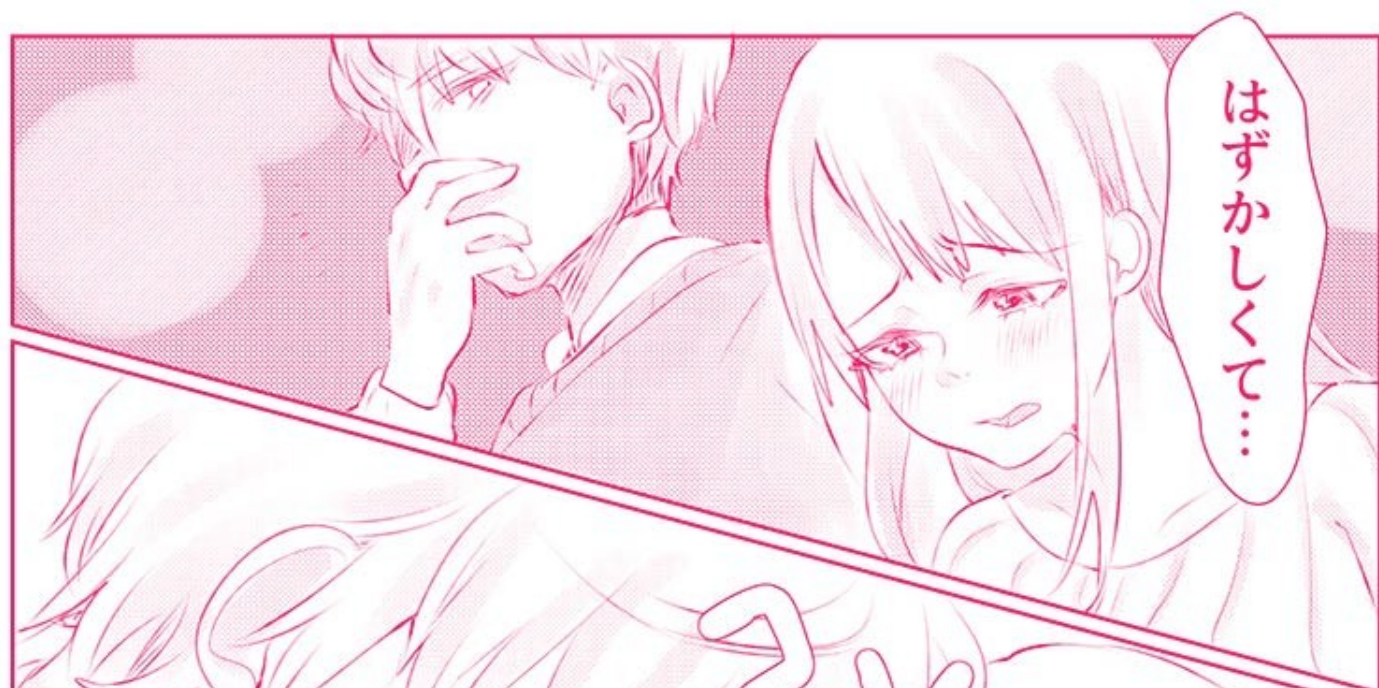
返事返って
きてすげー
ホツとしたよ

そんな…

うれしかったよ、
お誘い

ほんとに？
スノボの帰りも
目合わせてくれないし、
嫌われたかと思ってた

ごめんっ
それは…
だって…





あれほど
緊張していたのに

ケイタ

こんなお店
知ってるんだね
私ココ初めて…

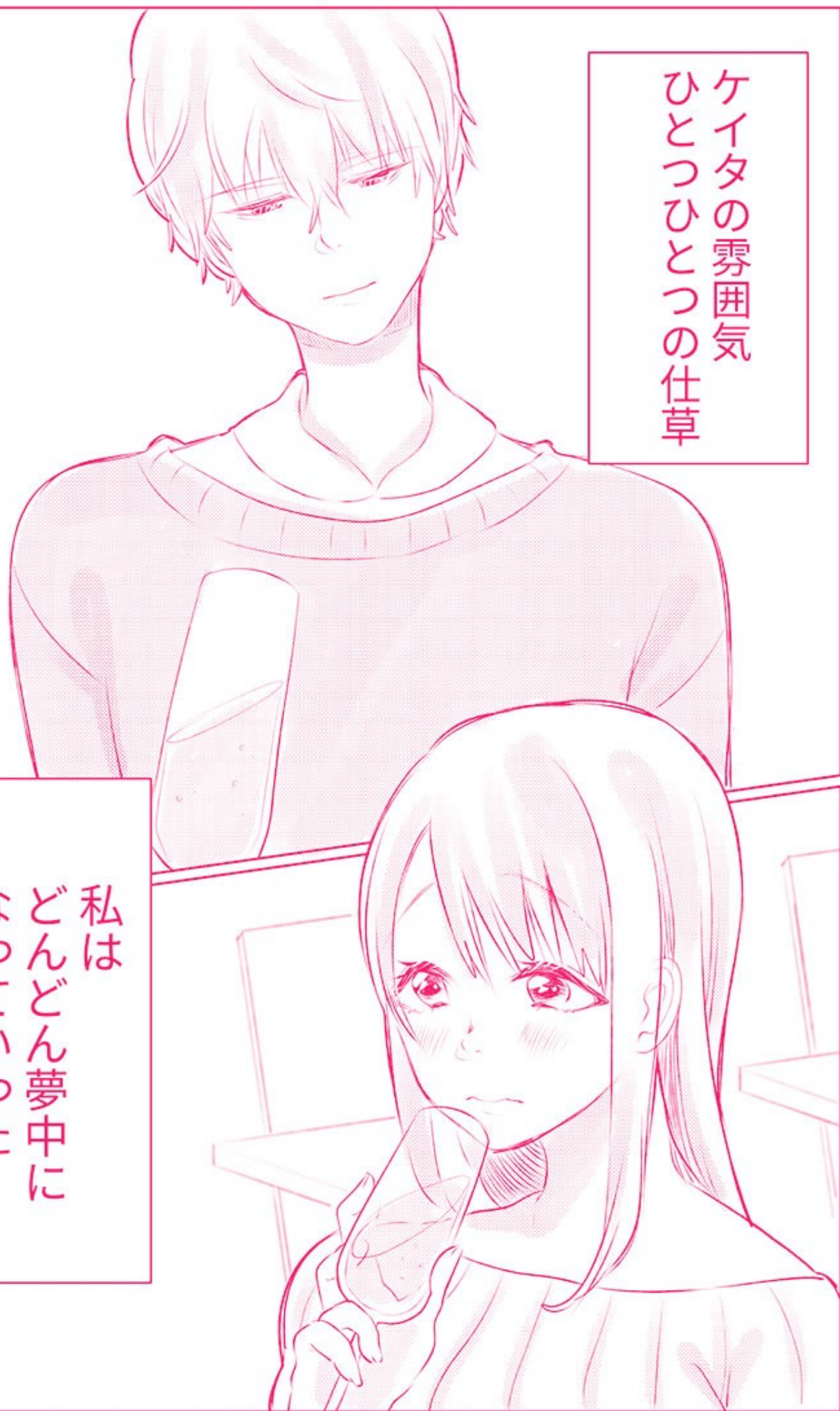
ごめん

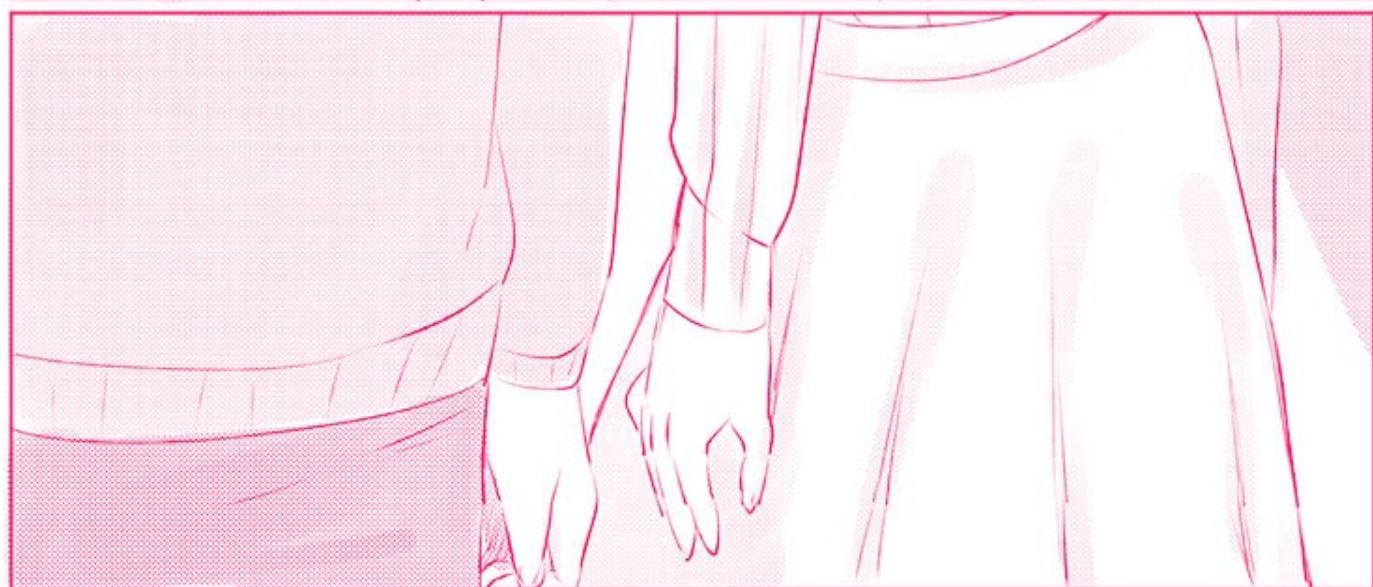
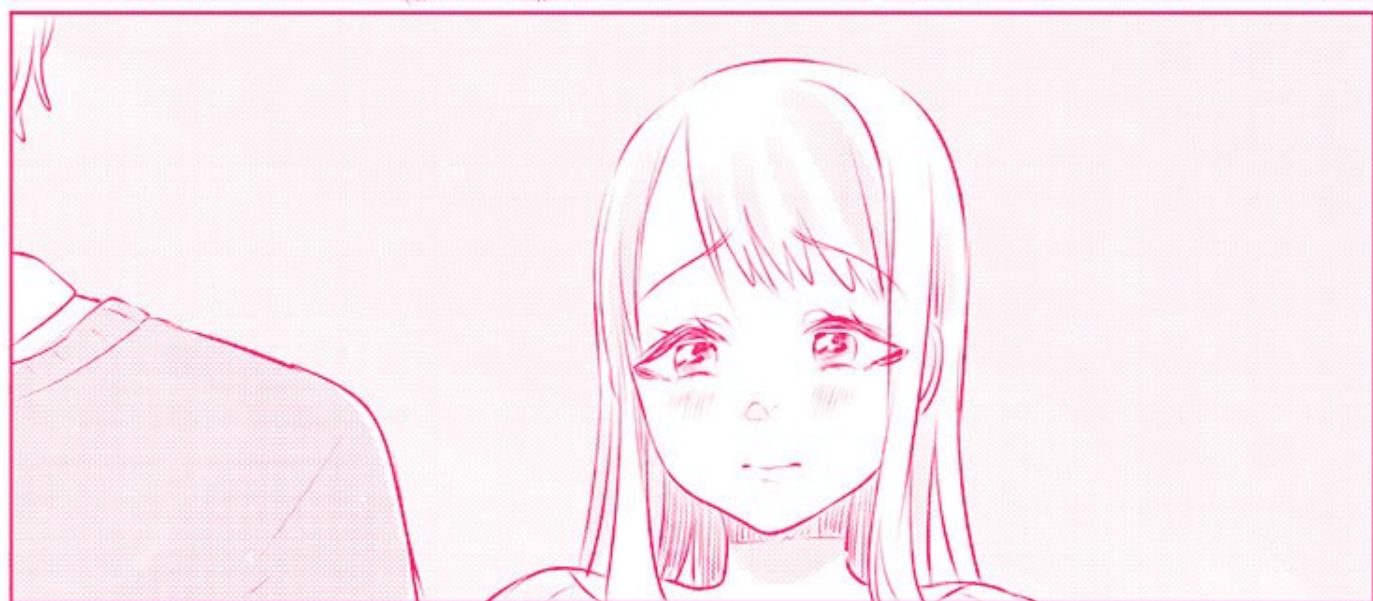
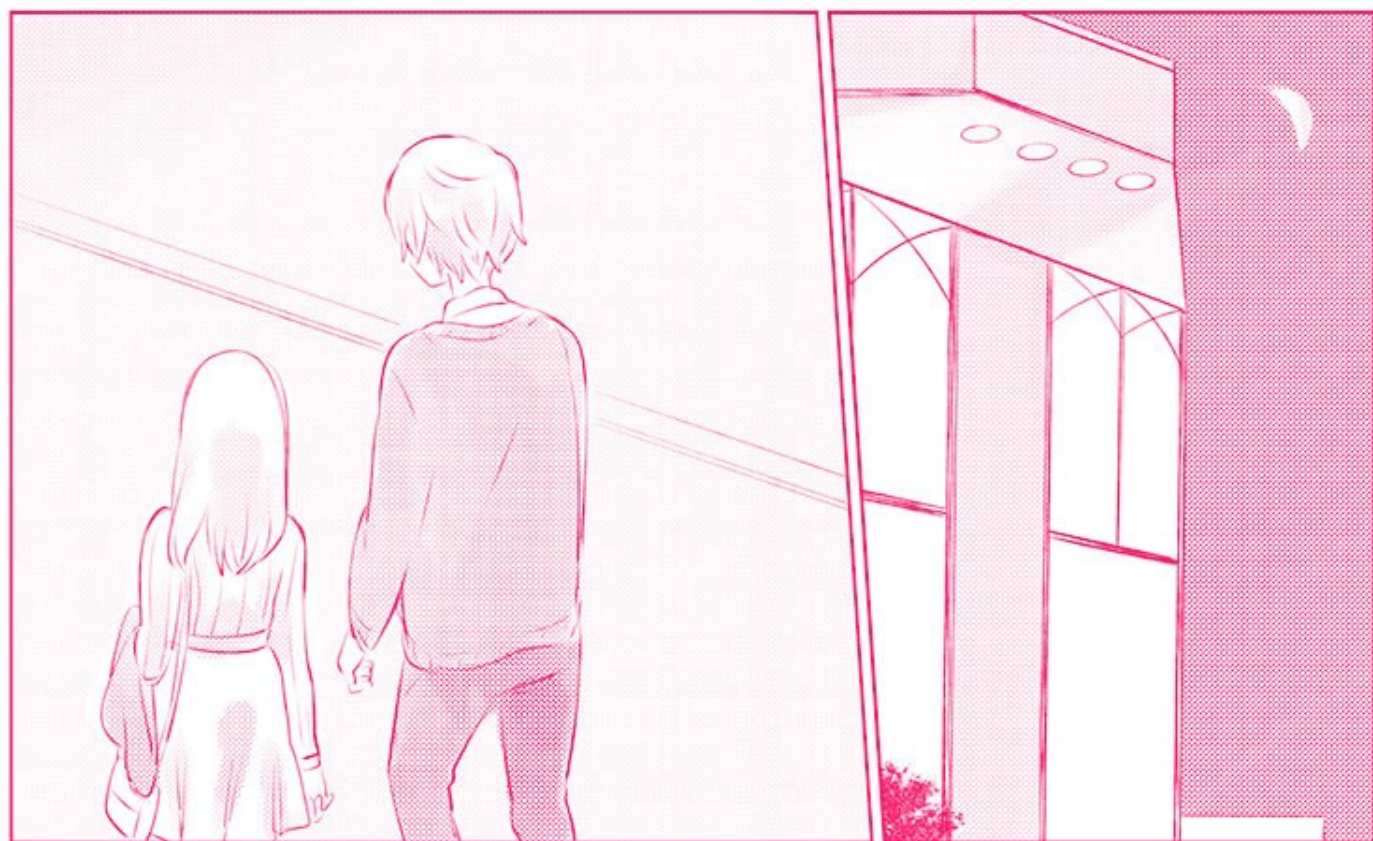
俺も初めて

ケイタが
和ませてくれて
楽しい時間が流れる

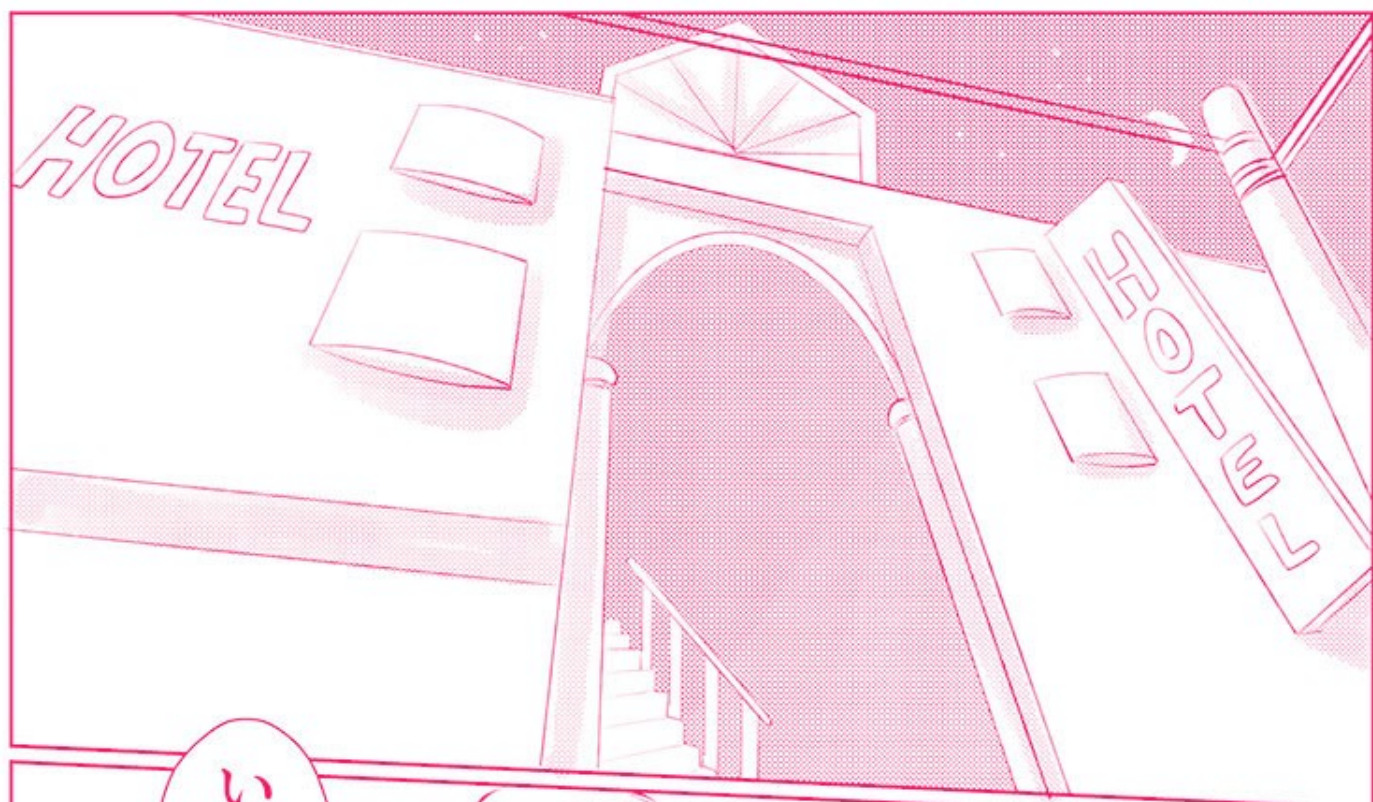
ケイタの雰囲気
ひとつひとつの仕草

私は
どんどん夢中
になっていった

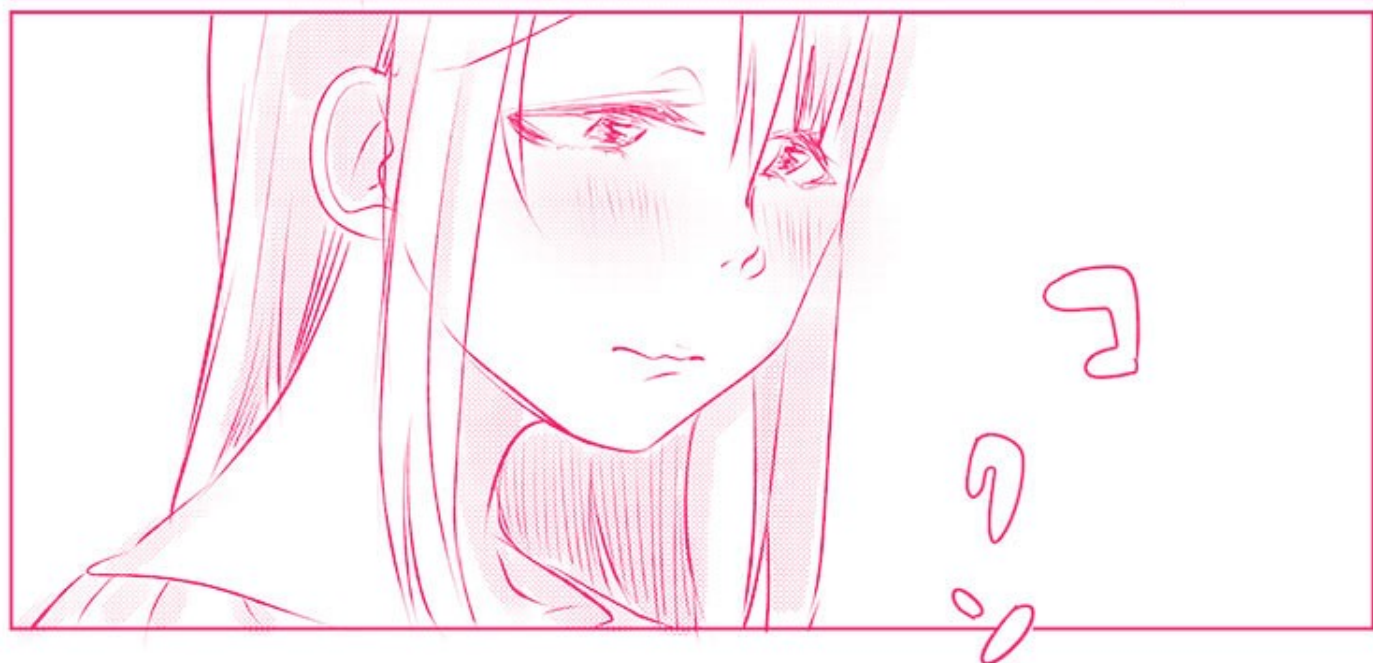
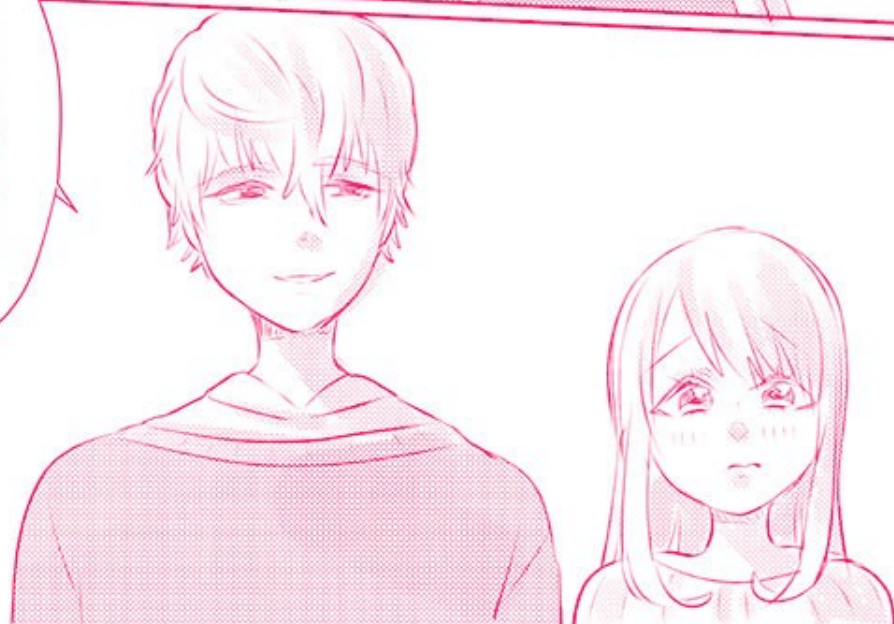


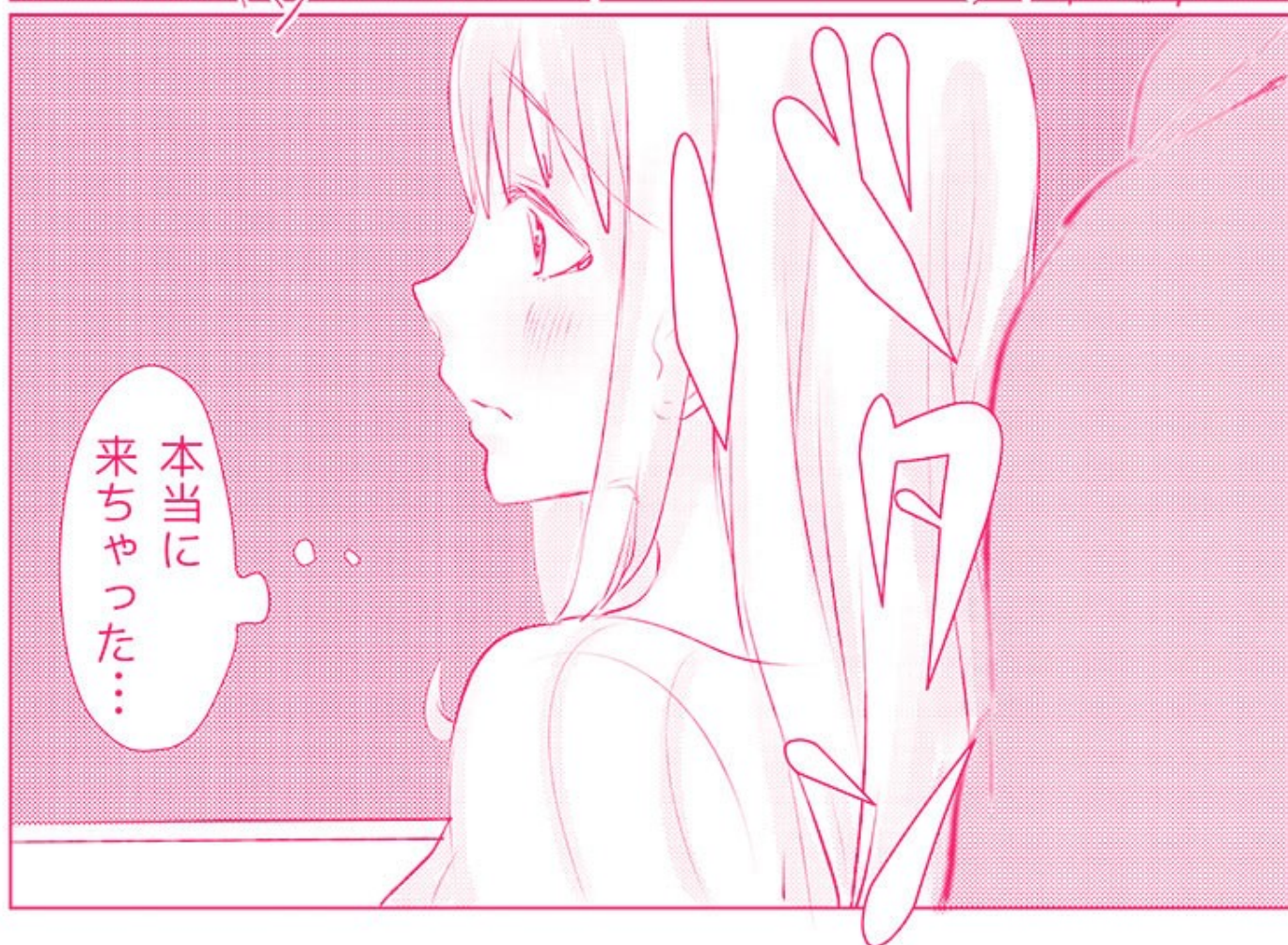
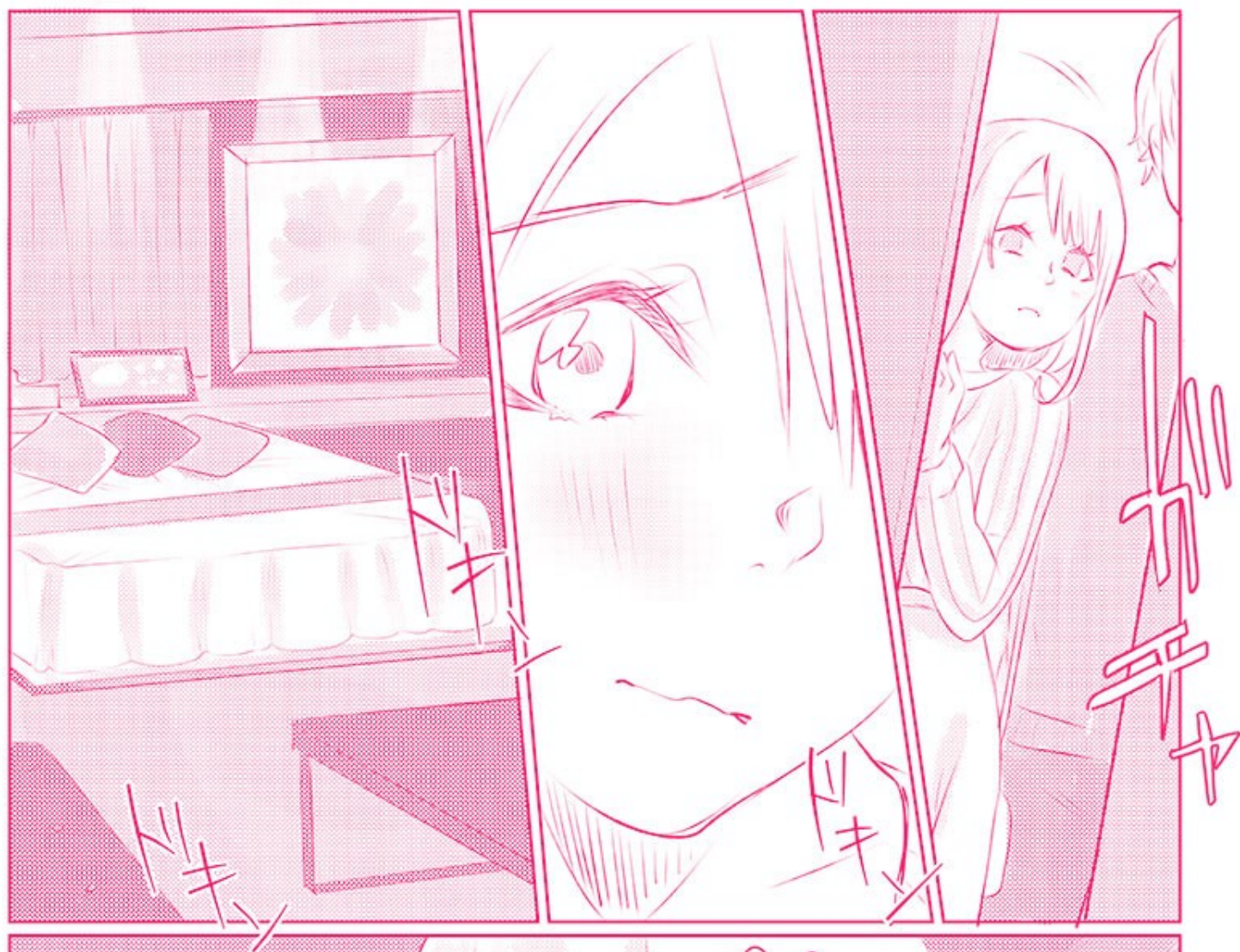


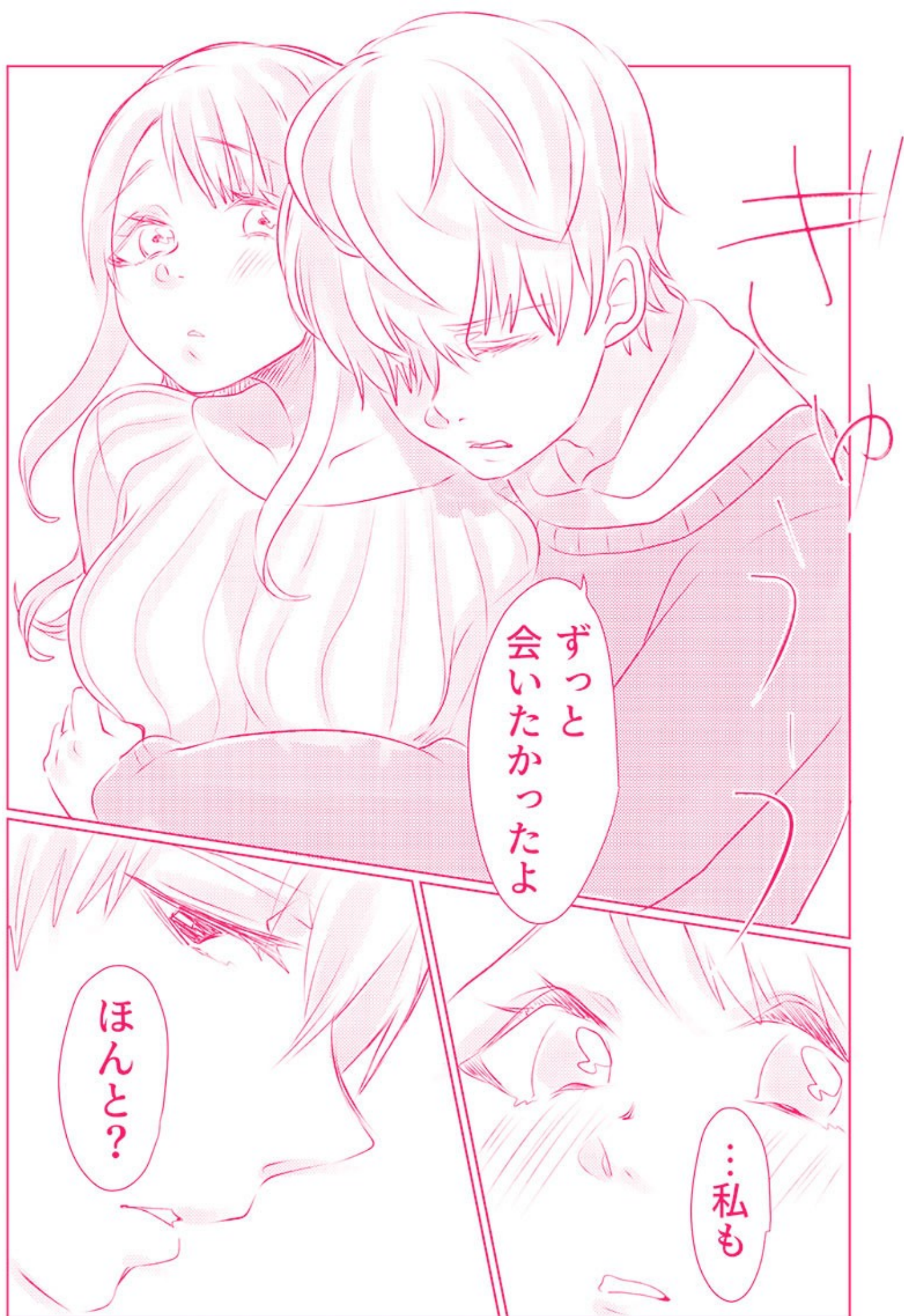




いこっか？



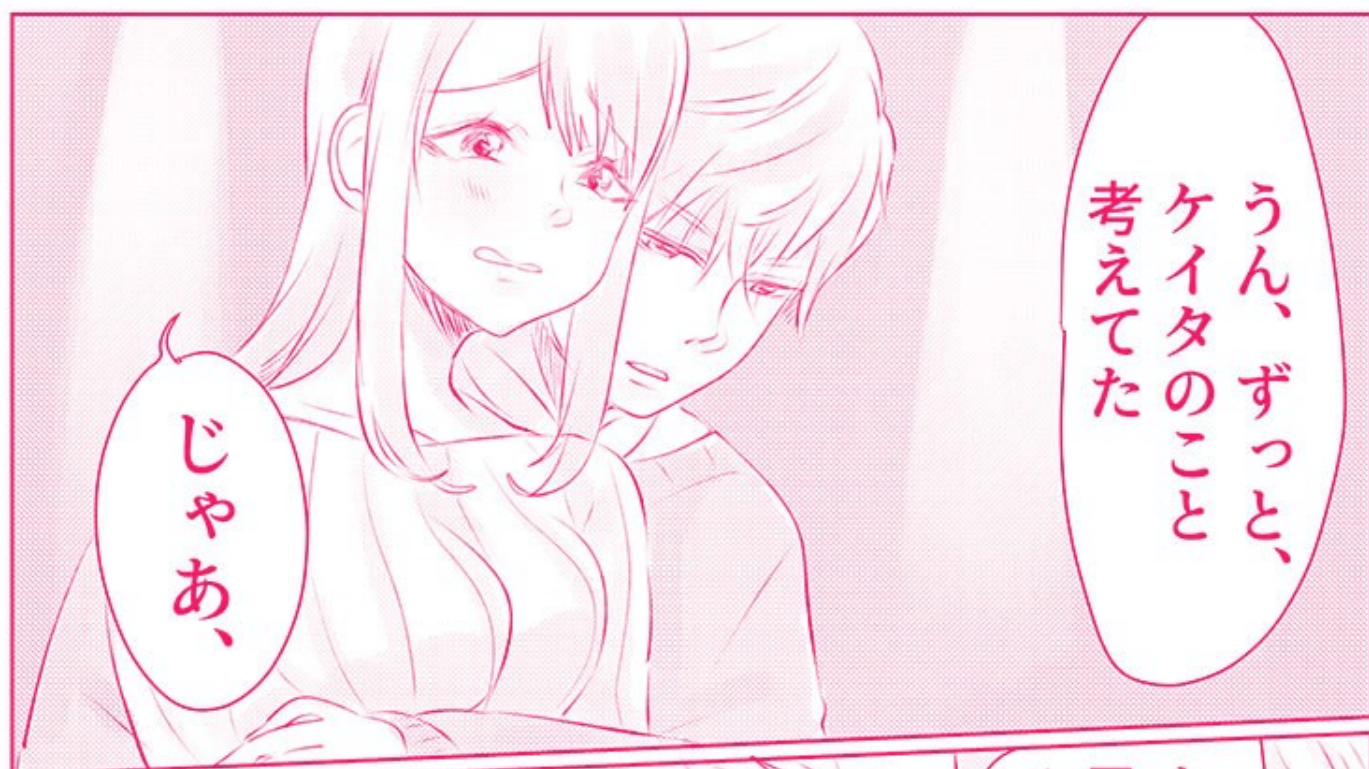


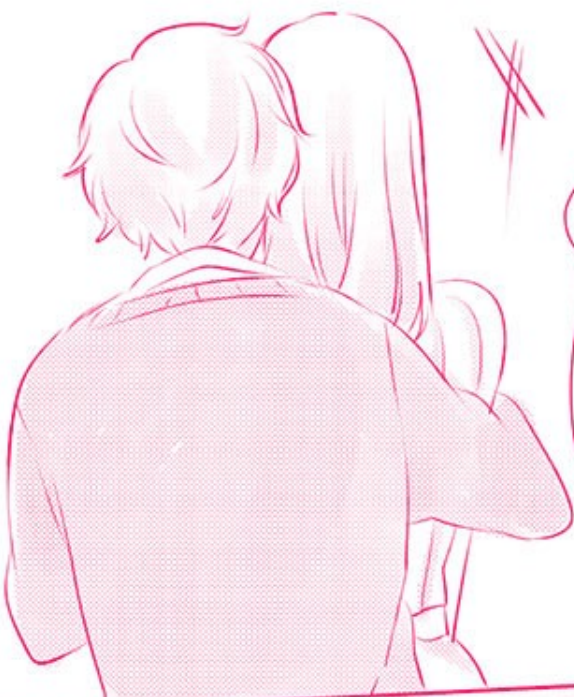


ずっと
会いたかったよ

ほんと?

…私も





してないって

ケイタは
私をすぐからかう

でも

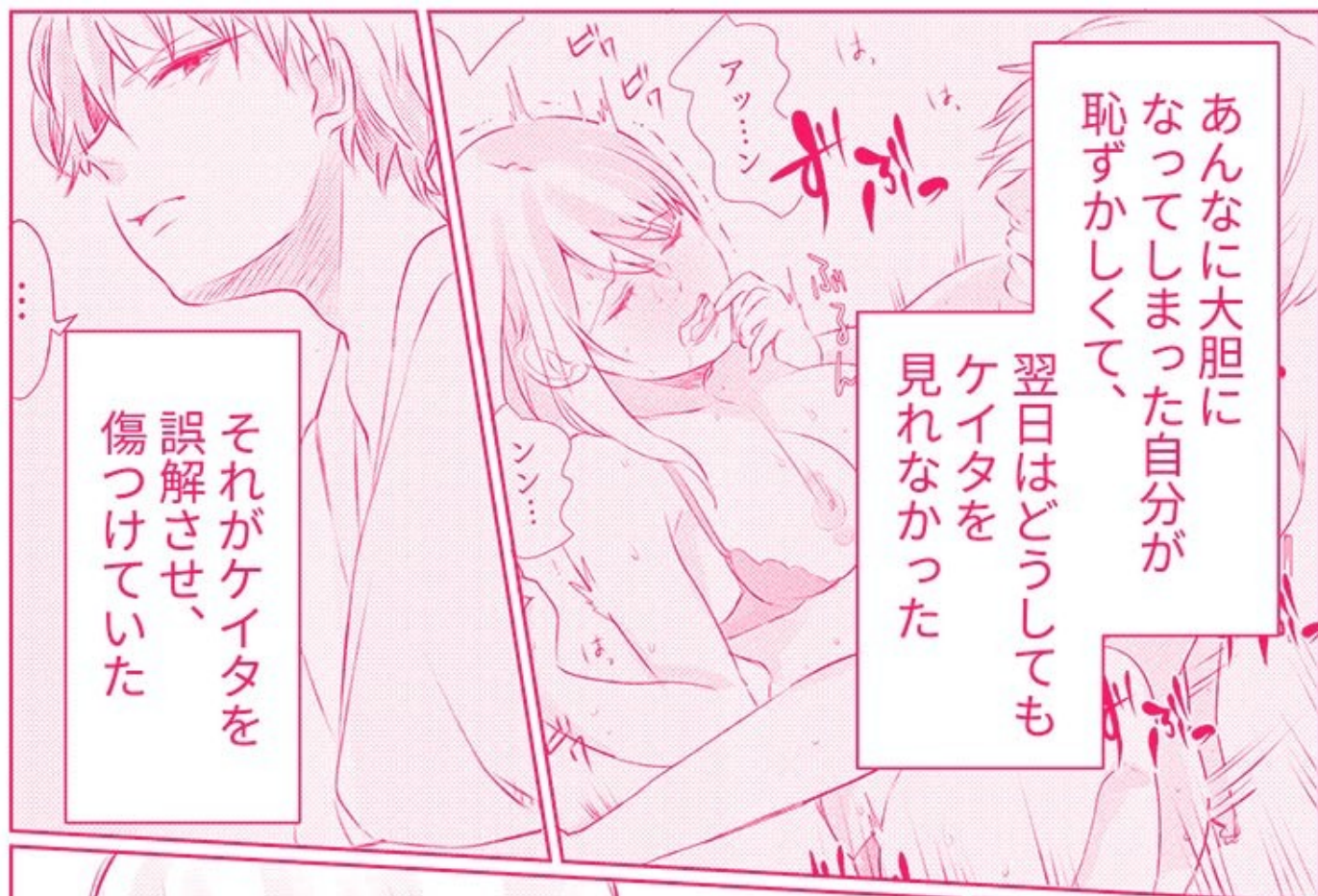


なんだ…
悲しいな

ちよつとムキになって
私が強い口調になると、

急にしおらしく
なるからずるい

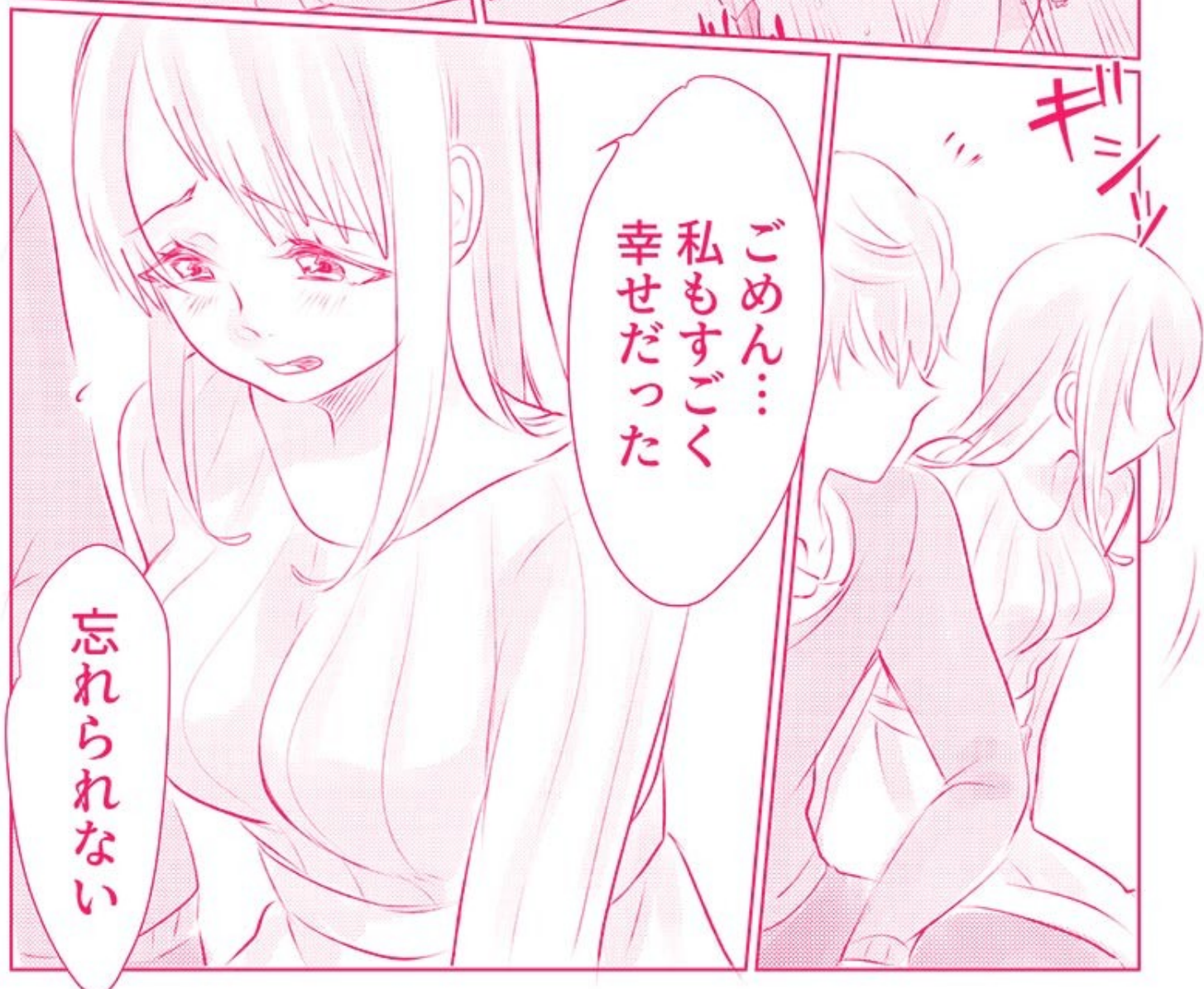




あんなに大胆に
なってしまった自分が
恥ずかしくて、

翌日はどうしても
ケイタを
見れなかった

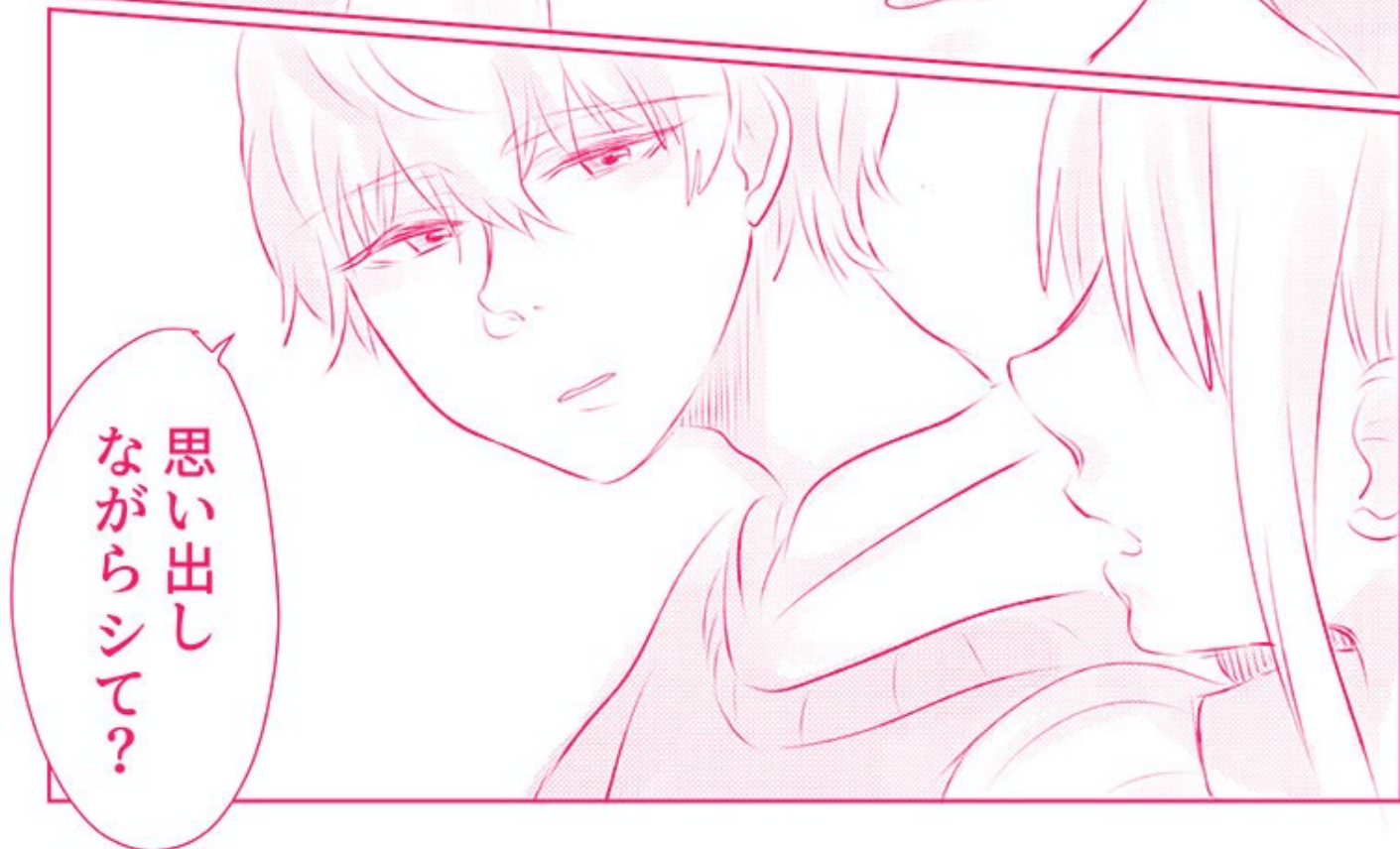
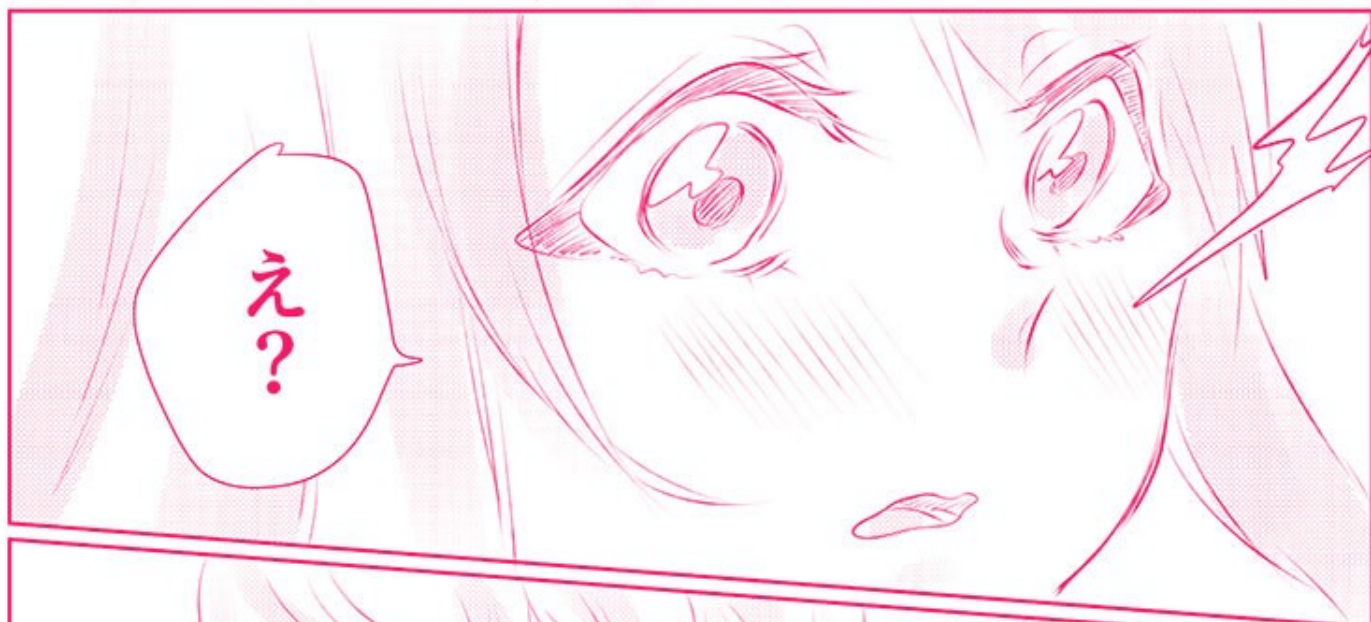
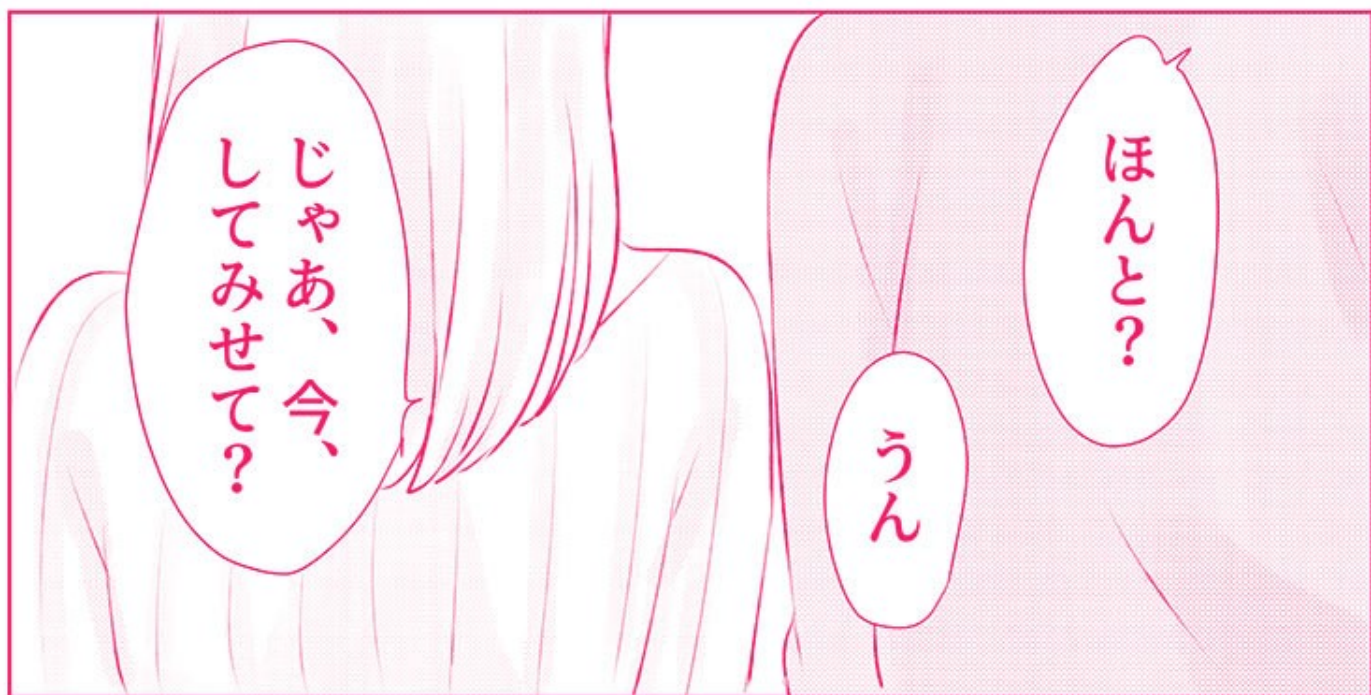
それがケイタを
誤解させ、
傷つけていた

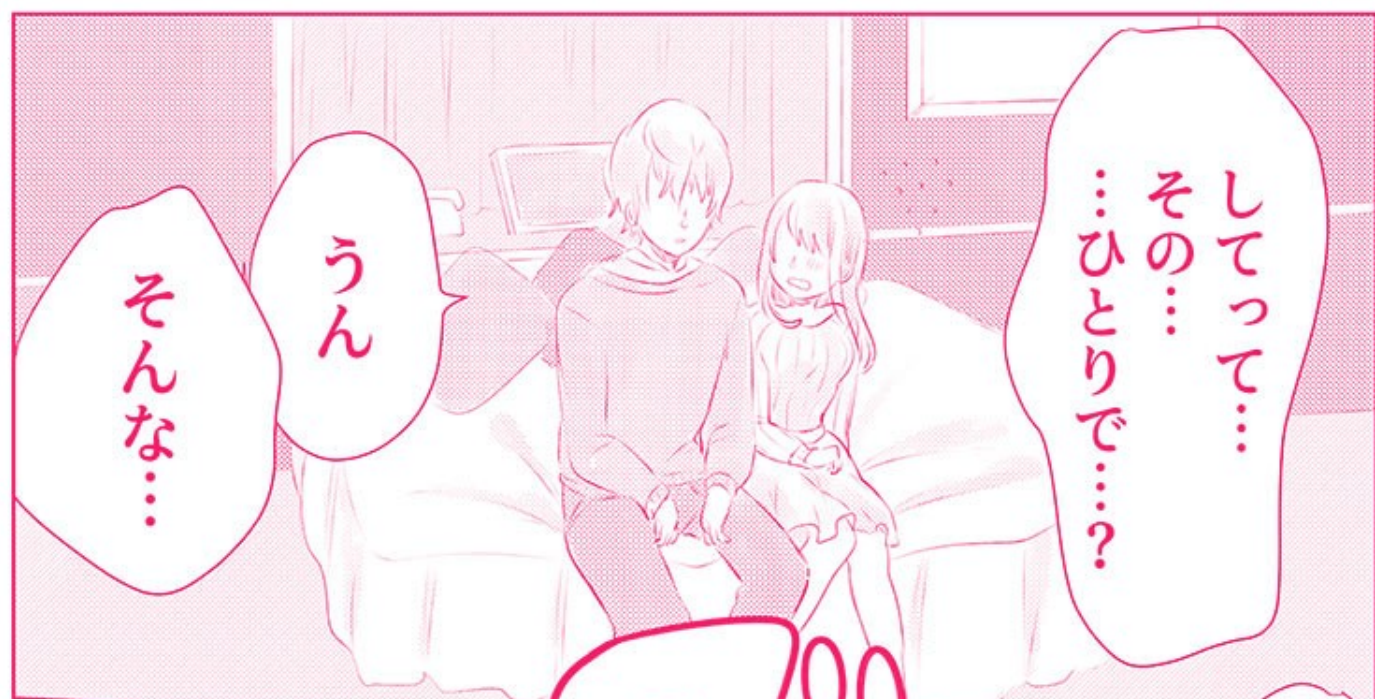


ごめん...
私もすごく
幸せだった

忘れられない

ギシッ





してって…
その…
…ひとりで…？

うん

そんな…



みたい

本当に
俺のこと
忘れてないか

そんなの無理

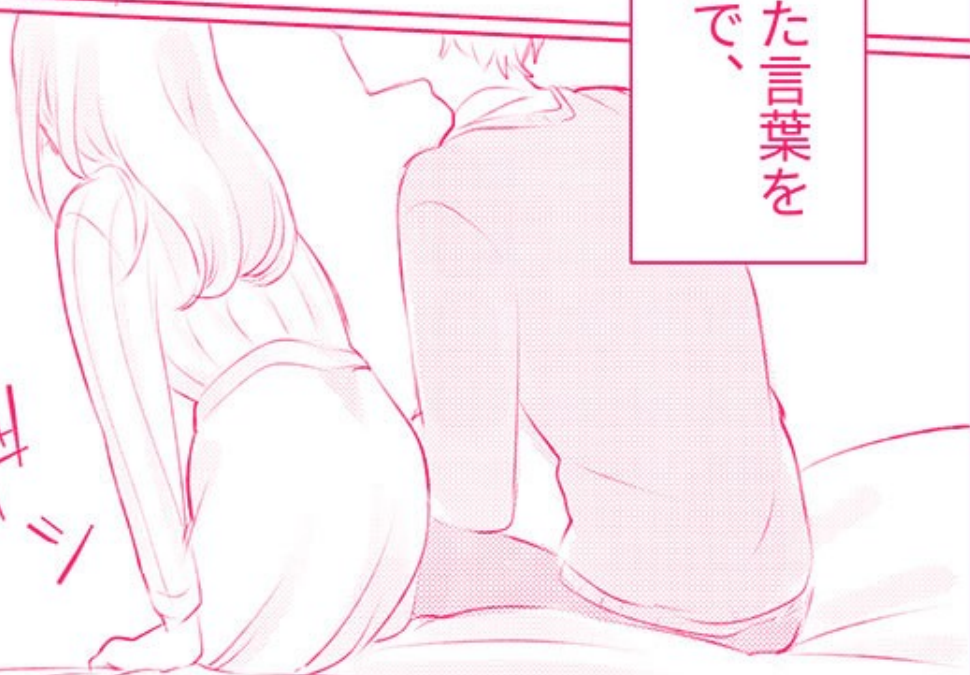


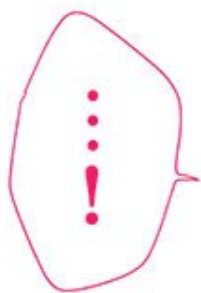
でかかった言葉を
飲み込んで、



私は…

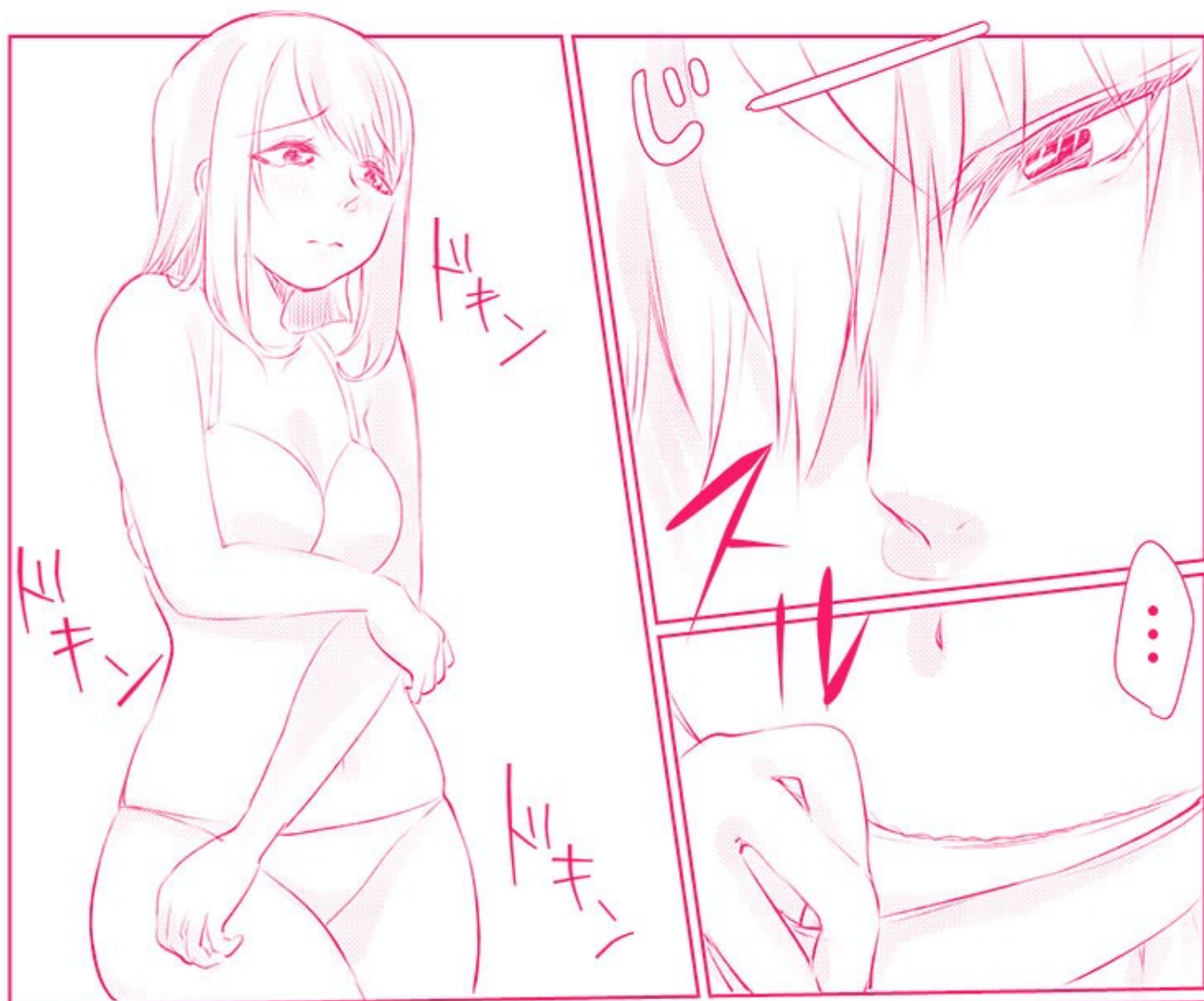
≡

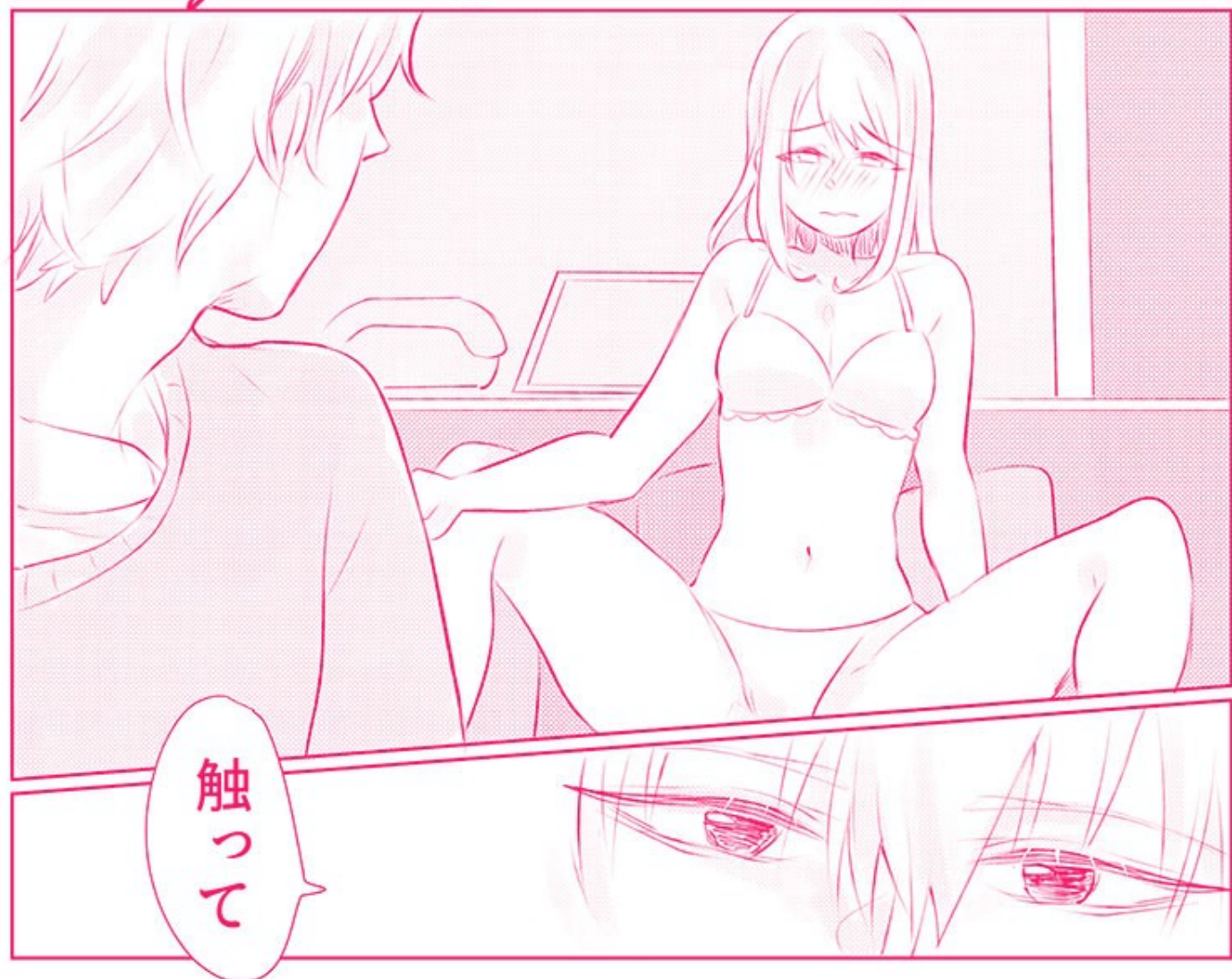
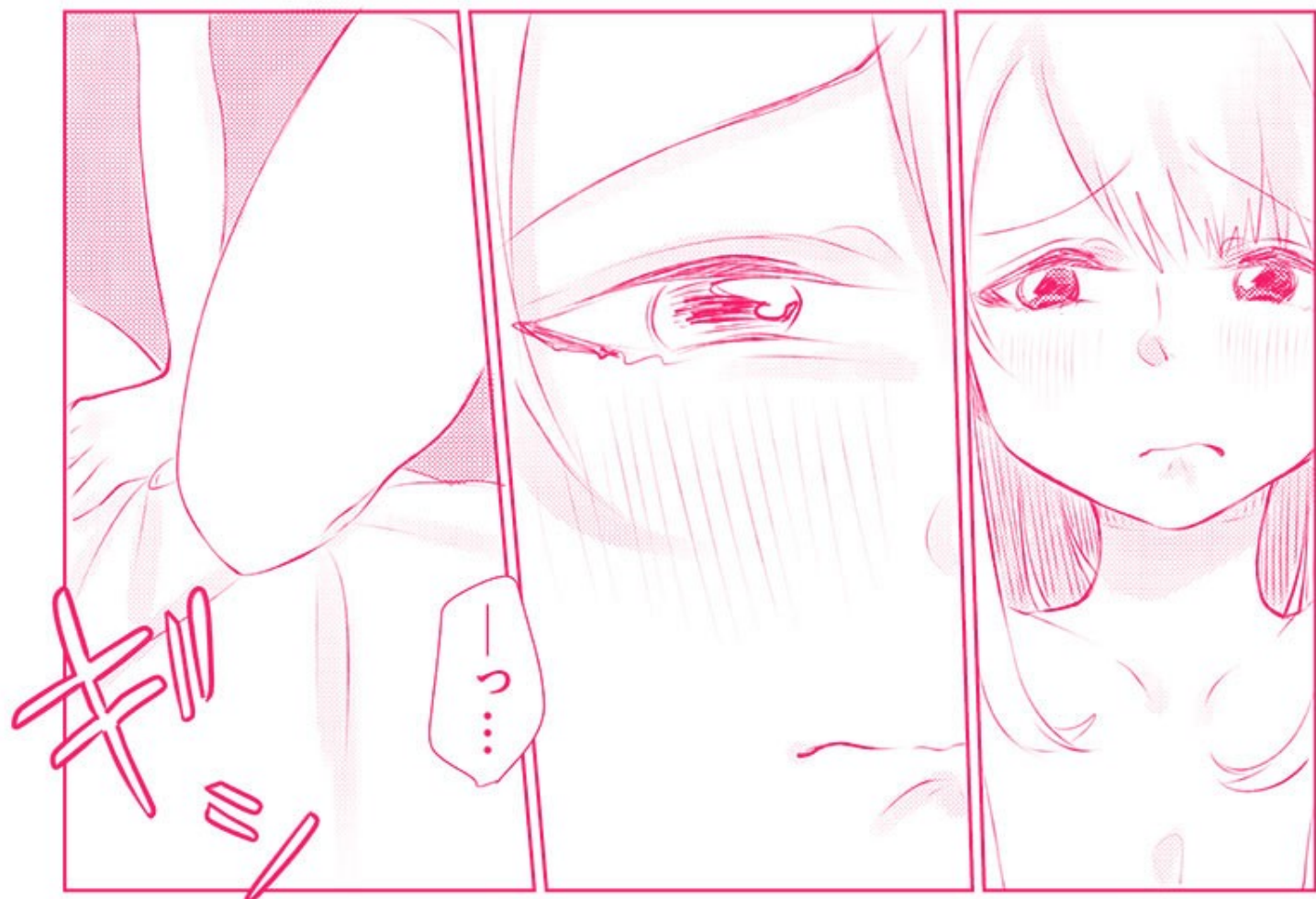


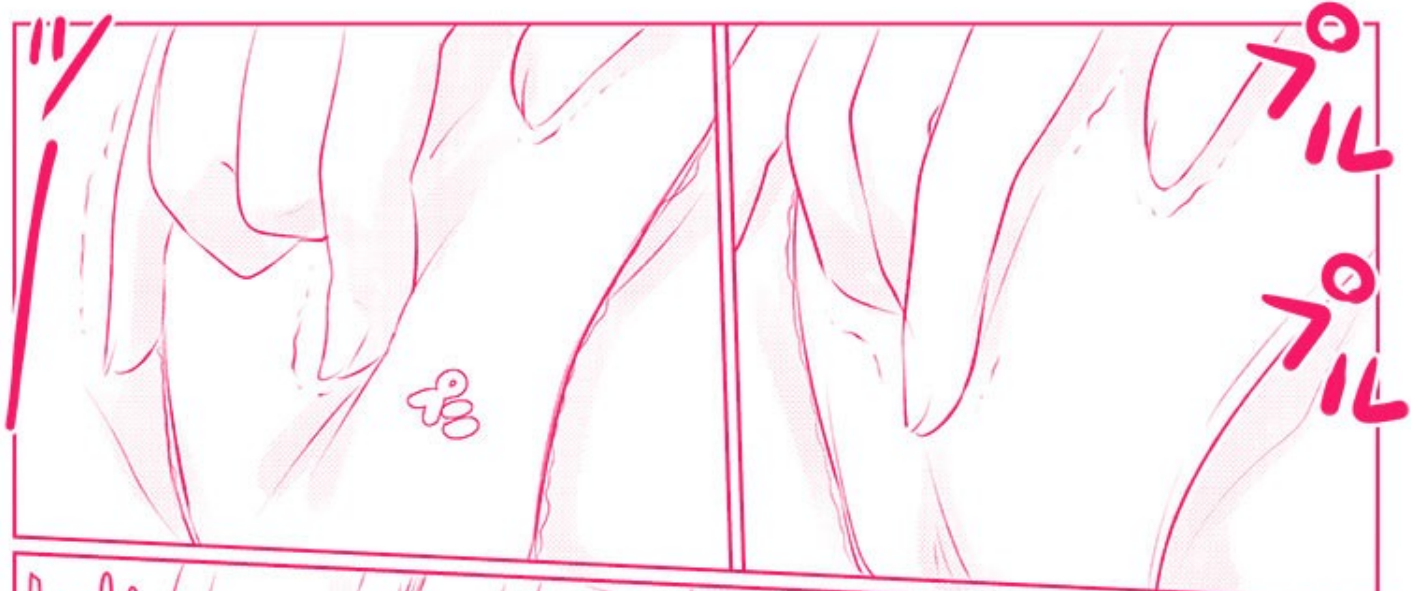


ケイタは
私が拒絶したのに
連絡をくれた

今度は私が
思いを示す番だった







ピル
ピル

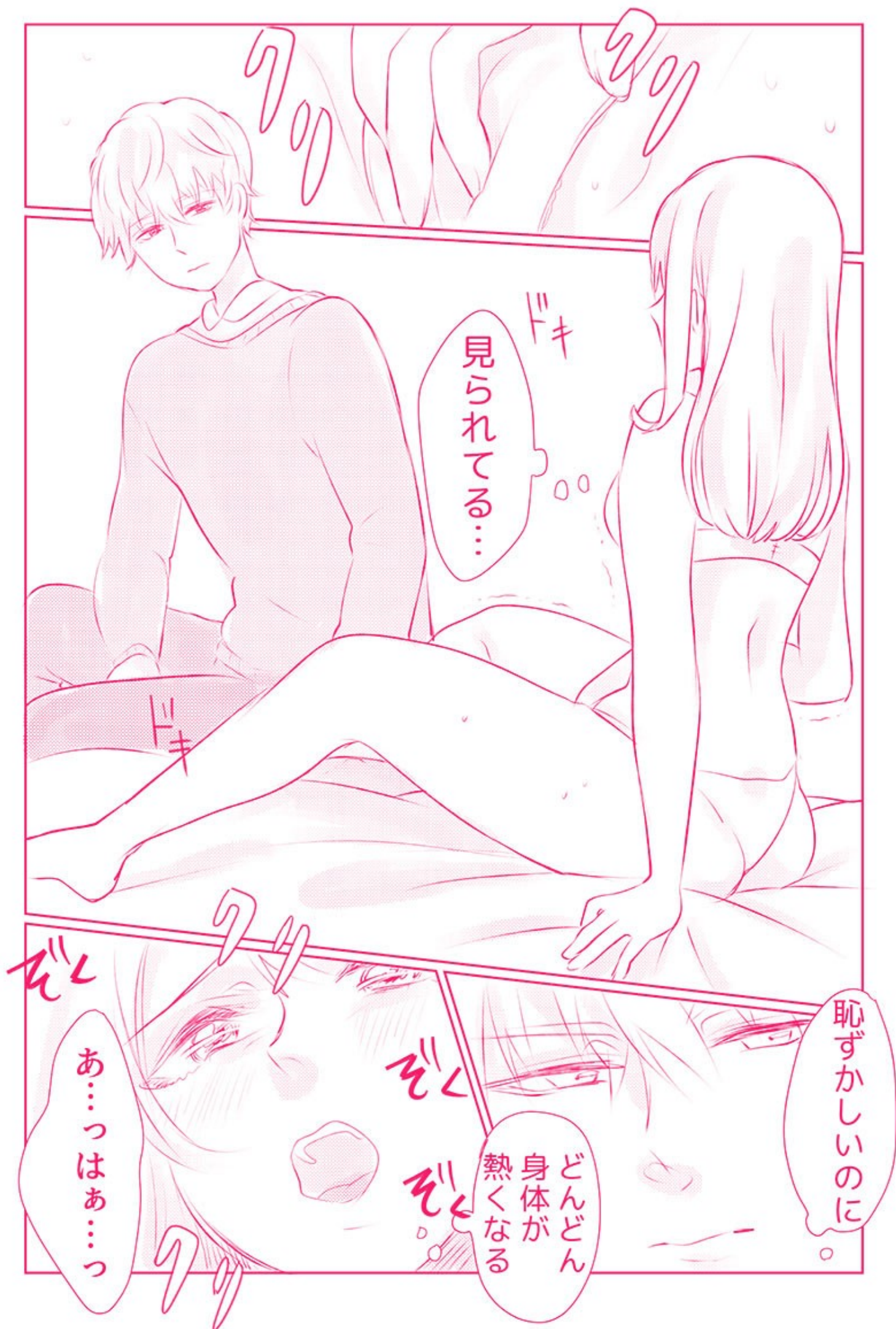


こんな格好を
ケイタに見られて
しまうなんて



恥ずかしさに
押しつぶされそうだが、
どういうわけか
体はどんどん
興奮してしまう

…っ



見られてる...

ドキ

ドキ

恥ずかしいのに

あ...っはあ...っ

どんどん
身体が
熱くなる

どろ

どろ



■ Hなエッセイ ■ シリーズ

『スノボ旅行で友人のSEXを覗いた話』
©鹿こぶちゃ/ひつじ子/Vコミ2021